

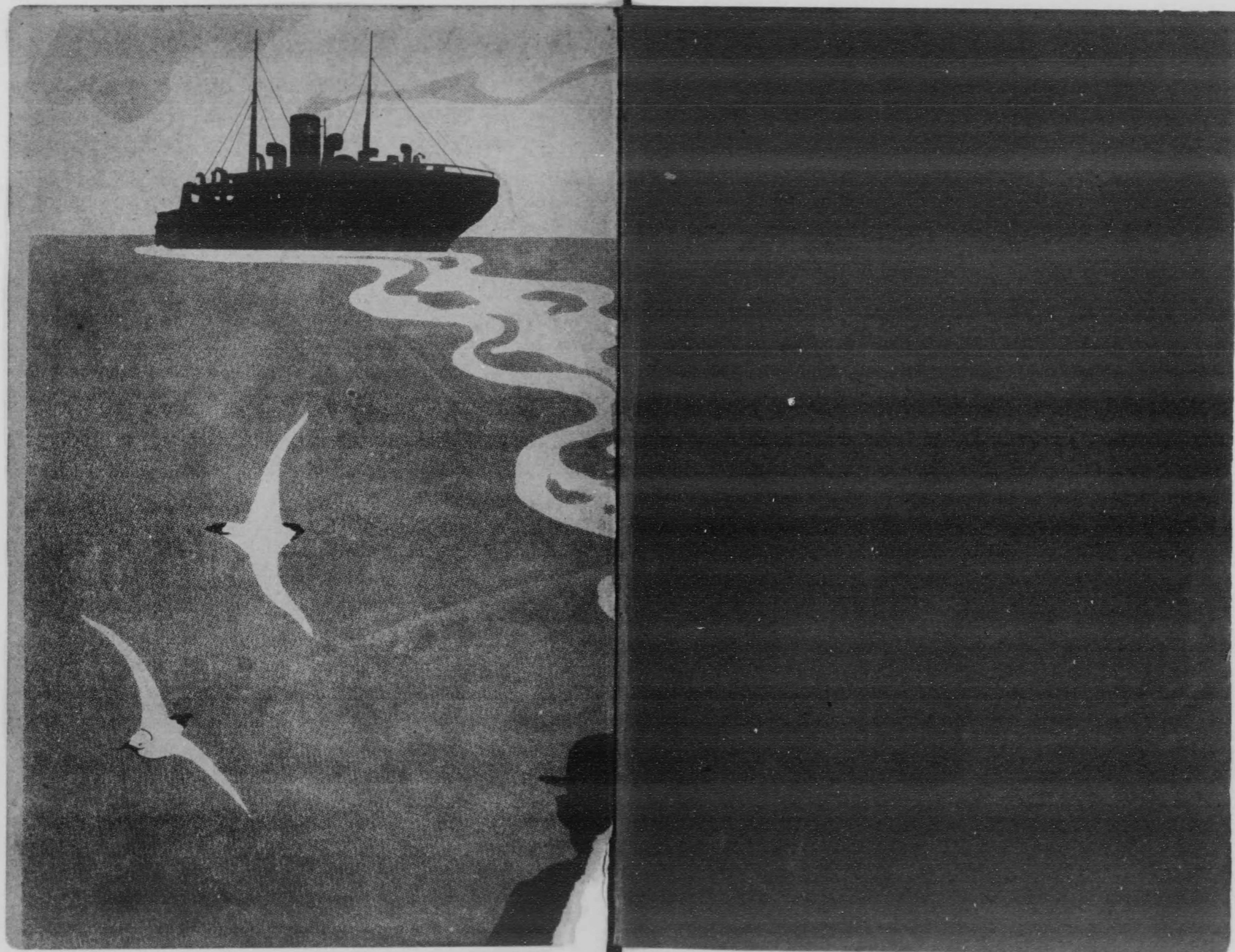
384

112



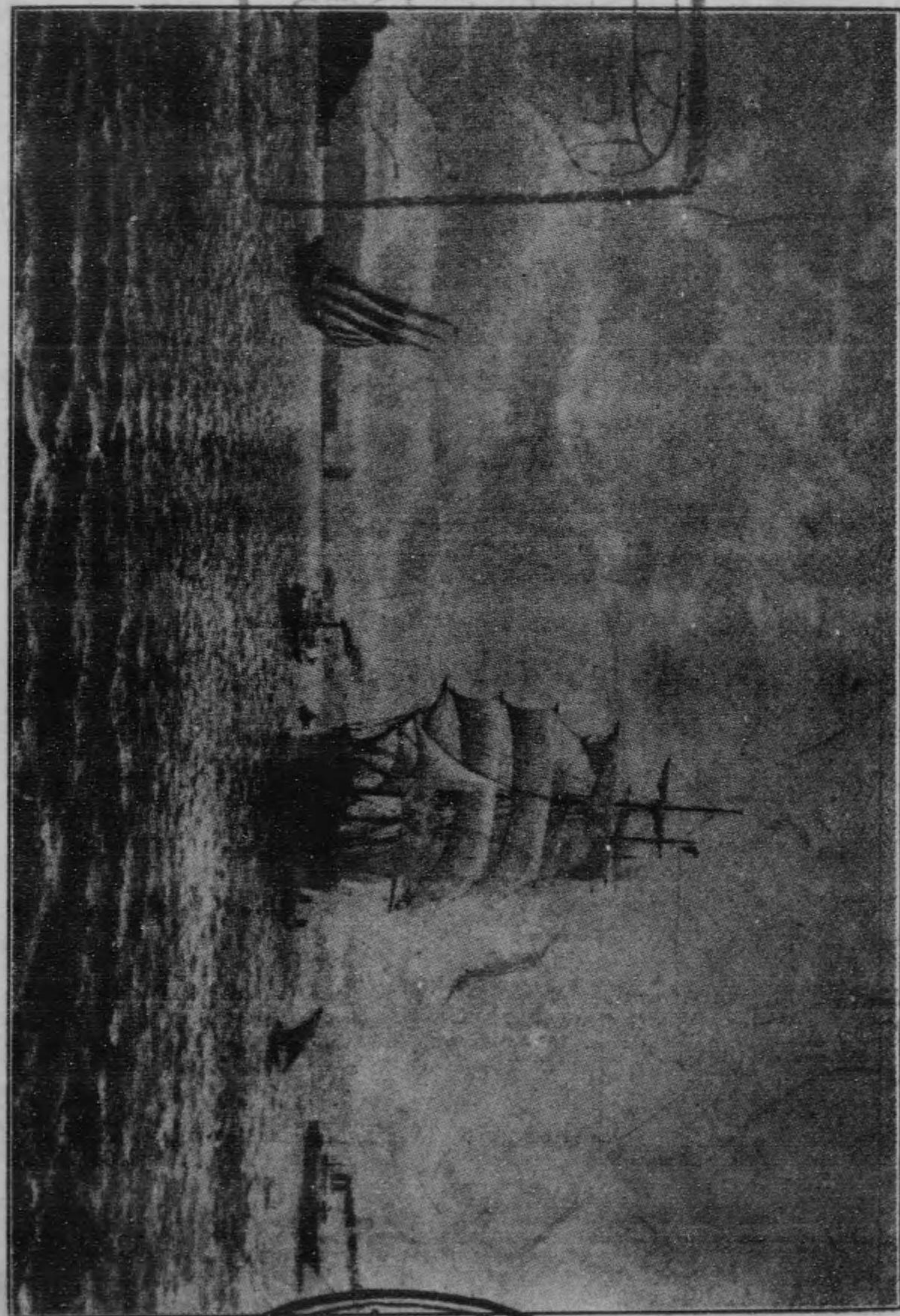
始





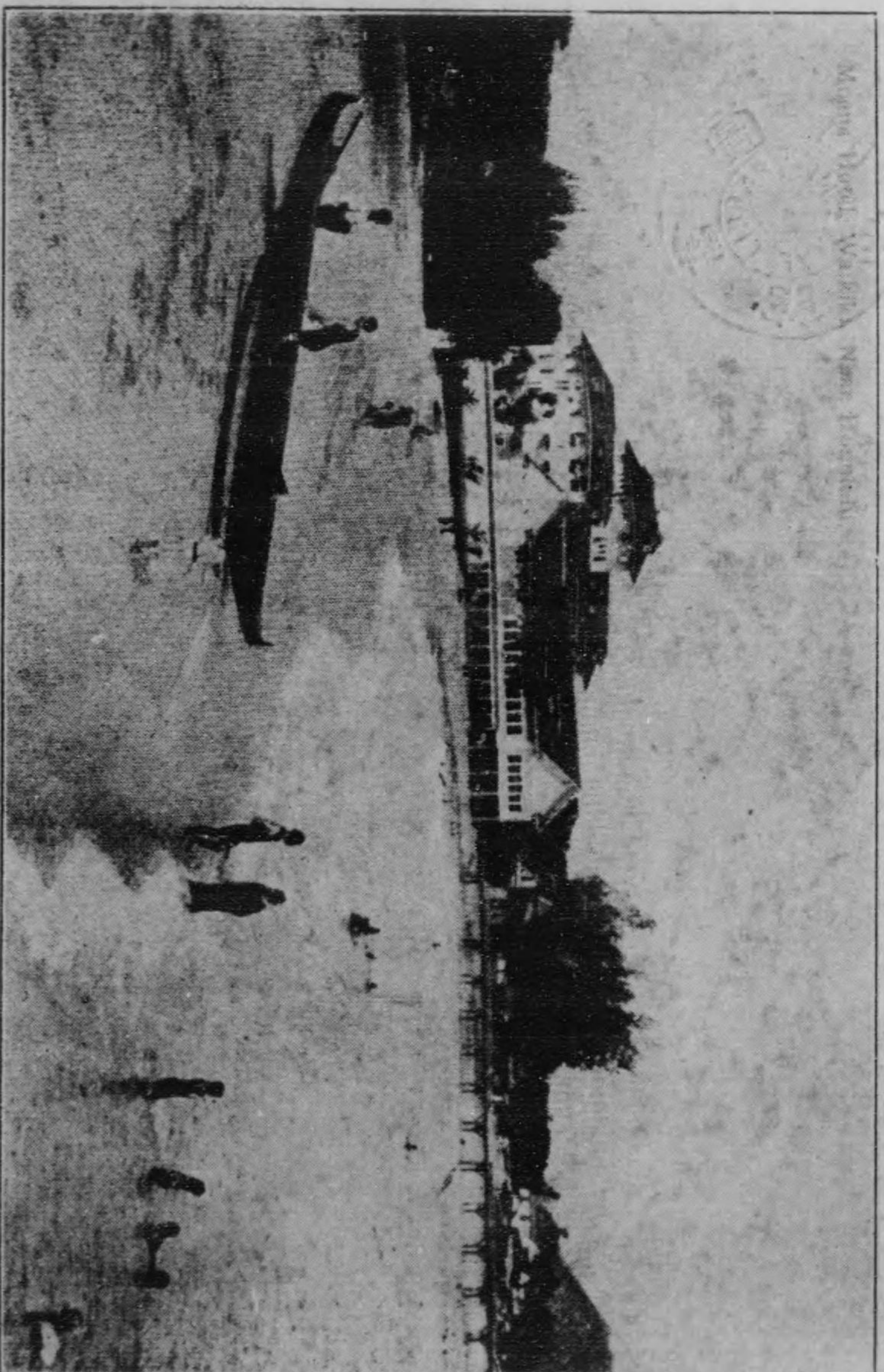
大正

384712

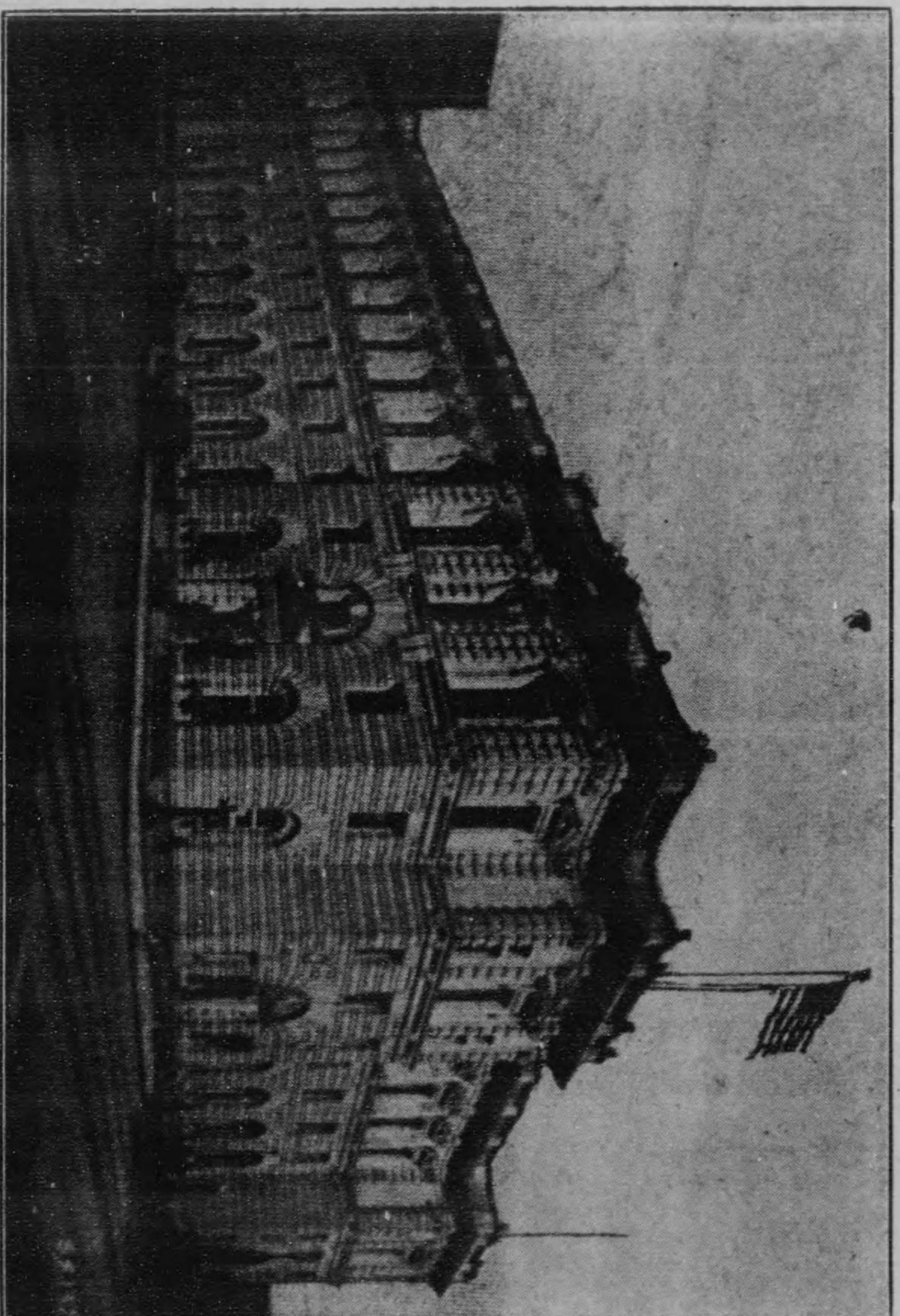


金 門 灣 頭 の 海 波

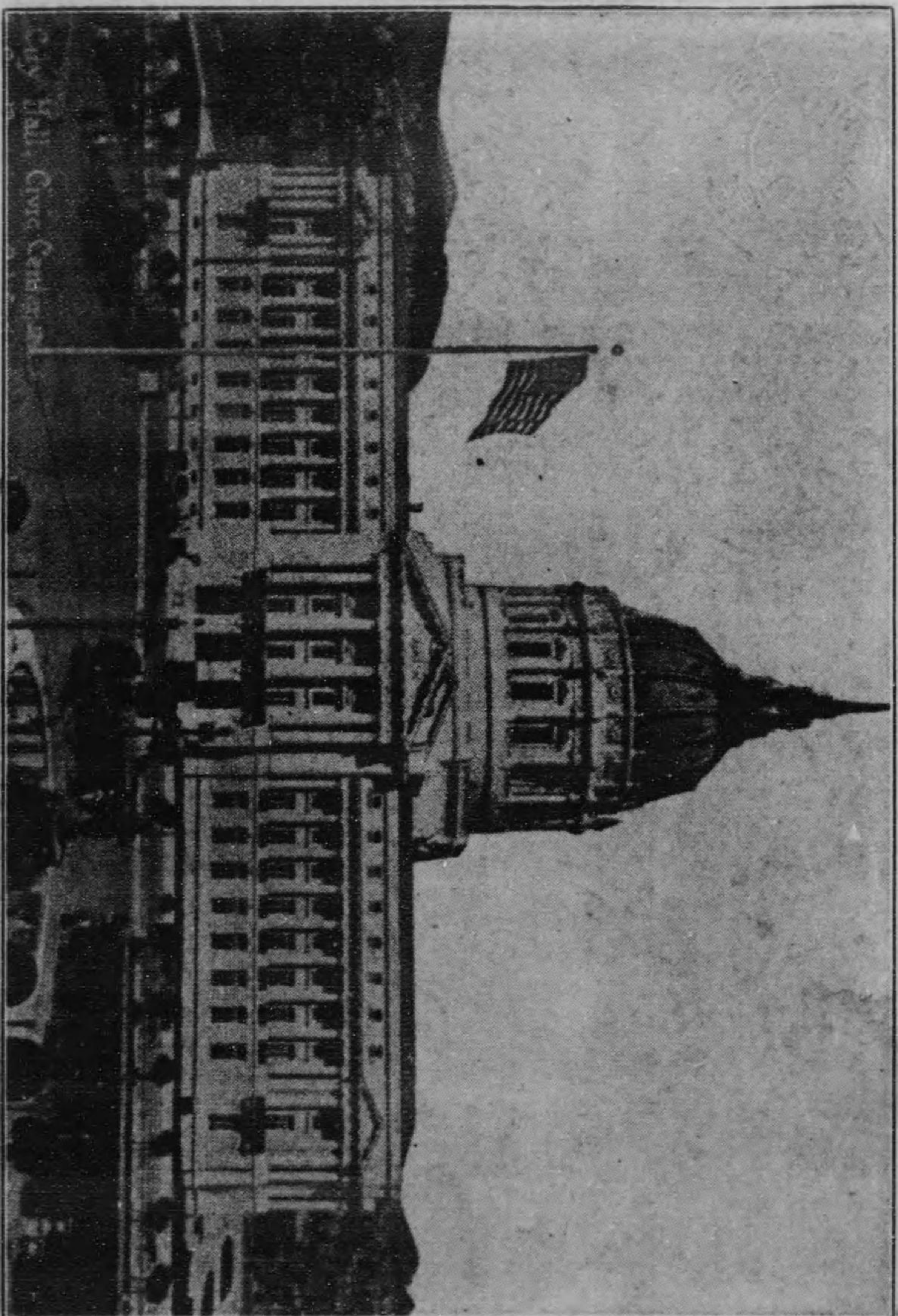
大正
8. 10. 28
内交



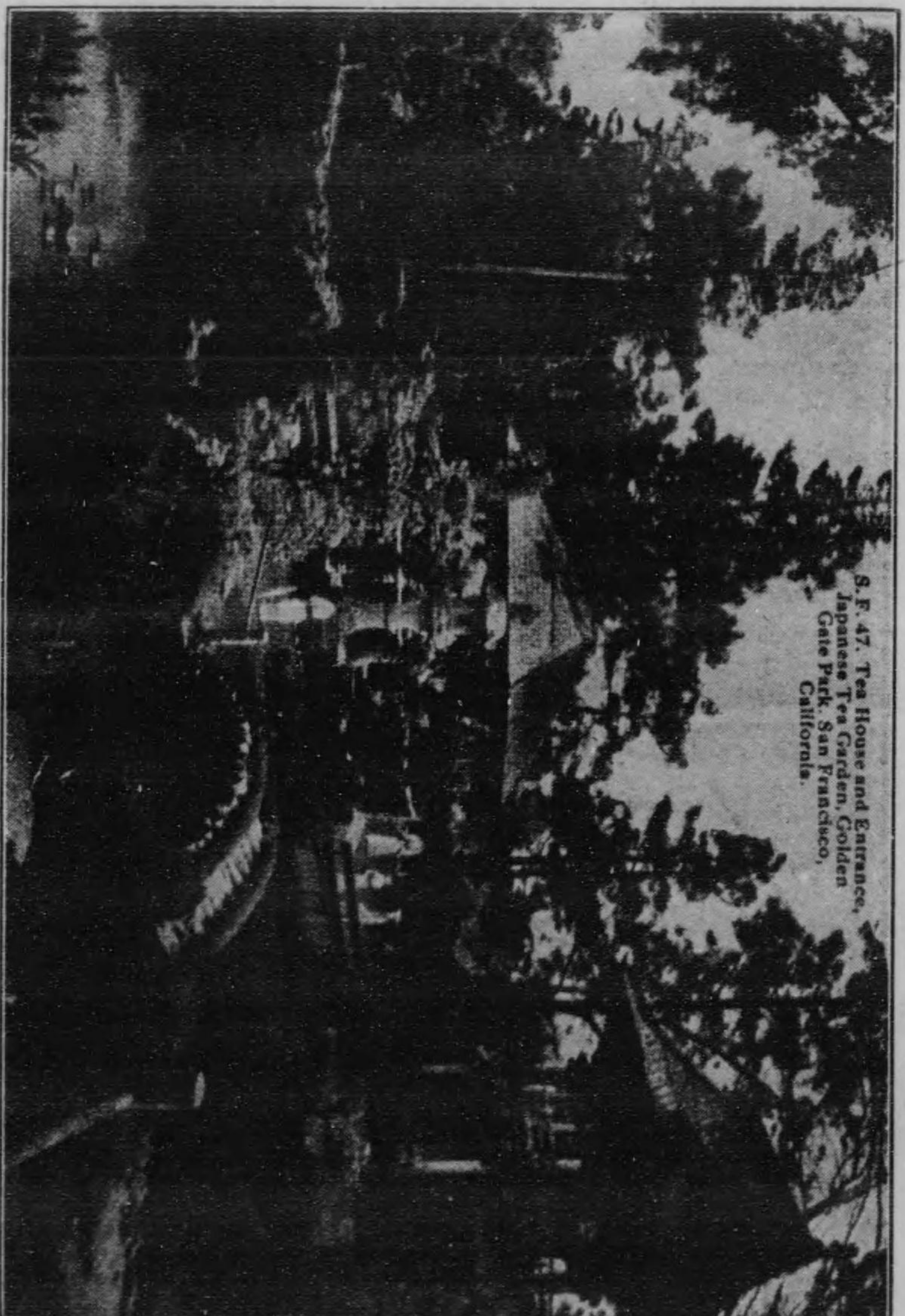
浴水海と近明ルヲホナアモ外郊市、ルノホ哇布



局 便 郵 市 港 桑

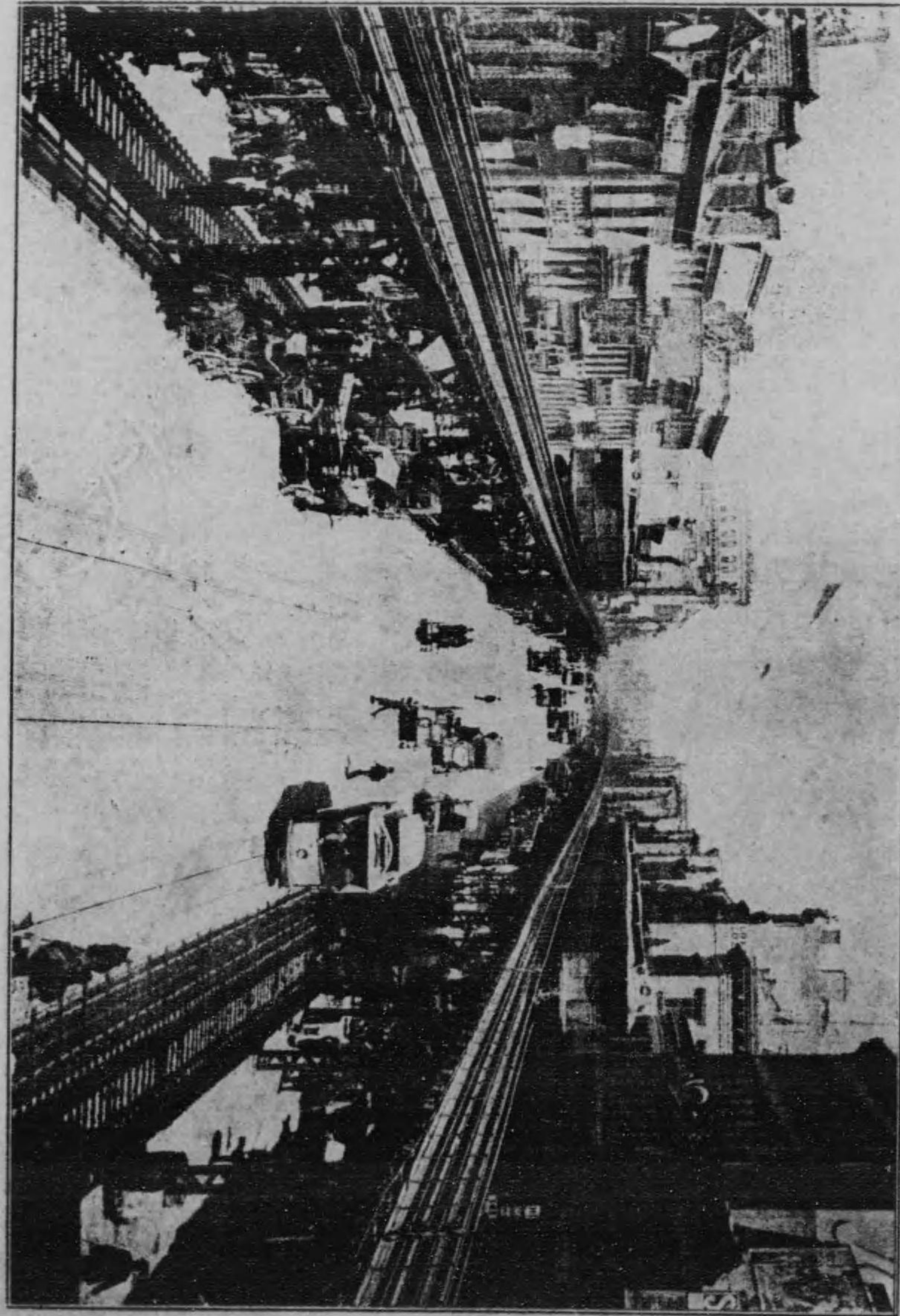


桑 港 市 役 所

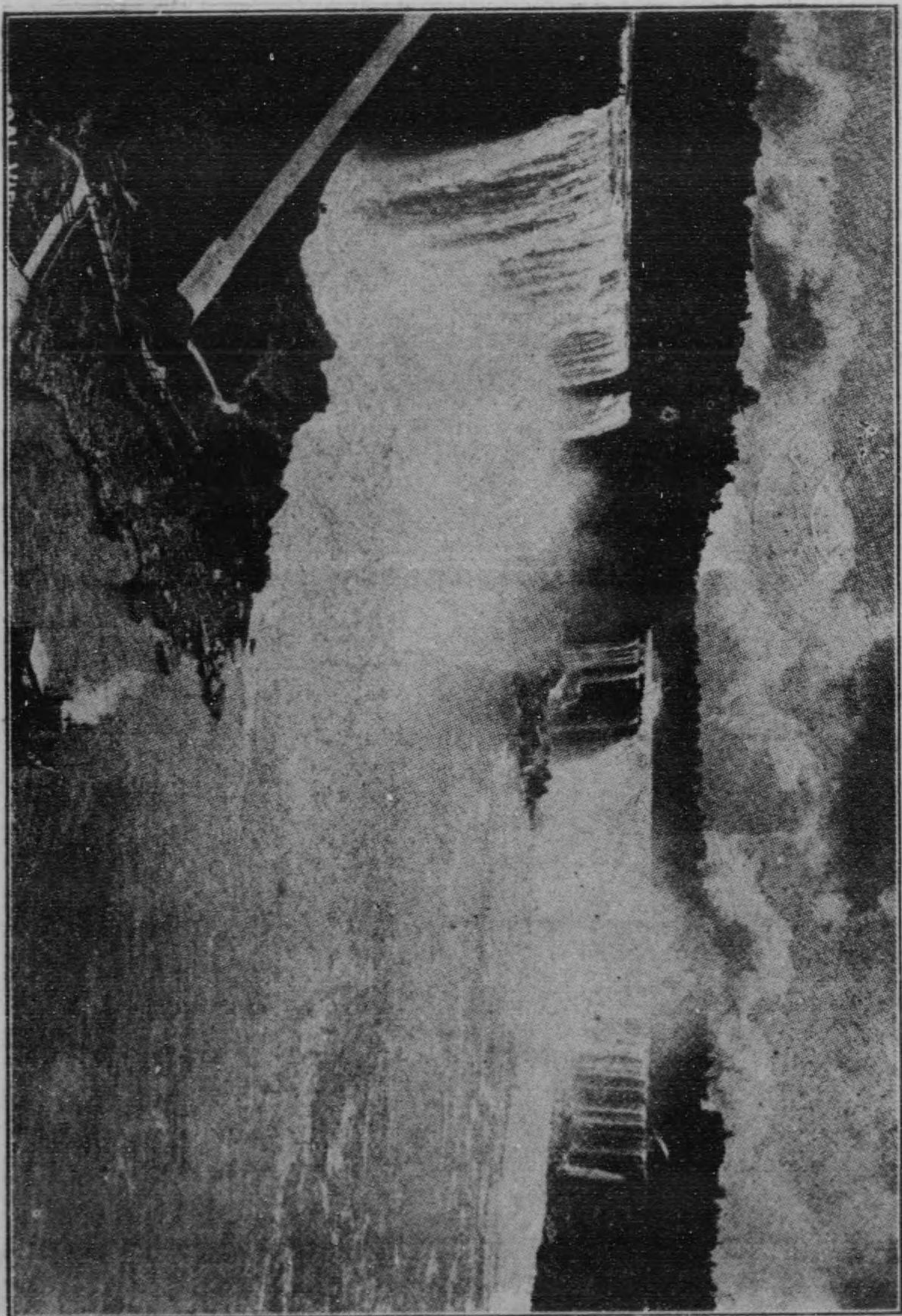


金 門 公 園 本 日 茶 園 光 景

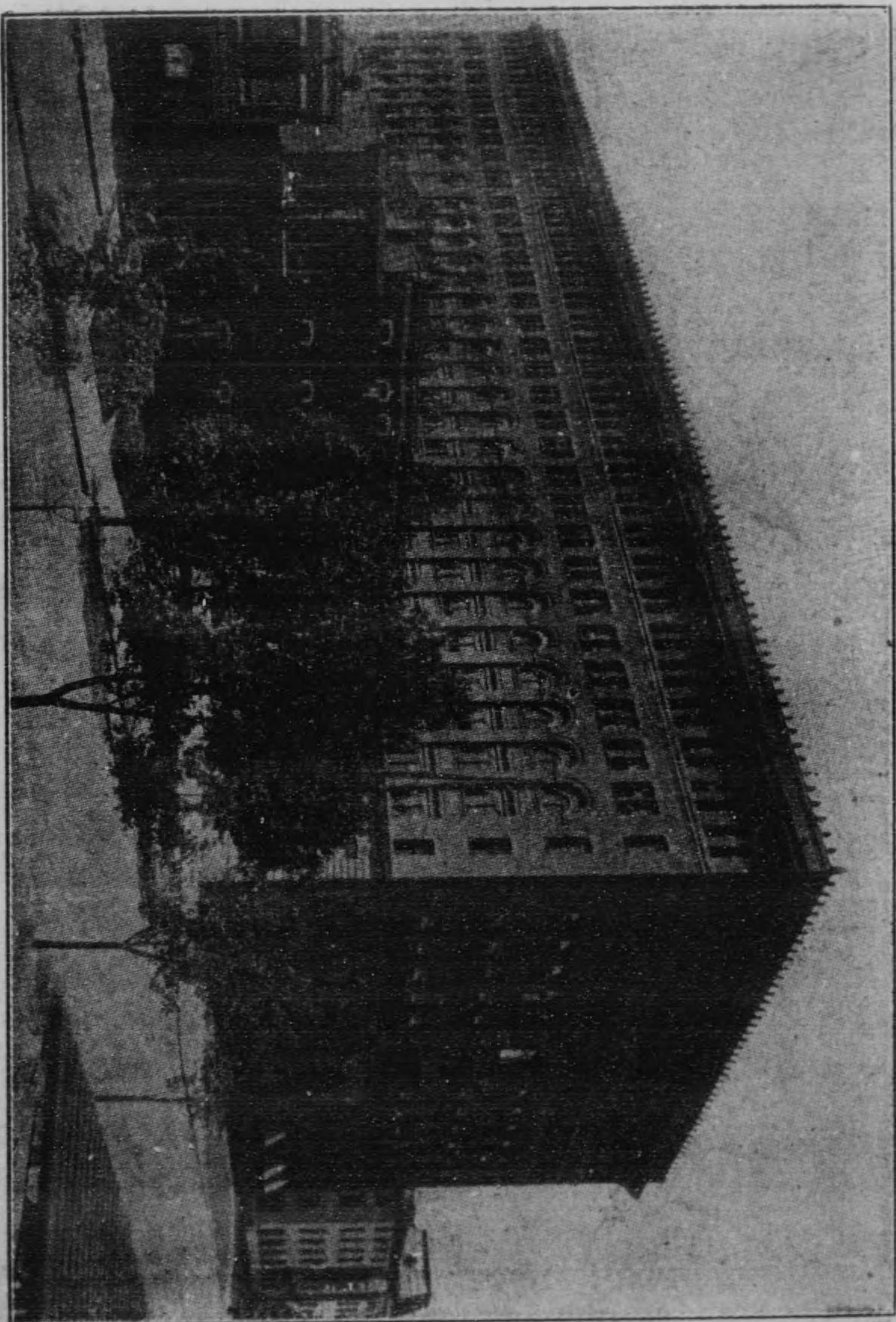
景光の市ソトスボ



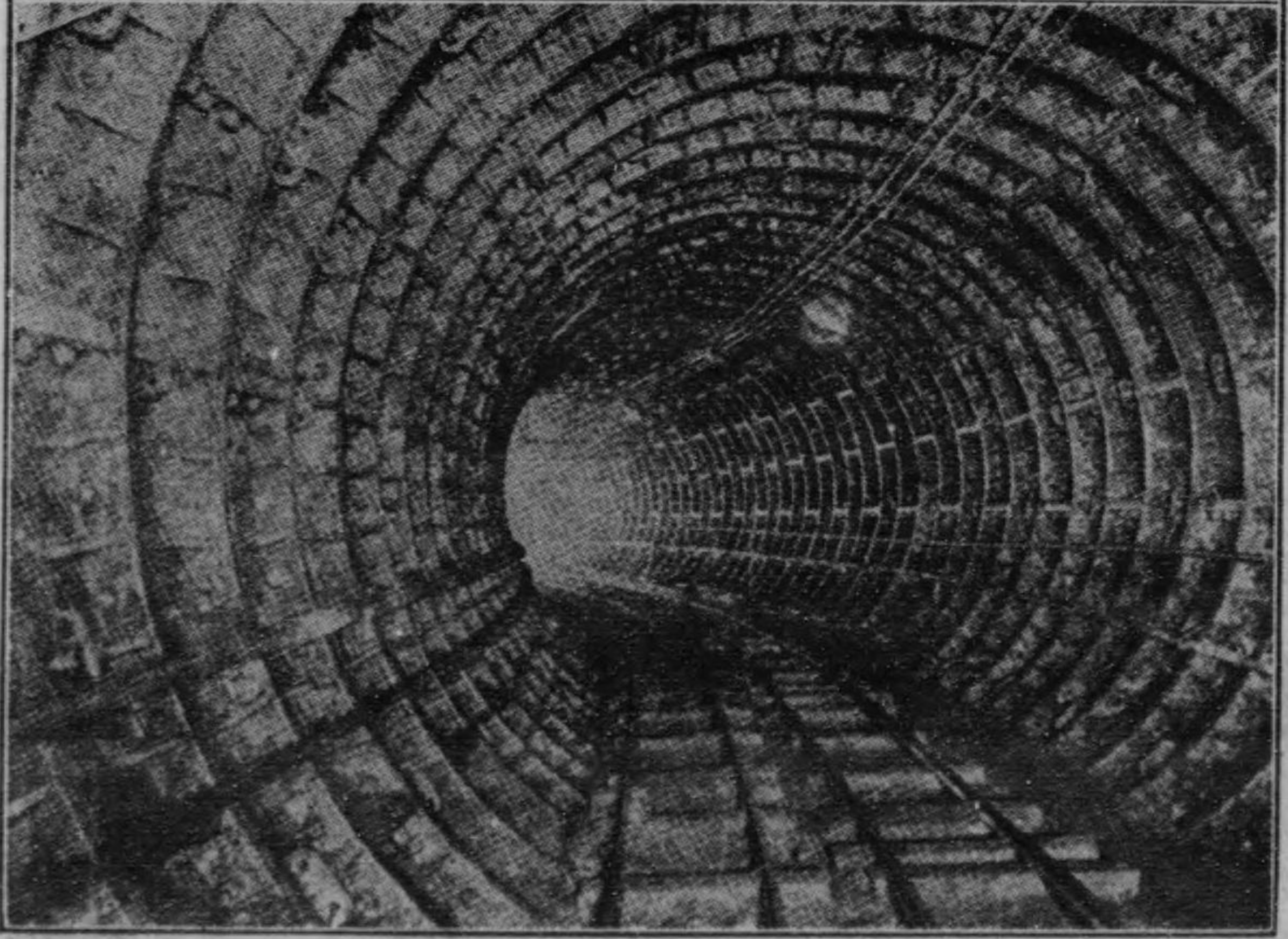
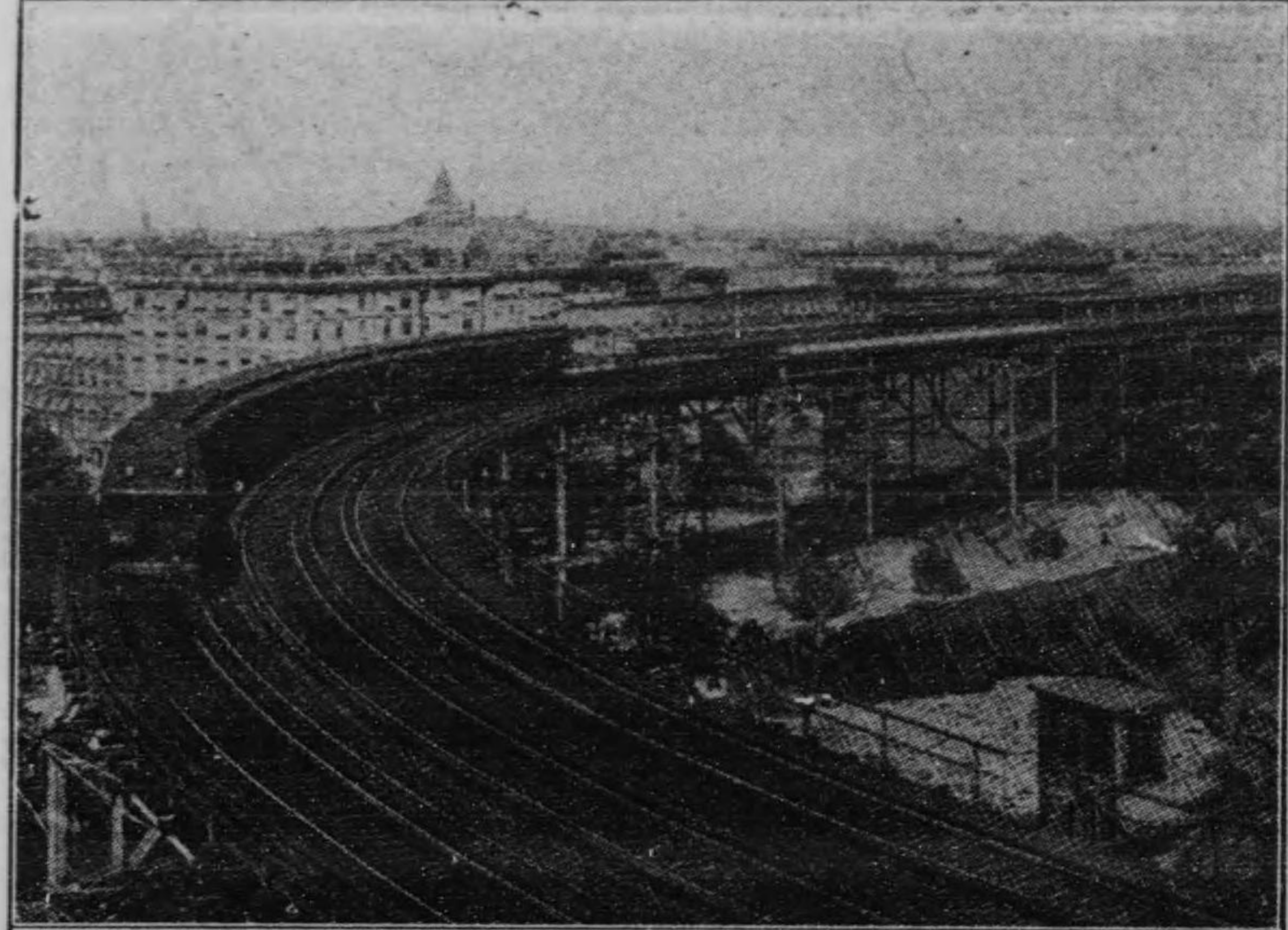
グンデルビスミス層高大最の市ルトヤシ



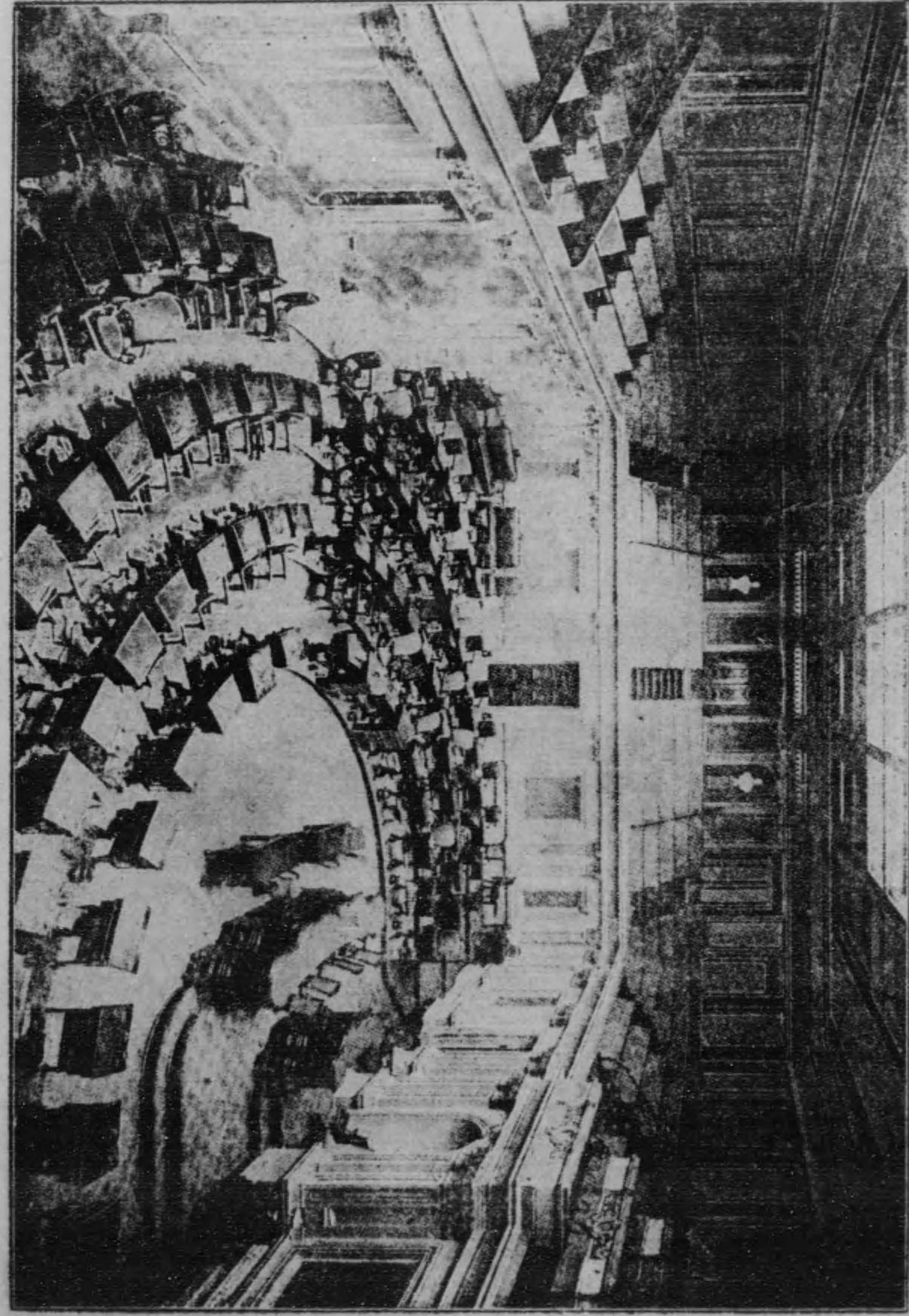
ナナイガハラ大瀑布の光景



世界第一華盛頓市印刷局

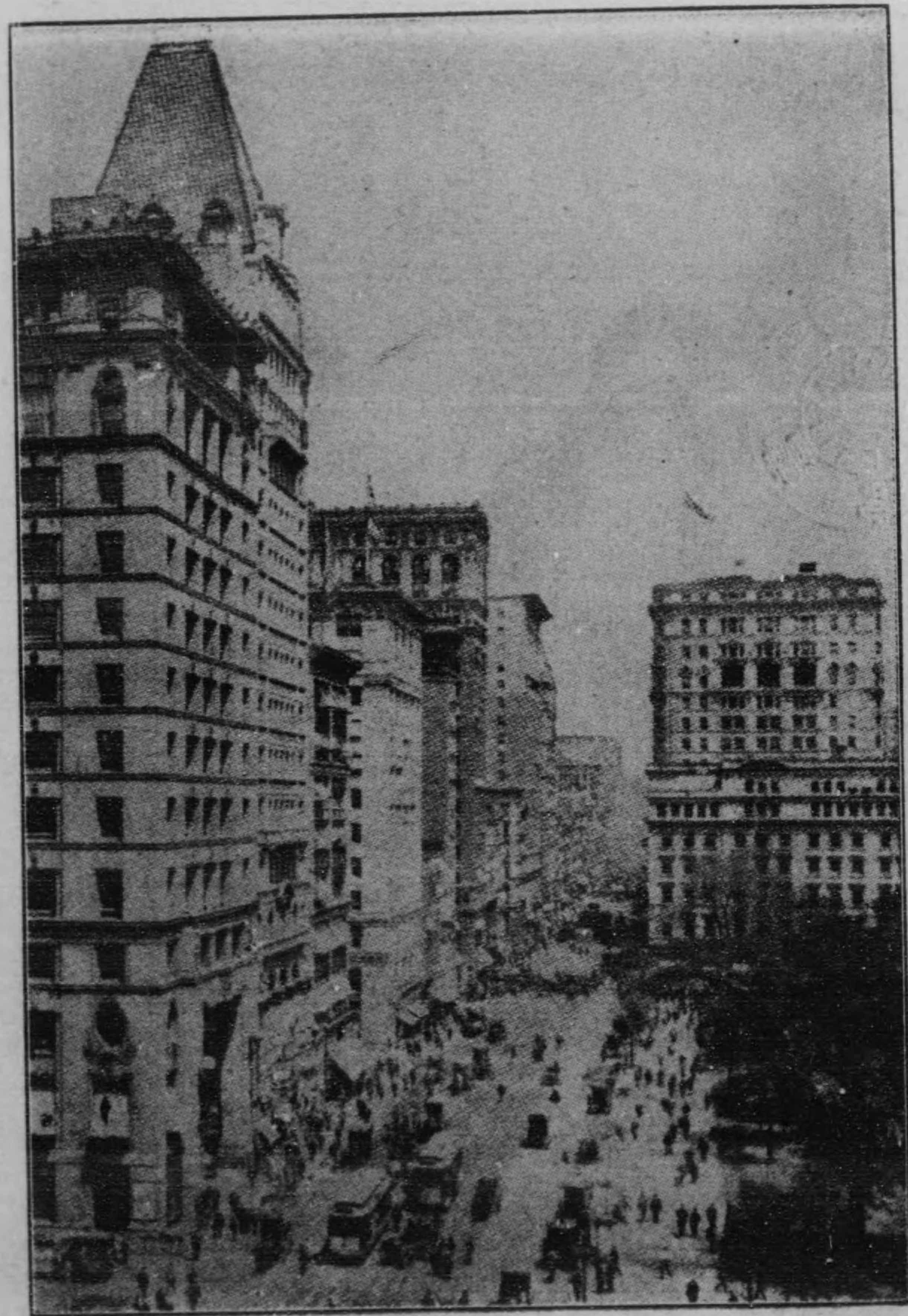
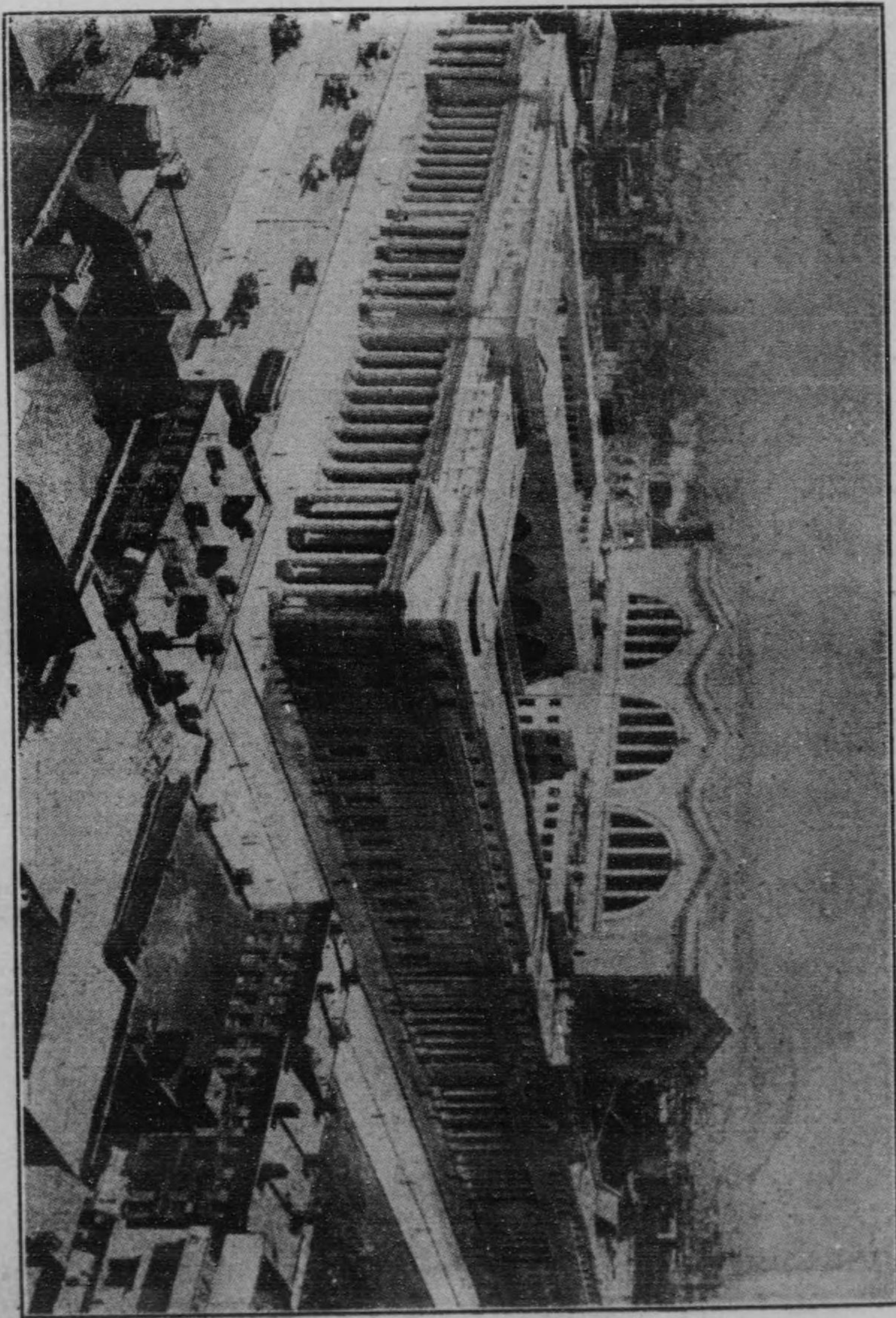


ルネント道鐵下地の底河市育紐



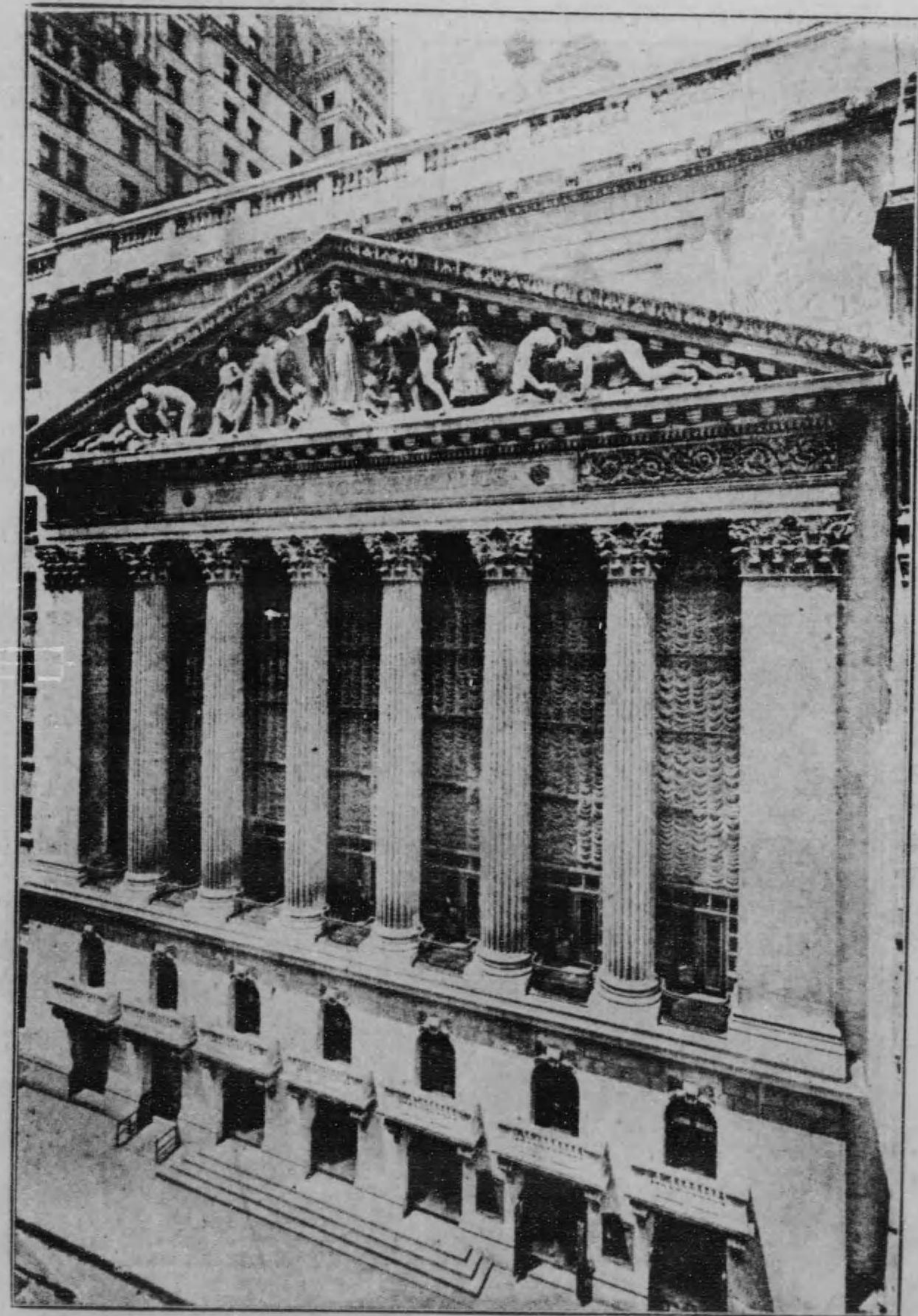
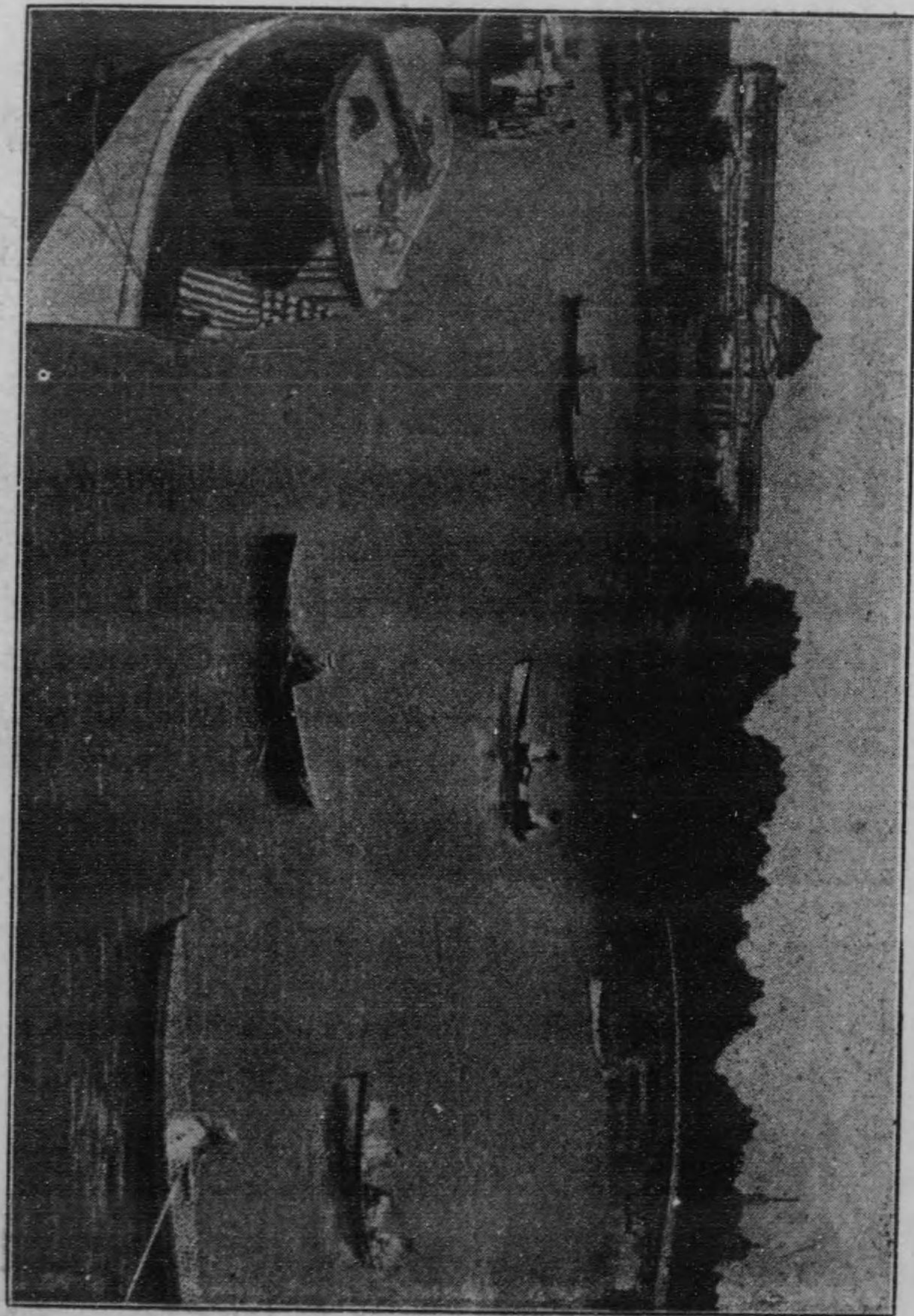
景尤の内堂事議會々國米

場車停道鐵ヤニワグルソソへ市育紐一第界世

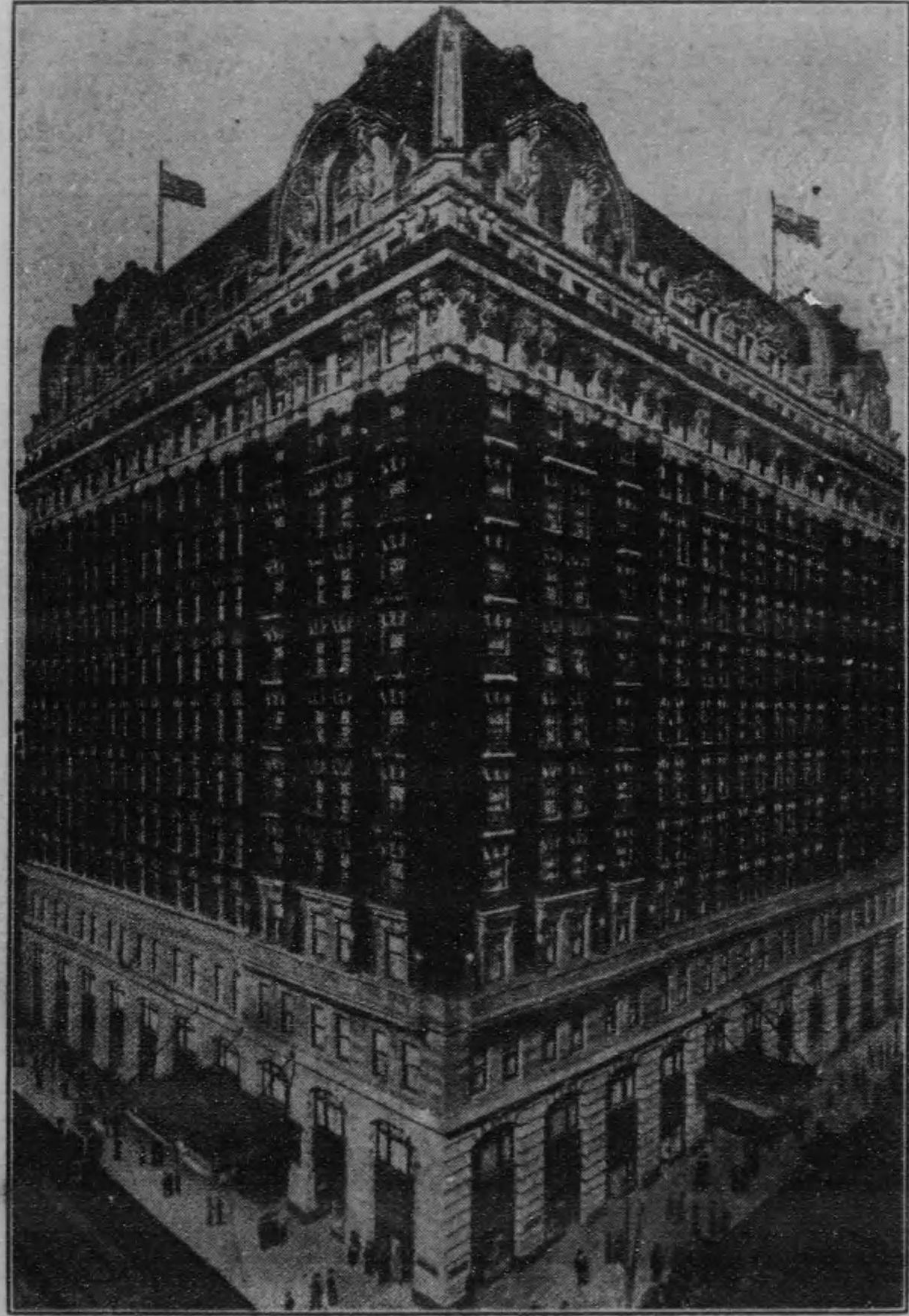


ひ販の街ーエウドーロブ育紐

部一の園公ソクヤジ市古俄市



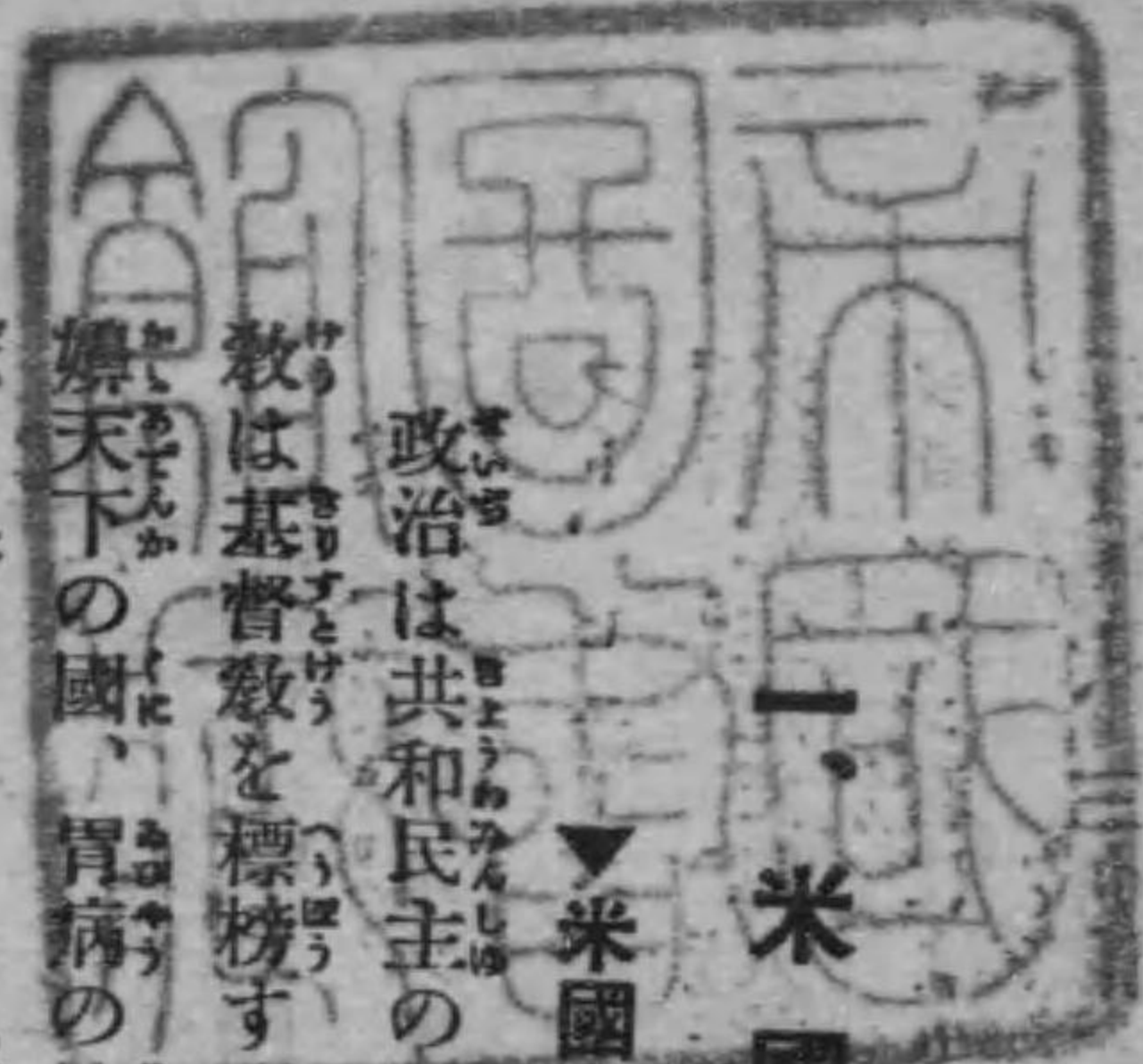
場市式株街ルヲウ市育紐の一第界世



スワハンマヤシ店貨物大物名古俄市

米國旅行案内

上村知清著



一、米國總説

▼米國とはどんな國？

政治は共和民主の兩黨によつて行はる、デモクラシーの國、黄金の有り餘る國、宗教は基督教を標榜する國、教育は自由研究と男女混合を主とする國、女の威張る國、娯天下の國、胃病の流行する國、公德と正義と博愛と自由平等を高調する國、野郎自大の國、モンロー主義の國、發明工業の隆盛な國、曰はく何、曰はく何、とたゞ簡單に擧げただけでも、五指や十指では數え切れない位な者だのに、米國とはどんな國？なんぞと標題を掲げて、米國と其國民生活の全般を記るさうとは、元來大それた考え

米國總説

とも申すべきであらう乎。只だ日本と米國との現今、或は將來の關係上、日本國民は必ず米國に就て知つて置くべきであり、更らに米國に遊ばんとする人は、是非共旅行前に米國と其國民に對する概念を養つて置く可き要あるを信じて、此の項目を設けた譯だ。

▼米國の政治、教育、宗教

片や現大統領ウキルソン閣下を頭領とする、デモクラチック、即ち民主黨、片やタフト、ヒューズ、ロツヂの徒を頂くレバブリカン、即ち共和黨の、二大政黨の外に、米國が生んだ偉人故ルーズベルトによつて組織され、前の加州知事今の排日上院議員ジョンソン君によりて、指導されつゝある、共和黨より出でたるプログレシブ即ち進歩黨が、三角形を畫いて經となり緯となつてゐる間を、禁酒黨だの、社會黨だの、さては基督教徒黨だのと言つた様な者が、模様を作つて、米國政治界を織り出してゐるので、此等の先生達が寄つて所謂自由獨立を標榜するモンロー主義の北米合衆國を形

作つてゐる譯なんだ。

何處も同じ秋の夕暮で、米國政治界にも葛藤があり、餘弊があり、腐敗と暗黒があるには相違ないが、日本の政治家と違つて、皆悉く相當の主義と、主張と、政策とを有して居り、且つ日本の議員さんの如く、然かく無學無盲でなく、皆な相當の教育を受けた連中が議會に席を有してゐるんだ。殊に米國人に感心なのは、彼等が一般に政治とは何んぞやに就て、定見もあり、智識もある事で、一介の勞働者に至る迄、滔々として一國の政策を論ずる處なんぞは、實に堂々たる者だ。そしてエレクシヨンデ即ち選舉日には、必ず業を休んで、選舉事務所に赴き、己がじし聖き一票を、理想の候補者に投ずる次第なんだ。

次に教育はと申せば、下はグランマースクールより、上は大學のボスマグラチエートコース即ち大学院に至るまで、何れも絶対自由の研究主義、男女混合教育を取つてゐて、生徒達をして趣味を持ちつゝ、面白く愉快に、研學せしむる様になつて居ると

共に、精神教育と身體の鍛錬に重きを置き、常に人格の高い宗教家、教育家を、聘しては、精神講話を乞ふてると共に、テニス、フットボール、ベースボール、さてはレスリング、ボクシング、端艇競争と、あらゆる運動を奨励してゐるので、米國の學生は實に堂々鐵の如き體軀の所有者であるし、且つ自由研究的頭腦を有する快活な氣象に富んだ青年男女であるのは事實だ、殊に感心なのは、米國學生の徳義を重んじ、友情に富んでゐる事で、此の爲めには自身を犠牲にしても、尙ほ厭はない事が屢々ある。

更に米國の宗教はと申せば、彼等の所謂基督教國で、キリストの教へた、犠牲、献身、博愛、仁慈の大精神は取りも直ほさず、米國建國以來繼承し來つた國是であつて、個人の信條であるとは、彼等が一齊に口にする處だが、扱て至米國中に實際斯の眞精神に生きる基督教信者が、幾人居るかと言ふ事になれば、曰はくナツシングと答へざるを得ないのを悲むので、往昔信教の自由を唱えて、英國を去つてポストン附近に移

住した、ビュリタンの子孫が、今では排日を叫んだり、黒人を死刑に處したりする様になつてゐるんだから天下は泰平だと申すべきだらう。

二、米國の歴史大觀

▼コロンバスの米國發見

マルコ、ポロの東方旅行記を讀んで發奮した結果、東洋諸國の交通と新大陸の發見を思ひ立つた我がコロンバスは人々の冷笑を省みず、東洋に達すべく、西に向つてスペインのバロス港を出發したのは、實に紀元千四百九十二年八月三日の朝であつた其の航海中の苦心慘憺と、辛苦艱難とは人の知る處だから、茲に之を述ぶる事を避けやう。かくして彼れは、渺茫果てしな大海原を航海する事二ヶ月、十月十二日に至つて水天彷彿の堺に、大陸を望み見る事を得て、驚喜措く處を知らず、之をサン、ナルバドル(救主)と名付けて、感謝の祈りを捧げたのであつた。之れを實に中央米國

の一部であつたのだ。然し彼は只だ中央亞米利加を知つただけで、北米大陸の天地は遂に之を見るを得なかつたので、始めて此の天地を踏んだのは、矢張りコロンバスと同じ伊太利人で、ジョン、カーボトであつた。扱て亞米利加大陸の發見は、歐洲人等に如何なる影響を與へたかと申せば、第一に彼等は之れによつて世界が圓る者だといふ事を確實に知る事が出来た。第二に亞米利加との交通により航海業が發達し商業が盛んになつた。第三に發見以前米、砂糖、棉花の如きは、之を東洋から輸入してゐたのだが、大陸發見後亞米利加から取れる様になつた。第四に、歐洲諸國は米大陸發見によりて盛んに領土擴張、或は掠奪争ひを始むるに至つた。

▼英國野心の手を延ばす

一度亞米利加大陸が發見されると歐洲國民の間には期せずして、亞米利加熱が流行し始めたので、國家としても又た之を黙視せず、スペインは、西印度諸島からフロリダ地方にかけて盛んに移殖民を送り、佛蘭西はミスシッビー河を中心として、セント

ローレンス河までに手を延ばし、オランダは紐育を中心として、其附近に植民し、扱て英國は太平洋の沿岸を目的として、ドシムと移住民を送つた譯で、此等が入り亂れて、永い間争ひを續けてゐたが、遂に英國と其の國民とに征服されて仕舞つて米大陸は今やヴァジニア、プリマス、ボストン等を中心として、隆々朝日の昇る如き勢で發展した英國移民の支配下に屬するに至つた。

▼米國獨立戰爭起る

かくして英國の支配下に屬するに至つた米國々民は、遂に之を脱すべく、獨立戰爭を起した譯だが、今其原因を述べれば、(一)クロムラエルが制定した航海條例は、其實有名無實で米國に住つてゐる人民達は餘り之れに束縛されてゐなかつたのに、ジョン三世が位に即くに至つて嚴重に之を實行し、英國の利益を計らうとしたので、米國市民は之に異議を申立てたが、英國政府當事者は耳を傾けなかつた、(二)當時英國の國債は、實に山積してゐるし、財政は頗る窮乏してゐたので、其財源を米國に求む可く、

植民地に課税を實行した、之れには實に亞米利加國民が一齊に起つて反對した譯で、其の結果、ボストン市に於て始めて獨立の聲が起り、自由の鐘が鳴り亘つて、遂に本國と子戈相見えざる可らざるに至り、其の結果一千七百八十三年、巴里に於ける平和條約の締盟となつて、米國は完全に獨立を承認され宣言するに至つた。

▼米國全く統一さる

獨立戰爭以來、亞米利加は着々として統一の實を擧げ、千八百〇三年三千萬圓を投じてルイジアナを買ひ取つたのを手始めに、千八百十九年には、フロリダを求め、千八百四十五年には、メキシコよりテキサスを掠奪し、千八百四十六年には、オレゴンを分割し、千八百四十八年には、黒西哥から又たく、キヤルフォルニアと、ニューメキシコを奪ひ取り、千八百六十七年には、露西亞からアラスカを購ひ、千八百九十七年には、布哇を占有し、千八百九十年には比立賓とサモア諸島を占領して、茲に現今の堂々たる北米合衆國が出来上つたのだ。

▼米國の各都市に附せられたる名

一體米國人といふ先生達ほど、ニツクネーム、即ち綽名を好む國民はなく、友人にも、兄弟姉妹にも、其々の綽名を附して、夫々の面白さと親しみとを見せてる次第だが、各都市にも又たニツクネームを興へて、呼んでる。例を示せば左の如しだ

- ニューヨーク市 エムバイヤー市、メトロポリス、ゴサム
- ホストン市 ビーリントン、エゼンスオブアメリカ
- チカゴ市 ウキンダー市、ガーデン市
- バルチモア市 モニユメンタル市
- ブルツクリン市 シテীবオブチャーチ市
- クリーブランド市 オフォーレス市
- 羅府市 メトロポリスオブウエスト
- ミネアポリス市 フラワー市

- ヒラデルヒヤ市 プラサリイラヴ市
 - 傳馬市 ブレインズ市
 - ポートランド市 ローズ市
 - ヒツツパーク市 アイオンシチー、スモークキング市
 - 桑港 ゴルデンゲート市
 - シヤトル市 クインシテイ
 - カンサス市 ハートオブアメリカ
- ざつと此んな者だ、此の外色々の都市に附せられた種々の綽名があるが、茲には之を略する事とする。

▼米國々民の美點と長所

何んだのかだのと言つて見ても、實際米國人には豪い處や、長所や、美點が多いのは事實で、今之を述べて見れば左の如し。

一、獨立自由の精神 所謂ビユリタンの子孫だけに、彼等は口を開けば必ず自由獨立個人の權利、尊嚴、人間の價値を唱え、且つ之を實行してゐる、早い話が米國の各都市に行つて見ると、到る處の停車場や道路の角で、十四五歳の子供達が大きな聲で、盛んに新聞を賣り歩いているが、此の子供の中には中流以上の生活を營んで居る家庭の子供達が澤山交つてゐるのは事實で、然かも之れは父母が勸めてやらせてゐるんでなく子供達か獨立を欲する心より、自ら進んで従事してゐる譯で、實際米國人は生れ落ちるとすぐに、自由獨立の精神を受け、且つ其空氣の中に育ち、然して其の事實を行ひつゝあるのだ。然ればにや、家に百萬金を有してゐる様な處の息子でも、或は朝夕皿洗ひをやつたり、夏農園に出て稼ぎためたりした金で、獨立しながら勉學し、父母の厄介にならぬ者が多い。彼等はかく自主獨立の風に富んでゐるので、他人から干渉されたり、又は餘計な世話をされるを嫌がる事甚だしいし、又人にも決して干渉しないと言つた風だ。

一、剛健瀟灑の氣象 兎角人間といふものは金が貯れば贅澤になり、奢侈になり、さ
ては柔弱に流れた果ては、婦女子に戯れたり、飲酒や賭博に耽けつたりする者だが、
米國人と來ては、今や世界中の富を掌中に收めてるにかゝはらず、頗る強健にして、
瀟灑の氣象に富んでゐる。卑近な例だがユニバーサル活動會社のエデーポロや、
ウキリアムダンカンなんといふ俳優等の人間離れした危険な藝當は諸君も内地の活動
寫真で見た事があるだらう。あんな際どい事は逆でも膽ツ玉の小さい日本人なんぞに
は、出來そうもないではないか、然り彼等は實に危険を好み、又た之を恐れぬのだ
今度の戰爭で亞米利加の兵隊が一番強よかつた事實に徴して見ても、如何に米國人が
強者たる誇りを有してるかが分るではないか。もしそれ亞米利加の各大學で行はれる
ラグビー式フットボールの獐猛にして危険なる、然して各都市で大流行のボクシング
競技の命がけなる事實を見れば米國魂の豪らさか分るに相違あるまい。一體米國人
は、戰爭を苦痛だなんぞと思つてゐないのは事實で、彼等は之を一種のレキシーシ

ヨんだと考えてゐて、氣か腐れば一と戰さしても、却つて好い氣休めになる位にしか
思つてゐないんだ。

一、快瀟でニコ／＼してる ユーモアを有し、且つ之に富んでる事は、慥かに米國
々民の一大特色だと言ひ得る、彼等は實に高尚で、耳障はりしないジョークを言つて
は人を笑はせ、自分でも喜んでゐる。常にニコ／＼しながら嬉しそふに仕事に従事し
てる、然り彼等の生活には餘裕がある。愉快で快瀟だ。コセ／＼してゐない。こんな
譯だから上、中、下流の社會一般を通じて、無暗に威張り散らす者もなければ、ビョ
コ／＼する者もなく、何れも「ハローチャレ」ハロージミー」であつさりと事を濟
ませて仕舞ふと言ふ譯で、誠に以つて簡單明瞭だ。だから英國人か佛蘭西人さては日
本から始めて行つた人なんぞは、亞米利加人は餘りユーモアに富んでるから、不眞面
目だなどと誤解するが、之れてゐて仲々眞面目で正直だから豪らい者だ。

一、服従の精神 個人の自由と獨立を主張する彼等が一面服従の精神に富んでるに至

つては、實に敬服せざらんと欲するも得ざる譯だ。現に著者が滯米中、米國は獨逸に戰を宣し、國を擧げて捷たん事に之れ勉めてゐた頃、徵兵令を布くと國民一般に之れに服従して、不平の聲を擧ぐる者なく、加ふるにウオーク、オア、フワイト法といふのを制定して、身體の壯健な者は、野外に出て切々と農園勞働に従事すべし、左もなければ戰爭に行けといふ命令。もし之に叛く者は片の端しから監獄にうち込んで仕舞ふべし、といふ法律だつたんだが、米國々民は善く之に服従し、又た善く之を實行してゐたので、著者などはもし日本に此んな法律が出来たらどんなだらう、華族さんの御息などは、差し向き早速御不平満々とあるだらうに、あゝ米國といふ國と其の國民は流石に豪らい者だと、つく／＼驚歎せざるを得なかつた者だ。

▼善く働き善く休む米國人

米國人に就て、誠に感心だと思はれるのは、彼等が善く働き、善く休む事て、例令ば事務所なんぞに出て居ても、時間中は傍目もふらず、切々と仕事をした後、時間が

來ればピタリと止めて仕舞つて、家に歸つて例のスキートホームと稱する、團欒の味に舌鼓を打つといふ譯だ。

此れが一週の間としても、六日だけは、盛んに奮闘し、日曜には決して煩はしい仕事なんぞに頭を悩まさず一切を忘れた上、親子眷族打揃つて、物見遊山に出かけたり教會に行つて精神的な糧を味つたりする譯なんだ、換言すれば活動時と、慰安時、奮闘時と、休養時の區別がキチンとしてゐるのが、誠に以つて心持が善い。偕て米國の大祭日はと言へば、先づ獨立祭は、サンクス、ギーピングデー、さては、ワシントン日に、リンコルン日、其他十二月二十五日のクリスマス、或は復活祭グッドフライデー等であるが、獨立祭とクリスマスの外は、休業せぬ者さえある位、祭日は餘り重んぜられて居らぬ譯で、此れは米國の歴史が未だ新らしく、祭日なんていふ者に對する欣慕、回顧の念が薄い爲めといふよりも、寧ろ國民一般が、日曜には必ず休む習慣をつけてるので、祭日を左程待遠く感んじない爲めだと言つた方が適當であらむ。

此の外大統領就任日、及び其の前日併びに大統領の選挙日には、國民一般業を休み國旗を掲げる習慣となつてゐるし、更らに各都市には、各定めたカーニバル祭、市祭日、州記念日など言ふ様な者があつて、州知事或は市長等の布令に従つて、州民、市民等が業を休み事になつてゐるし、此んな時には多くは米國名物として有名な、例の行列をやつて、市長さんや知事さんを筆頭に、人民の代表者、有志者の群れが思ひ々々の出てたちをしては、行列に加はり、市民は堵を成して、兩側に併んで之を見物しながら、歡呼の聲を擧げるといふ譯だ。今一つ面白いのは、毎年大晦日の夜で、此の時こそ各都市共、誠の無禮講となつて、徹宵道路をねり歩いての大浮れ、六十の婆さんが若い女の眞似をして、青年達に切紙を投げつけたり、美人好男子入り亂れて騒いだり、さては喇叭を吹き鳴らしたり、大聲を上げたり、いや早や賑やかな事共で、かくして市民の残らずが「フザケ廻つてゐる間に、正月一日の知らせの鐘が目出度しく」と鳴り亘り、響き來る譯で、すると一齊に「萬歳！」と許りに歡呼の聲を上げる。

かくして新らしき年は、希望と抱負を持って市民達の前に現はれて來るのだ。

▼實に奇麗な米國の道路

米國に渡つて、先づ第一に驚歎の目を聳えしむる者は、實に其の道路の整然としてゐて、奇麗な事だ。元來米國の道路は歩道はセメント、車道はアスファルトで固めてあり、其の上に油まで引いてあるのに加えて、常に澤山の掃除人が徘徊してゐて、塵紙の小切れでも必ず之を取り捨てるので、其の清潔で奇麗な事と言つては、氣も心も清々する位で、泥や石塊なんぞ薬にしたくも見附らないのだ。之を東京の眞中でも雨が降れば泥濘足を没するのと比較すれば、實に雲泥の差があるてはないか。扱て掃除人等は、夕方人通りの尠くなる頃を見計つては芥塵を掃除する、水を撒く大きなブラシで箒いて歩く、水道の水をひねつて其の後を洗ひ流すと來ては、實際汚くなる隙さへない位なんだ。然ればにや紐育市あたりでは、特に道路掃除局といふのを設けてゐて、其の局長が一年七千五百弗の給料を得てるとは、聞いただけでも

つく／＼金のある國が羨ましくなる次第だ。さて米國では道路の綺麗なのは只だ都會のみではなく、各地方に行つて見ても同じ事で、坦々砥の如き大道が何處までも續いてるのに加へて、所々には道路の側に小さい花園まで設けて、四季の草花を咲かせて居るなどは、何處までも米國式だが、之は重に各地に設けられてゐるグッドロード、アソセーションの手によつて成されてる次第なんだ。

▼便利で迅速な電話制度

何千圓といふ大金を納めて、急設電話架設を申し込んでも、仲々架けてはくれず、催促すれば劍突を食はねばならぬといふ、日本とは大違ひで、此れは又た亞米利加の電話の便利で、迅速な事つたらなく、保證金の五圓か十圓も拂つて、今日申込みば其の日の中に架設してくれるとは、考へて見れば有難過ぎる位だ、其れは其の管て近頃の統計によれば、全世界の電話数が一千六百萬個で、其中の約七割即ち一千萬個は米國の所有なんて、之を日本の二十幾萬個と比較すれば、雲泥の差があるのだ、さて電話

の種類及び料金等は、各都市によつて等差があるが、都會では大抵私宅用と商業用とに分れてゐて、ホテル、會社、各商店、銀行、新聞社、事務所等には、營業用電話を架設してくれ、其の料金は大抵一ヶ月十弗を越えないし、自動電話は日本と同じく、道側や停車場、さては藥屋か、グロサリーの中などに設けてあつて、其料金五仙だ。さて住宅用の電話となれば、使用數も少いので、料金亦た營業用の半額位で、一寸とした家いや殆んど戸毎にかけてある。

▼米國の郵便制度

此の制度だけは、何ふ考へて見ても、米國より日本の方が進歩してゐるし、發展してゐるし、完備してる様だ。第一振替貯金だの電話便だのいふ便利な方法は米國にはないのみならず、日曜だの、大祭日、選舉日、なんぞには全然郵便を配達してくれないのに加へて、土曜日、祭日は半休と來てるし、平生配達する時には、大きな男がノソリ／＼と歩るきながら扉の前に立つては合圖の笛を吹くと、お馴染の女中さんが出

て来ては嬉れしそくに立話ししてると来ては、全く癪に障る位ノロイ者だ、其れではと言ふので、速達郵便で十仙の料金を張つて出しても、之れ亦た仲々早く向ふに着いてくれぬから不思議だ、さて田舎には、ビー、オー、ボックス、といふのがあつて郵便局に自分の番號が掲げられた郵便函が併んでいるので、田舎の人々は、毎日町に出た序でに局に寄つて、之れを取つて來るといふ習慣になつてゐる。

電信はウエスタン、ユニオン。ポスタル、テレグラフ。の二大私設會社があつて、互に火花を散らして大競争をしてゐるが、便利で簡短なのは、各事務所か會社などには其會社から専用のスキッチをつけに來て取付けて置くので、其をひねりさえすればすぐボーイが自轉車を飛ばして、取りに來る事になつてゐる。

▲米國鐵道の現況

米國の鐵道と來ては、全く以つて堂々たる者で、本土だけで實に二十五萬餘哩に達してゐるので、之を日本の六千哩と比較して、何んだか皮肉な滑稽を感じてゐる位だ。扱

一年の乗客が十億人以上、従業員二百萬人、車數四百萬臺とは、流石世界第一の鐵道國たるの價値は充分だ。

汽車には日本の如く一等だの、二等、三等、だのと階級的な者を附せず、ブルマン、ツーリストと斗り、萬事米國式にあつさりと車を運ばせてゐるのだが、車内の廣くて清潔な事は、日本の一等車に優るとも劣らない位だ。其の速度は普通四十五哩とされるが、桑港から市俄古まで直行する汽車のときは、一時間七十哩位で走る事がある。更らに其の機關車と來ては素的に大きな者で、長さ十八間、目方十萬貫、重量一千八十萬貫の索引力があつて、貨車六百餘輛を此一臺の自働車で、引張つて行くといふんだから大變だ。

日本から行つた旅客が、一寸不思議に感ずるのは、大抵のステーションに、プラットフォームが着いてゐない事で、たゞ簡短に道の兩側から汽車に昇降が出来る様になつてゐるのだが、慣れると此の方が至極便利で、結構な者だ。更らに乗車賃金はと申せば

まづ平均一哩三仙見當な處であるが、もし二千哩以上の旅行を仕様と思ふ人の爲めには、マイルレーチ切符といふのであるので、此れは旅行の都度乗車距離に應じて、切符を切つてくれる譯だから、非常に便利だし料金も大分安い。

さて米國は流石に大陸だけに、同じ合衆國中でも、東と西とは時間が三時間も違ふので、便利上國內を四區に分つて、西經七十五度、九十度、百五度、百二十度となし更らに其の間を東區、中區、山中區、太平洋區として譯で、汽車で旅行すると各區の終點で、一時間宛時間を改めしむる事になつてゐるのだ。

▼米國名物大サーカス

著者は米國の大名物として、サーカスの群れを書く事を忘れたくない。抑も米國のサーカス、即ち大曲馬、猛獸師團の大仕掛けな事は、實際親しく之を目撃した者でなければ想像もつかない位であるが、其の中でも殊に大きいと稱せられてゐる、リング、リングサーカス。セルス、フロイト。バーナムベリーの如きに至つて

は興行支配人を首として使用人實に千人に餘り、猛獸其他の動物數百頭を有してゐる。此等が悉く汽車生活をしながら、鐵道會社にはレール代だけ拂つて、所有の汽車と貨車に人と獸を積み込んで、北米大陸の各都市を打つて廻らうといふ譯なんだ。

扱て愈々乗込みの當日と成れば、遠くは四五十哩、七八十哩、先きの田舎から出て來た連中や、市民等は老若男女子供の群れを問はず、悉くサーカス團の通行する沿道に行列して、之を見物しながら、歡呼の聲を擧ぐる中を、騎馬巡査の群れが物々しく警戒する有様は、實際盛んな祭禮的氣分が漂ふて來る。

御爺さんに化けた若い娘が、馬に乗つて通る、面を冠つた道化役者が之に續く、八頭引の馬に曳かれた獅子、虎、豹、などの檻が後から行く、さては日本人の輕業師や手品師や、柔道使ひが、日傘をさして此れに交つてゐる。數十頭の象の群れがノソリノソリと歩いて來る。音楽隊が續けば、行列の終りには支配人や興行師や、さては一流どこの曲藝師が、馬車を驅る。其の後から行列の人達は、雪崩を打つた様に續いて

興行場にと趣くといふ有様。

さあ愈開演となれば、一分間一藝位の割合で、曲馬に、輕業に、宙乗り、大角力に、猛獸使ひに、繩渡りと、相勤めるんだから目が廻らないのが不思議な位だが、見物の老若男女は只だ最ふ悦に入つて、ヤンヤ〜と囃やし立てるといふ次第。

かくして一時に何十萬弗の金員を儲けた大サーカスの群れは、一夜で奇麗に取りかたづけ、荷物萬端を纏めた上、又た次の都市にと進んで行くんだ。

▼驚く可き多數の自動車

米國は世界第一の自動車國である事は、正真正銘間違ひのない事實で、最近の統計によれば、合衆國內に三百萬臺からの自動車があつて、一年に十億ガロン以上のガソリン、二十萬ガロン以上の器械油一千五百萬個のタイヤを使用するといふから大した者だ。此んな譯だから、目今米國では毎日二千萬人以上の人々が自動車に乗り廻はしてゐる勘定になるので、アイオワ州の如きは實に十人に就き一人の割合で自動車を

所有してゐるとの事だ。だから米國を訪問した人は通るは〜、と引續いて自動車先生がラツバを吹き鳴らしながら馳驅してゐるのに先づ度膽を抜かれざるを得ないのだが、扱て之れ實に米國の富の程度が、日本よりも高く、生活に餘裕があるは勿論、市民が自動車を所持し得る事程左様に金持なんだと言つて仕舞えば其までだが、中には大分滑稽な自動車物語なんて事もあるので、現に著者が住つてゐた南加羅府附近の如きは、自動車が大流行を極めてジョージも、フランクも自動車を持つてるとあつては、「妾等だつて自動車がなくては肩身が狭いわ」と斗りて夫をいぢめ抜いた揚句、苦しい算段の月賦制度でフォード君かなんぞを買ひ込んだのは結構だが、どうしても月賦金の拂ひ込みが出来ずに、命より大切な自動車を取り上げられたといふ例を度々聞いた者だが、何れにしても目今米國では何處の果てに行つて見ても、盛んに自動車を乗り廻はし、此の文明の利器を利用して、盛んに金儲けとやらをやつてゐるのは事實だ。

▲一番威張つてる活動俳優

二た口目は世界一と、叫び出す米國人の其の中でも國內第一の月給取り、給料取り、大金儲けをするのは、大流行の活動俳優と來てる上に、男は女に大持てだし、女は男にチャホヤされて、加之に社會では第一流の紳士淑女として待遇もすれば、敬意も表すと來てるので、活俳優の威張る事、鼻柱の強よき事、言語に絶して譯、然ればにや、米國に於ては、今や活俳優に非ずんば人に非ざる也。とまての有様、早い話しが今度の米獨戦争でも活動俳優のお陰で安んじて戦さが出來、且つ凱歌を奏した次第だなどと、威張つてゐるのでハテ面妖な、して其の譯はと聞いて見れば、成程で米國政府が、第一、第二、第三、第四、さては戰勝と、公債を募る度毎に、一番先きに多額の應募を申出るのが、活動俳優諸君であるのは勿論の事、活俳優が運動し、勸誘しなければ、聊かも効果が擧らないので、米國政府は七重の腰を八重に折つて、盡力方を御願申すと、ダグラス、フエヤパンクス、だの、チャレトチャブリン、メリー、

ピックフォード、などと申す連中が、委細承知と大見得を切つた上、手鏡を切つての奔命に、應募者が續々出て來る仕末に、かくこそ活俳優諸君が威張り始めてる次第で國民も又た之に對してホザナ〜と合槌を打つてゐると申し上げれば、差し向き松之助クンなどは、日本に於ける活俳優の地位向上運動などと、絶叫せずばなるま

5。
面白いのは、日本人の人氣役者早川雪州で、彼れの美貌と底力のある藝術は、スツカリ米國人先生等の氣に入つて仕舞ひ、早川の活動があるといふ夜は、劇場の前には堵の如き行列が續くといふ素破らしい勢ひ、毎日女子供から舞ひ込んで來る、ラブレターの數さへも夥しいとは正真正正銘偽りのない話して、然ればにや、彼れは南加羅府に近きハリウッドの地に、宛然目を奮ふ如き邸宅を構え、妻君の青木鶴子と共に日夜自動車に乗り廻はりながら、大に日本人の爲めに氣を吐いてる次第で、彼のスクリンに顯はるゝ處、排日の聲全く聞えなくなるのは大した者だ。

其れは扱て置き前記の如く、米國では活動俳優が此れほど持ててるので、今や社交界の中心は、政治家、軍人など、其の夫人令嬢より、男女活動俳優達に徙らんとしつゝあるもので、此の分て進んで行けば、今に活動俳優上りの國務卿や、大統領夫人が出ぬとも限らん譯で、觀じ來れば何んでも、米國には所謂藝術家として、生きて行くのに限る様だ。

▲米國の表面と其裏面

上は大統領ウキルソン閣下より、下は親父が伊太利から流れて來たといふ淫賣婦に至るまで、大凡米國に生を受けた先生達は、口を開けば必ず意氣昂然として、お國自漫をやる。曰く

「抑も我等米國々民は、基督教の眞精神なる犠牲と献身と博愛とを完全に實行した、純清教徒の子孫にして、今も尙ほ此の精神を受け繼いでるは勿論、モンロー主義を経とし人類の自由平等を緯とする米國々是に従つて人類最高の理想を行はんと勉めてる

譯で、マンカンチユリ、チヌ、オブ、ジと唱えられるあの米國々歌は取りも直さず正直に我等の主義主張を告白した者だ、」

と、號叫する。而して彼等は更に又曰はく、

「大凡を侵略と掠奪を目的として、世界に覇を唱へんとする軍國主義の國は、我等デモクラシーを根本として國家を成せる國民の敵にして、我等は一切を擧げて之れが撲滅に勉めざる可らず、之れが爲めにこそ我等は獨逸と戦ひたるなれ、」

と、又曰く、

「見よ、米國の政治家は、只だ米國々是を遂行せん爲めにのみ生き、宗教家は愛の傳道にのみ目も之れ足らず、教育家は此の精神もて學生を教導し、婦人は如何にして米國々内の更らに聖化され美化されんことにのみ、生き且つ働く、」

曰はく何、…曰はく何、黙つて居れば善い氣になつて、盛んに先生等の所謂米國建

國の眞精神とやらを吹き立て遊ばす譯、いや最ふ仰せの通りて、實際米國と申す御國は、素的滅法界もない立派な御國で、其の國民は世界第一の豪らい者で御座ると畏つて仕舞えば、野郎自大の先生達とて目を細くしたり、鼻を高くしたりして、威張り立てる事だらうが、ドッコイ其んなに甘くは問屋で卸ろさないと來た。

元來米國々民と稱する奴、言ふ事と行ふ事とは全然相違を仕つて居るので、我が國は戰ふべく餘りに誇りありなどと妙な處で氣取つてるかと思へば、すぐと獨逸と戰を始めたたり、國際聯盟案を提げて盛んに平和熱を鼓吹して居る元首先生が、偶々海軍擴張案が議會を通過したとて祝電を發したり、基督教の眞精神なる博愛と人類平等の實行に生きるんだなどと公言して居る傍らから、自國民なる黒奴の群れを迫害し、侮蔑し、さては虐待するまでは未だしも、私刑などと申す聞くだも恐ろしき殺人法を實行したり、扱てはたつた七八萬しか住つて居ない、柔順で忠實で、そして正直な大和民族を排斥するに日も之れ足りないといつた有様、此れてビユリタンの子孫だなどと

とは、何處を叩けば出て來る音が、聞いてやりたい様な氣がしてならぬ。

▲米國人の所謂公德心

一度公會の席に望まなか、威儀肅然として一糸亂れず、言語舉動の堂々たる事、誠に以つて御立派至極な有様、成程文明國とやらの紳士淑女君は豪らい者だと威歎之を久ふせしめ、汽車や汽船に乗れば斷じて太股などを御出し遊ばす野蠻人は無く、芝居見や活動小屋に這入つて見れば、静かな事林の如く、「イヨ」高島屋のヘンリーウォールソール「なんぞと懸聲なんぞ發する者一人もないといふ譯、抑も米國人と稱する奴、足一步外に出づればいや最ふ感心餘つて呆れ返る位紳士淑女とやらの態度體面を重んじて御座るので、此れが所謂米國人に公德心の發達して居る所以にして、道義の觀念強よき理由なりとか、米國人の文明化されたる事誠に驚歎に堪えたりなどと、通りかかりの海外視察先生達が馬鹿に敬服遊をばすつて寸法なんだが、扱て齷つて此等米國人等の内部的生活を深刻に研究して見賜え、諸君は必ず其の臭穢にして唾棄すべき

に目を反け耳を掩はるゝに相違あるまい。然り一度公然の席に望んで威容堂々たる彼等紳士は、二度俱樂部に這入り込んでは金箔附きの賭博者にして温雅玉の如く擲すべき淑女諸君は、翻つて、内部を見んか尊大にして虚榮心に満ち常に亭主を尻に布きながら、虚偽の生活を送つてゐるんだ。

然り彼等の所謂公德とは、只だ表面を飾れる薄き銀紙に過ぎずして、手を觸るれば直にはぎ去られて仕舞ふといふ譯、彼等の所謂道義心とは只だ口舌を洩れる虚偽の辭に過ぎずして、實は不道德の行爲を敢えてして恥ぢてゐないといふ次第なんだ。以上述べ來つた表面だけの公德、道義は只だ所謂米國の紳士淑女と稱する群れのみならずして、苟も米國人だと稱する連中は、一介の立ん坊一介の淫賣婦に至るまで、之を口にして居るので、或る裁判所で一裁判官が、黒奴の辻君を拘留十日に處すると、彼女が裁判官に之れ實に弱者虐待にして、米國傳來の公德に反し候はずや、と抗辯したといふ笑話も之れある位なんだか、扱て此等の連中が一人も残らず、口だけの道義

の嚴然たる遵守者、たゞ公會の席に望んだり、道路を歩行したり、汽車や汽船に乗つた時而已の公德發揮に過ぎないんだから、滑稽でもあれば氣の毒にも感ぜられる。

▼誇大妄想狂にかかれる米國人

彼等の所謂、優秀なる而して最文明、最開化なる、白色人種の中でも、一際擡んで立派で豪らくて堂々たる者は、我が米國と米國人なりと、自惚れ切つてゐる事とて、口を開けば必ず世界一といふ、曰はく米國は世界一の富國なり、曰はく米國は世界一の強國なり、曰はく米國は世界の商業國にして又大農業國なり、曰はく米國は世界一の資本國なり、曰はく何、曰はく何と、聞いて居れば際限のない迄に捲くし立てた後更らに米國に世界一の建築物あり、米國の世界一の大瀑布あり、世界一の大公園あり、世界一の大樹木あり、世界一の造船所あり、なんぞと嘘か眞實か知らない事どもを、吹き立てると來ては、實際やり切れた者でないのに加えて、米國に生れた先生達と來ては、上は大統領閣下を始め奉り、學者、政治家、宗教家、教育家、實業家の群れ

は固より、一牛乳屋の小僧さんから、魚屋の番頭、さては強盗に、泥棒に、詐偽師から、娼婦や、淫賣婦の群れに至るまで、各自が世界に於いて俺ほど豪い者はないと考へ込んでるんだから仕末に負えぬ譯で、此等の先生達に常識の有無を尋ねるだけが、野暮の骨頂と申する者たゞ一口に誇大妄想狂患者と言つて仕舞えば其方が早分りする筈だ。

早い話しが、米國市俄古市あたりで場末の貧乏町を歩るいて鼻つ垂らし小僧を捕え、「御前は大きくなつたら何になるんだ？」と、聞いて見給え、「知れた事だ、何んでも善いから世界一の者になるんだい」と必ず返事するだらう、諸君がもし之を聞いて、成程米國人だけあつて子供でさへ世界一の人物になりたいと心掛けてる豪い者だなんぞと、感心したとしたら、其れこそ米國を知らず、米國人を解せざるの甚だしき者と、言はざるを得ない、と申すのは、抑も米國人といふ奴、誇大妄想に生れて誇大妄想に育ち、誇大妄想に死んでる以上、學校では教師世界一を口にし、家庭では

父母之を口にする結果、子供達にまで感染して仕舞ひ何んの事やら譯が分らずに、只だ世界一を口にする様になつて行くんだ、其の證據には、誇大妄想狂患者なる、彼等米國人は世界一てさえあれば、世界一の馬鹿者でも、世界一の大悪人でも世界一の碌でなしでも、満足してゐるではないか、著者の友人が、嘗つて米國に来て魔窟を彷徨してると、ある一軒の家から、切りに手招きしてる女があるのて近寄つて見ると、いや最ふ般若に苦味丁幾を飲ませた様な汚たない女なので、「一體御前の様な女を對手にして遊ぶ者があるかい」と冷やかすと、先生沸然として色を成しながら、「御黙り!!!之れでも世界一の醜婦様だよ」と計りて大威張りに、威張りながら、見得を切つたので、流石におち氣を催しながら、呆々の體で逃げて歸つた者がある。

此んな譯で、米國の奴等と來ては、醜婦の淫賣でも世界一てさえあれば、御客がドツサリ來ると思ひ込んでるんだからどう考えて見ても本氣の沙汰ではないではないか。

▲米國の軍入さん

斯く申す著者が、米國に渡つたのが、世は未だ明治の四十三年六月の始めて、桑港に上陸するとすぐ、スクールボーイ即ち家僕として、住み込んだのがパネス街て海岸に近き高臺に瀟洒な、隠れ家を構えてゐる某海軍中佐の妾さんの家であつた。主人公の中佐殿は、桑港から二時間位で、往復の出来る、バレオといふ軍港に勤務してゐて、其處に妻君や、子供達と住つてをり、偶々一ヶ月に三度位忍んで通つて来ては、御妾さん事著者の主婦公と隠れ遊びに時のするを知らないといふ譯なんだが、扱て此の中佐殿の飲む事、騒ぐ事、ハシヤギ踊り廻はる事言語に絶し、夜は徹夜して、御妾さんや、其の友達を對手にして、ポカゲームといふ賭博に耽けり、晝は午後二時頃起き上つて、又た飲み始める有様と来ては、恰も夜刃の如く、餓鬼にも似たらん如くてあるのに加えて、口を開けば御妾さんと頗る下等て聞くに堪へぬ事共を言ひ合つてはフザケ散らすし、さもなければ俗惡極る流行歌を放吟して喜んでる仕末に、新渡米の

著者なんぞは驚き呆れて、物も言えなかつた位の者であつた。扱て之れはほんの、卑近な一の例に過ぎないんだが、

抑も米國の軍人と稱する先生達、上は堂々たる軍司令官や、アドミラル閣下を始めとして、下は雇ひの一兵卒に至る迄、色好み賜ふ事と、酒をたしなみ玉ふ事度を越え、毎日、放歌亂舞に日を送らずんば、婦女と戯れ、賭博に時を過すに急がしいといふ有様、これ軍規が肅然としてゐれば、成程世の中には、奇蹟といふ奴が存在してゐるかも知れぬぞ其う甘くは、問屋で卸さぬから滑稽だ。

さて、米國の陸海將校軍人は、何時でも社交界の中心を成してゐるので、大統領の夜會や、或は凡ての舞踏會の席や、夜會には議員さんは招待しない場合はあつても、必ず陸海軍の將校は招待するといふ妙な風習が有るので、虚榮心の強い、米國の女共は何うかして將校の妻となりたいと計りて、盛んに交際を求めるので、先生達は益々有項天となり、調練の代はりに舞踏を習ひ、劍持つ手に戀愛手紙を書くペンを持つて得

おた、う

々たる有様は、側から見れば齒がゆくて仕方がない位だけれど、先生達は之を以て、得意とし、又た誇りとしてゐるんだから、いや最ふ素的な者さね。

然ればにや、米國軍人社會の家庭と來ては其亂れたる事は形容の辭なきに苦しむ位、甚だしく姦淫騒ぎ、離婚騒ぎの多い事、毎日の新聞を讀む者の呆れ返る位だ。

▲米國の巡查さん

諸君の足、一とたび北米合衆國の天地に踏み入つて、到たる處の都市を旅行、觀光して見玉え、そして、市街や公園あたりを散策したとせよ、諸君は必ず背の無暗に高い、そして豚の十匹も併はせた様な肥大漢が、ヘルメット帽を眞深に冠りながら、二尺許りの棒を小腋に抱え込んだ儘、ノソリノソリと歩るいてるのを見受けるだらう、此れを即ち米國の名物事巡查さんの群れとあるのだ。

抑も米國の巡查採用標準たるや、第一に堂々たる體軀の所有者である可き事、第二に誰れにも負けぬ位の力をも有する事といふにあるので、實際かくして採用された巡

査さんの巨軀を横えた有様は、驚きの目を見張らざるを得ない位だ、處が此れてゐて仲々可愛い、そして温順な者で、途中で行き倒れがあれば親切に近くの應急病院にかつぎ込んでくれるし、道を聞けば丁寧に教えてくれるし、女子供の通行人は善く、たわつてくれるといふ譯、成る程大男だけに聊か、智惠の廻はり兼ねる嫌はあるが、人の善い事だけは請け合ひだ、とは言ふ者の、中には頗る悍猛で恐ろしい奴も交つてゐて、巡查さんが婦女誘拐者であつたり、泥棒の手引きをしてゐたり、扱ては私娼窟の顧問をしたり、賭博宿の見張番人であつたりしたなんて事は善く聞く話したが其れ迄は未だ善いとして、甚だしいのは、羅府や桑港扱ては市俄古紐育あたりで、強盜殺人なんといふ慘事が頻々と起る仕末に、警察當局者の群れが死者狂ひになつて探偵しても捕縛する事が出來ず、切齒扼腕してゐる間に、現役巡查の中から犯人が上つて來て、開いた口が塞らなかつたなんて例があるんだから驚く。

面白いのは米國の各都市で採用してゐる女巡查で、姫御前のあられも無く、黒のユ

ニフオームに身を堅めた上、肥馬に跨つて街路を馳驅する有様凄まじかりける次第だが、之れは婦人の保護は勿論、犯人を擧げるにも仲々功績が上るとやらで、評判は至極善い。

偕て米國で一度盜賊の見舞を受けたら最後、最早其の物品は歸つて來ない者だとアきらめねばならぬので、大騒ぎをして巡查さんや、探偵さんに訴えても、フン／＼聞いてる位で、身を入れて探したり或は犯人の捕縛に努力するなんて事はまあ無いのが例とされてる、現にかく申す著者などは嘗つて羅府で、新聞記者をしてる當時、一夜泥棒に這入られて所持品残らず持ち去られ、朝起きて見ても着て出る衣物がなくて困つた事があるが、一品も戻つて來無つた者で、此んな例は屢々見聞して知つてるんだ。其れは扱置き、米國の巡查先生は、煙草屋でシガーを一二本失敬したり、果物屋で林檎の一つも摘んだり、扱ては酒屋に這入り込んでビヤ一の只飲みをしても差し支えないほど特別扱ひを受けてるのに加えて、月給も百五十弗位づゝは這入るので、内輪

は仲々ホク／＼者だとは一般の定評だ。

▲大流行の音楽喜劇

曰はくフワースコメデー、曰はくミュージカルコメデー、曰はくコイラスガール、曰はくジホーダヅキルの音楽入り、滑稽大喜劇と計りて、實際米國の上、中、下流社会にかけて、男女老若の群れを問はず、音楽の入つた滑稽劇ほど、喜び迎えられる者はない、然ればにや米國では到る處の芝居小屋では活動寫眞に非ずんば、此れが演ぜられて、ヤンヤ／＼の大喝采大拍手を受けてる譯だが、元來此のミュージカルコメデーと稱する奴、筋もなければ、連絡も無く、更に文學的價値もなければ、藝術的良心も氣品もない、頗る他愛のない者で、只だ奇麗な娘共が澤山揃いの着物をつけてズラリと舞臺に併んだ處で、一人が音頭を取つて流行唄を始めると、皆んなが之に合唱する中に交つて、例の滑稽味に富んだ道化役者等が、他愛もなければ、愚にもつかぬ、丁度日本の落語家の語る様な輕口を言つたり、ジョークを申したり、身ぶり手ぶ

りて歡客を笑はせたりするに過ぎないんだが、見てゐて瞬間々々の可笑味を感じさせては一緒になつて、笑ひこけたり、騒いだりするには之ほど面白くて重寶な者はないので、元來樂天的の米國人男女の嗜好に適し、我れも／＼と押しかけて行く様は、誠に以つて大した次第だ、殊に感心なのは米國の人達は一人も残らず、音樂に興味を有し且つ之を味ひ理解する能力を有してゐる事で、一寸したキャンデー屋あたりで、駄菓子賣子を勤めてゐる小娘でも『音樂とは何んぞや』なんといふ問題を捕えて、盛んに其の持論(?)とやらを述べ立てるんだから、大した者だと感心せざるを得ない。

一體米國人と來ては、朝は早朝から夕方まで活動又た奮闘で、死物狂ひに仕事をすゝるのだから、夜になつて家に歸れば、一家團樂して睦しくそして談笑しながら、食事を済ました後、夫妻子供戸連れて、活動寫真や今述べた音樂大喜劇見物なんぞに出かけて行き、孟子の所謂浩然の氣を養ふ譯で、かくして翌朝は更らに捲土重來、自分の仕事に一生懸命従事するので、其の規則的にして然かも樂天的なる所は、我等日本人の

深く學ぶべき所だらうと思はれる。

閑話休題、斯んな譯で米國では、盛んにオペラがかつた滑稽的音樂劇が流行するので、其の役者なんぞは大した月給を貰つて、堂々王者をしのぐ如き生活を送つてゐる者が甚だ多いので、有名であつた歌姫リアンラツセル嬢の生活の如きは、實際其の華美にして贅澤な事御話しにならぬ位であつたといふが、然し其の全盛期たるや極めて短い者で、一たび咽喉が破れたり、美が落ちたりしたら最後、忽ちにして路傍の人として顧みられないといふ、權花一朝の榮に過ぎないとは何んだか夢の様な話だ。

▼米國の辻強盜!!!

文明開化の國の、さても恐ろしかりける事共で、米國で夜間歩し遅く一寸淋しい道でも歩いて居様者なら、大騒動で小暗い處から、忽ちにして四五人の覆面したる辻強盜が顯はれ出て、ピストルを向けた上『ホールドアップ(手を上げよ)』と命ずるので、仕方なく／＼手を上げてると、強盜先生は悠々としてポケットを探つては、金員

指輪、時計、ネキタンピン、と持物残らずファンだくつた後、すぐ巡査に言ツつけると承知しないぞと、捨臺辭を残しながら、又悠々と立ち去ると言ふ譯、もしホールドアツブとどなつた時、手でも上げなからう者なら最後、ピストルの柄で、グワンと頭を撲られて、氣絶して仕舞ふと來ては、泣く／＼持物すべてを謹んで進呈せざるを得ないのだ、扱て其後で、漸やくの事に巡査さんを見付け出して恐れながら「私儀只今強盜に逢ひまして持物残らず強奪されました」と訴へて見た處で、巡査先生ニコ／＼しながら「其ふかい其れは残念、氣の毒だつた」と言つてくれる位が關の山で、ちつとも、らちが明かぬと來ては、抑も文明國とは涙の出る位有難い譯ではないか、諸君著者は決して嘘を申さぬ、もし諸君が之を疑ふなら物は試したポケットに金の一萬弗も入れながら米國の桑港あたりに行つて、夜の十時頃、一寸淋しい町を歩るいて見賜え、……成程出る哩と、合點が行つた時には一萬弗は強盜先生と其の婢とが、芝居を見たり、夜會に行つたり自動車に乗つたりする金に化けてる事請合だ

更らに下町あたりを、ホロ酔ひ機嫌で、ウロついたとしたまえ。之も小暗い處から「モシ一寸、日本の旦那」なんぞと、嬌聲軟語、續いて起る仕末に、ムラ／＼と助平エ心でも起して近づいて行つたら最後、とんだ病氣は徒つされるし、懐中は悉くスリ取られてる事、之も固たく保證して請合ふ處だ。其れは扱置き、流石糞度胸のある米國人だけに、強盜にも一寸膽ツ玉の大きい奴がゐて、通行の汽車を止めて大きなピストルを向けながら、車掌機關手を縛り上げた後、乗客一同の持物を一つ残らず強奪する奴も居れば、堂々たる邸宅を構えてる大金持の主人に、所謂ブラツクハンドといふ黒いインキで指形を押した強迫状を送つて、明夜の何時頃、何處とかの公園に金十萬弗を持つて來い、といふ譯に、もし之れを探偵に告げるか、扱ては金を持つて行かずに居るかすれば、やがては覆面した強盜の群れが這入り込んで、一家を殺害して仕舞ふ様な事もあるといふ仕末。

石川や濱の眞砂を盡きるとも、何んとやらて固とより日本だつて、盜賊もあれば強

盗も横行するとは言ひ條、未だ嘗つて米國の如き辻強盜が出た事も聞かず、汽車強盜が出たとも聞かず、扱てはブラックハンド團の如き狼よりも未だ獐猛にして、極惡な奴等が横行した事實もないではないか。

▼時々行はるる婦女誘拐

名を聞いてさへゾツとする様な、處女誘拐株式會社といふのが秘密に設立されてゐて、盛んに魔の手を伸べると申せば、諸君は必ず其んな事は嘘だらうと否定されるかも知れぬが、眞實も眞實大眞實なんだ、然らば乞ふ著者をして之に就て語らしめよだ。

抑も米國では、ホワイトスレーブと呼び、或はマンアクトと稱して、處女をキッドナップした罪は非常に重き刑に處せらるゝ事となつてゐるので、殆んど殺人や放火の罪と同じ程度に罰せられてるんだが、扱て此んな譯で制裁の度が重いだけ其れだけ、其をぐゞつて大金儲けを仕様とする奴等のやり方も又た甚だ深刻巧妙を極めてると言

つた譯、逆でも一筋繩では搜索も捕縛も出來た者でない。

殊に驚くのは、此の會社は何千萬弗といふ大資本を擁して、全米國に亘り、生馬の目を抜く位の大活動を行つてるんだ、株主や資本家には、今日米國で大紳士でござる大商人でゐる、大實業家でゐると、威張り且つ濟ましてる連中が大部居ると言ふんだから仕末に負えぬのに加えて、其の仲間には貴婦人もあれば、女俳優もある、さては商人、銀行員、會社員を始め、新聞記者もあれば、保儉會社の勸誘員と化けてるものもある、或は人を捕えるのを商賣としてる探偵や巡查までも仲間に入つてると言ふんだから、何處まで大規模で惡辣なのか底が知れないんだ、だから、一度此奴等に見込れたら最後、どんな金満家の娘でも、逃れる事が出來ず、どんな深窓に隠れてる美人でも、必ず誘びき出されるは固とよりだが、扱て一度誘拐されたらどんなに泣き叫び訴えても、もがき苦しんで見ても、到底逃れ去る事は出來ないと言つた仕末、偶々逃亡を企てた者があつても、全國に亘つて彼等の魔の手が擴がつてゐて、忽ち捕えられた

昨日とはP77T2

り、連れ歸られたりして、前に勝る虐待と、迫害とを受けるんで、仕舞には逃げ出そふなんて勇氣もなくなるんだとのことだ。

然らば、彼等は斯くして誘拐した女をどんなに處分するかと言へば、無論悉く娼妓にしたり、淫賣婦に賣りとばしたりするので、かくして得た金を、酒と賭博と然して女狂ひや男狂ひに、湯水の如く浪費しては、次から次と處女を誘拐して行くんだ。

以上著者が述べた事共を證據立つると言ふのは、諸君がもし米國に行つて毎朝の新聞を御覽になつたら、昨夜も何處かて妙齡の婦人が行衛不明になつた、今朝も其處等て美人が誘拐されたとの記事を發見されるに相違ないのだ、驚く勿れ、全米國に渡つて現今でも約百人許りの若き婦人の群れが、毎日行衛不明となつてるとは毛頭偽りのない大事實だ。

さて一寸考えた處では、何んぼ米國が恐ろしいと言つた處で、大文明國で大開化國と誇り、且つ威張つてる以上、警察署もあれば探偵局もあるのに、此んな秘密の大

實を閑却し、放擲して置く譯はないと思はれるだらう、さあ其處だて、其處で警察や探偵局でも、日夜苦心慘澹を重ねつゝ、其の探偵捕縛に、一生懸命なんだが、彼等のやり方が餘りと言へば人間業とも思はれぬ位、巧妙を極めてるんで其の業を斷つ事が出来ても、其の根を涸らす事がどうしても出来ないのは事實で、探れば探る程、事件は益々迷宮に入つて、其の秘密會社の本部は果たして何處にあるのやら、一向要領を得ない譯だから、仕方なく紐育の埠止場あたりを其の道の探偵がウロついては歐洲移民の娘共を誘拐せんとする奴等を捕えるか、大停車場内を監視して、田舎娘を誘き出さんとする者共を縛るかが關の山で、其以上には手を伸ばす事が出来ずに、切齒扼腕してゐるんだぞうだ。

▼排日氣勢を煽る舊教々徒

加州が米國に於ける排日の根源地にして、醜醉地なるは、諸君周知の事實だが、其の内でも加州に於て尤とも信者の多い基督舊教即ちカンリック教徒と稱する奴等が、

日本人を排斥しつゝある事實は知らない人が多からう。

著者が嘗つて、加州のロスアルトスと言ふ處に、宏大な邸宅を有してゐる、舊教々徒なる某と呼ぶ白人家庭で給仕人を勤めてゐた事があつた、茲處の主婦と稱するものが、自ら舊教の熱心にして眞面目なる信者なりと稱し、常に教會に出入したり、或は坊主を招待したりして、禮拜讀經に日も之れ足りないと言ふ譯であつたが、さて此女と來ては、大變な代者で、齡既に五十に近く、二十二歳の長女を頭に、五人の小供達を持つてゐるにかゝはらず、朝夕御洒落三味に浮身を窶し、皺顔を白粉で伸べては、出入りの坊主とふざけ散らしてゐた迄では人様の事、我無關焉として此の女世の中に米國人ほど豪らしい者はなく、人種の點から言つても、其他凡ての點から律しても、白色人種の奴隸たるべく黄色人種は生れて來てゐると信じ込んでゐると來ては、堪つた者に非ず、全然、著者や、料理人たる比律賓人を奴隸扱ひにするので、大に癢に障つたので、折があれば一つ此の女を嫌やと言ふ程やり込めた上、飛び出してやらうと思つ

て、我慢して働いてゐた者だ所が待てば甘露の日とやらで、或る日の事比立賓人のコックが下女のメリーつて奴に冗談を言つたとやら、袖か手を引つ張つたとやらでメリの奴も主婦から吹き込めて、生意氣にも有色人種を馬鹿にしてゐる丈に、早速主婦に言つつけたと見えて、さあ主婦先生ブリ／＼怒りながら、比立賓人を呼んで、盛んに叱りつくと云ふ譯、著者が黙つて聞いてると、

『御前カラーピール（有色人種）の癖に、身の程も知らんて白人の女に冗談なんぞ言ふのは生意氣で僭越だよ、黄色人種は白人のスレーブ（奴隸）で澤山なんだ』

とドナリ出したと來ては、著者たる者怒氣心頭より發せざるを得ざる譯で、

『婆さん、一體御前さんの信ずる基督教とやらの何處に、白色人種が有色人種に優れてると教えてあつて、御前さんの讀んでる聖書の何頁にカラーピールはホワイトピールの奴隸たるべしと書いてあるかね』

と高飛車に、大喝した後、彼女の思つてゐる事、言つてゐる事の全然間違つてゐる譯を滔

ふたつ

々と捲くし立てながら教え且つ晦えた後、

「尤も御前さんの色男だと人の言ふあの坊さんは、御前さんに其んな間違つた事を教えたかも知れないがね、元來基督教といふのは、御前さん達が信ずる事の出来ない位深遠にして、高尚な者なんだから、御前さんの様な女は以後信者だなんて言ふ事を絶対に止めなくてははいけないよ」

と盛んに啖呵を切つた儘、フイと其處を飛び出して、桑港に歸つて來た事がある、御蔭で大枚三十弗計りの給金まで棒に振つた譯だが、此時位胸のせい／＼した時は無つたので、逆でも三十弗位の金には、代えられないと今でも満足してゐるんだ。

閑話休題、基督教の眞精神なんぞ言ふ者はてんで理解しないで、耶蘇信者だと稱してゐる加州の舊教々徒共が盛んに排日を唱え、日本人迫害に日も之れ足りないのは事實で、現に加州に於ける排日議員として、有名なフェラーンだの、インマンなんといふ奴等が、所謂カソリックの信者と來てるんだ。

然らば何故彼等が盛んに排日を唱え且つ之を行ふかと言へば、第一は彼等の固陋にして狹隘なる宗教々育が其の因を爲してゐるんだし、第二には元來加州に於ける労働者階級は多く、カソリックの信徒にして、日本人労働者と競争しつゝある事、第三カソリックの地主等は多く日本人労働者に非ざる他の外國人小作人を使用してゐるんだ、其の收穫は日本人労働者に及ばざる事、即ち一種の嫉妬による、第四排日議員が同宗教々徒なるより之に煽動せられつゝありといつた様な事に原因してゐると言ふ事が出来るだらうと思ふ、何れにしても米國加州に於ける所謂基督教舊教の徒が常に排日の因を作りつゝあり、且つ率先して排日を叫びつゝあるの事實だけは、著者の讀者諸君と共に記憶せん事を欲する所で、同時に彼等には聊かも信仰心なんて者はないので、只だコンベンショナル因習に依つて宗教を信じつゝある事、恰も日本に於ける墮落せる佛教々徒に似たる者ある事をも茲所に書添えて置く。

▼信用出來ぬ米國の處女

我輩は米國の大學を卒業して、何々の學位を得て来たなどと碌でもない鼻をウゴめかす連中や、扱ては米國女學生の實際生活や處女と稱する群れの日常生活を見聞して来たと言ふ女流教育家先生達の、口を開けば必ず宜ふて曰はく、

『米國では男女の混合教育で、大學でも青年男女達が鼻突き合はせつゝ、勉強研學してゐるし、且つ男女の交際も極めて自由な様であるが、さて其の間には嚴然たる規律もあれば秩序も保たれてゐて、男子は男子の面目徳義を守り、女子は女子の威嚴貞操を保つてゐる譯で、其の内部に立ち入つて視察すると、男女間の遺徳なんぞは極めて嚴格に固守されてゐるんだ』

と又た曰はく、

『其れ舞踏、其れ夜會、それ何々集會と、男女席を一にして歡談歡語して居るが、其の交際たるや極めて聖くして一點恥づ可く厭ふ可き點を發見し得な』』

著者等をして申さしむれば、此れ誠に皮想にして淺薄な觀察で、先生達は米國の娘達の口先きに鬪弄され欺瞞されて、とんだ處に感心して御座るんだと言はざるを得ない、抑も人間つて奴、皆な悉く之れ男子に非ずんば女子、女子に非ざれば男子で、世の中にはたつた一人位は、男でも女でもない人間が住つてゐて善さそうな者だが、然るは參らない次第だが、さて此の男子君が年頃になれば女が欲しくなるし、女と冗談の一つ位言つて見たくなるし、進んでは情婦の一人位は持つて見たくもならうと言ふ者、女だつて其の通りで、鬼も十八番茶も出花の頃となりぬれば、男に口利いて貰つた丈けても變な氣持になる事、時の古今を問はず洋の東西を論ぜず皆な同一なんだ、然るに諸君、然るに此等年頃の男女が、一堂に集つて騒いだり、踊つたり、跳ねたりしてゐて、果たして其間に、男女間の道徳が嚴守される者だとすれば、猫の前にとれだけ輕節を飾つて居ても、決して手は出さない者だと思ひ込むと同様、輕卒なる早合點と申さざるを得ないんだ。

殊に米國の風習として男女間の信書の自由は保證されて、男と女とがどんな内密の手紙を取り代はしても、父母之に干渉せず教師又た知らず顔と來ては、其の間に曰はく言ひ難きロマンヌや、情事や、秘密事の湧き來らざらんと欲するも豈に得んやだ。

然り著者は茲に斷言する、曰はく、

「男女交際の自由なるだけ、其れだけ彼等の戀愛生活も又た頗る自由にして、大膽なる事逆ても日本なんぞの比に非ざるなり」と

早い話しが、諸君が一度米國は加州のバークレー大學の附近に住つてゐて、夏の夜に大學郊内の芝生をそゞろ歩るさして見玉え、其處にも茲處にも、男女學生の群れが二人位づゝ、或は座り、或は寝ころんで、痴話喋々口説喃々夜の探けるのも知らず顔なるを見出すに相違あるまい。

諸君若き女の、戀愛の前に威嚴があり、節操があると思ふなら、此れ大間違ひの甚

だしき者だ、殊に亞米利加の娘達の如く、健全にしてバツシヨネートな肉體を所有し自由に大膽に男子と交際し得る者に於いておをやだ。

偶々全米國を歩るいて見ると、チャイニスハブコンパニと看板を出した、支那人の藪醫者が至る處に散在し、何れも相應に繁昌してゐるのを發見する、諸君此等支那人の醫師が悉く大流行を極めて贅澤三昧に日を送つてる事實と、然して其の患者が多く米國の若き女即ち人之を目して處女と成し、又た自ら以つて處女なりと威張つて御座る連中なる事を申し上げれば、諸君は蓋し思ひ半ばを過ぎるであらう。

あゝ之れでも果して米國の處女は神聖なりと言ふ乎。米國は處女の節操を尊む國なりと感心な仕る乎。

▼亞米利加の女

その一、貧乏が表門より訪問すればラブは裏門より逃げ出す者にて候百萬長者ハレノ君は全身全靈全力を捧げて令夫人のルイスさんを愛し、且つ敬し、

最一御負けに畏れてゐた、大凡ルイス夫人の要求にして我がハレー君に納れられざるはなく、欲望にして遂げられざるはなかつた。

「ダイヤと眞珠をちりばめた一萬五千弗の胸飾りが今一の欲しいわ」

「善し、明日事務所に御出て一緒にストワに行つて見立て、上げ様」

「三日前に買つて頂いたハットは少し氣に入らないわよ、たつた一千弗だから新らしいのをたのむわ」

「オーライ承知の助かしこまつたり」

と来ては、妻たる者又た夫を愛せざらんと欲するも得んやて、我がルイス夫人のハレー君をラブする事度を越え其の伉儷の睦しく比翼連理の契り深き事他に比なしと言つた譯、例令ハドソン河逆支に流れ、一夜にして紐育市市我古市と入れ代る如き珍事が起らうとも、此の二人が仲だけは永久に變らざるべしと、人にも思はれ、ハレー君も然か思ひさてルイス夫人とても然か考えて……いや之れは分らぬ。

月に叢雲、花には嵐、勞働者には同盟罷工、米國の娘には色男、いやそんな事はどうしても善いが、さてもわがハレー君、フとした事から、ウォール街に出入する事を覺えて一舉一動千萬弗位を儲けた上、更らに親譲りの身代を太らせ様としたのが身の因果で、一度やつて失敗し、二度やつて落膽し、三度やつてやけになり、四度やつて死物狂ひとなつた揚句、之れは大變と迷ひの夢から覺めた頃には、失舞つた!!一文なしの空らつ穴と來た。

仕方なく、一夜孤影見るも憐れに家に歸へり泣きながら、我が愛するルイス夫人に之を訴へ、且つ打明けた後、

「なかに俺だつて男だ、……家屋敷を賣り拂えば未だ、二三十萬の金はある筈だから、之れて捲土重來を畫する迄、今暫らく我慢して待つて下さいね」と物語ると、サテもルイス夫人の顔色の變つた事!!

「へいそふですか、アナタそんなに貧乏して仕舞つたんですか、……其れはまあ結構

な事でうりました、御陰で妾こそ善い馬鹿を見ましたわ』
 と許り、フイと座を立つて、自分の部屋に行つたまでは善いとして、其の夜の内に、
 夫に買つて貰つた貴金屬類一切は勿論衣服萬端を持ち出した揚句、夫に残すべくスラ
 くと書き流した數行の手紙……
 其の文句に曰はく、『夫の君よ！貧乏が表門より訪問すれば、戀愛は裏門より逃げ出す
 者にて候ぞかし』

頓首

その二、また生んで上げるから死んだつて構はないわよ

當年取つて七歳になる、可愛い盛りで玉の様に美しい、たつた一人の女の子メリー
 は子守り任せにして、御自分ではたゞひたすらに白粉をぬりつけたり、盛装をこらし
 たりして、それ芝居、それ夜會、それ舞踏會、やれ假裝會、さては遠乗り、呉服屋
 廻はりに、訪問にと、起き出でては出歩るき、出歩るいは遊び廻はる御夫人を御座

しけるで、其の名をアンナホワイトとなん申侍つた。

或る日、一寸した事が動機となつて、御抱えの料理人と大衝突の双方口汚たなく罵
 り騒いだ後、

『御前見たいな奴は家に置けないから、たつた今出て行つて御くれ』

『當り前だい……居てくれつて頼んだつて誰が此んな嫌やて下等な所に雇はれてる者
 か』

と許りて、料理人はコック庖丁をクル〜と新聞紙に巻きながら、自分の部屋にと驅
 けつけた後、荷物を手ばやく片付けヨイコらさと肩にかついで出て行かうとして考え
 た、

『豪腹だな蓋し癩だな……どふ考えて見ても俺一人て出て行くのは馬鹿臭いから一つ
 ストライキと洒落れてやらう』

とあつて、下女のロージ、子守女のストーサン、ハウスオークの支那人リーの三人を

言葉巧みに説きつけて、四人揃つてグッバイとも何とも言はずに出て行つて仕舞つた者だ。

扱ても其の夜の事、主人公が事務所から歸つて来て見ると、家は空屋同様にガランとしてる上に、夫人閣下は切りに興奮の體で、無暗にブリークしてゐるので、

「最愛の妻よ、あゝマイデア！ レストよ、一體此れはどうしたと言ふんですか？」と恐る／＼御尋ねに及ぶ、

「雇人共が生意氣な真似をしたからみんな叩き出して仕舞つたんですよ、てね、今夜は出かけにカンエーで食事をすました後、コロンピヤ座のオペラを見物する事にしますから、サツさと仕度して頂戴な」

てな譯で、例の如く夫婦二人で御仕度萬端相整ひましたる後、出て行かうとするといキナリ駆けつけて来て男親に抱きついたのが一人娘のメリー嬢、

「御父さん今夜は、家にスーサンもロージも居ないので淋しいわ、妾しも連れてつ

て頂戴な」

「あゝそうだつたね、よし／＼それでは今夜だけはマ、さんに御願して、御前も一緒に連れて行つて上げましょう」

とあるに、夫人閣下の逆鱗、いやもふ大逆鱗、

「御黙り！ オペラは活動と違つて子供を連れて行く譯には行かないんです、御前は一人て留守番していなければいけません」

叱りつけて見ても、まだ頑是ない子供の事とて、

「嫌やだ／＼、一人では淋しくつて仕方がないから嫌やだ」

と泣き叫ぶので、チャスウして上げるわと、無慘にも、メリーを押し入れの中に押し込んで、外から鍵を下ろした儘、可愛相だなと涙ぐむ夫を叱り飛ばして、出仕舞つた。

其の夜の歸りが午前の一時、……流石に氣になるので早速押し入れを明け

憐れなメリーは窒息しかゝつて、虫の息、脈搏さえたゞかすかに、身體は冷えかゝつてゐるので、男親は氣も轉倒して仕舞ひ、それ醫者よ、水よ、藥よ、と一人で大騒ぎするのを夫人先生、冷やかに眺めながら曰はく、

「ジタバタしなくつたつて善いぢやないの、欲しければ又た生んで上げるから、死んだつて構わないわよ」

その三、一體アナタの頭の眞中は何時から禿げ始めたの

我がヘンリー君は、天下の何物にも代え難き迄に、リ、アン嬢を尊敬し奉り、且つ崇愛し奉つて、大凡そリ、アン嬢の歎心を買ひ、一笑を購はん爲めには、水火の中に身を投ぜんも辭せず、との意氣込みすまじく、「アイラブハーウィツオールマイハー」と常に口癖の様に唱え、言ひ且つ叫んでゐた、然ればにや、ヘンリー君はリ、アン嬢が満身の愛を求むる可く、今日は花束に思ひのたけを書き込んで添えて送つたり明日はルビー入りの指輪に、色善き返事をと付けて贈つて見たりしてゐるんだが、さふ

肝腎のリ、アン嬢と來ては、煮え切らぬ事夥しく、常には嫣然滴る許りの愛嬌もて接し、且つ迎えながら、話しがいざ一大事の場合となれば、圓轉、又た濶達、右にぬけ、左にそれて、鱒を掴むよりまだムツかしく、要領を得ざること頗る夥しむと來た。

ヘンリー君たる者、茲に於てか煩悶せざらんと欲するも又た得ざる譯で、日夜轉々懊惱した結果、

「よし來た!! 今日こそ一つ、乗るかそるか返事を聞かなければ、承知出來ない……そうだ〜」

と勤め先きの銀行は、頭痛がするとか、何とかゴマかして早引けにした後、イキナリ床屋に飛び込んで、今日を晴れとメカシ込み、更らに花屋に走つて、大枚十弗の菊束を包ませた上、愈々リ、アン嬢訪問とある。

「あらまあヘンリーさん、善く早々と入らしたのね、……でも今日は銀行は御休みなん

てすの？」

溶ける様な笑みを浮べて、斯く言ひかけると、ヘンリー先生、今日こそはの意氣込
凄しむので、何時もと違つておめず臆せず、イキナリ嬢の前にひざまづきながら、

「いやリ、アン嬢よ、今日は休みじゃない、勝手に此方で休んだんです、實はね嬢、
僕は一切を捧げて御身を戀し奉つてゐるんです、嬢よ、ヘンリーは茲に謹んで、嬢に求
婚いたします、どふぞ僕のハートの温かさを味つて下さつて『諾!!』と一聲仰つて下
れヨ」

とス、リ泣きささえ交えての歎願に、リ、アン嬢は忽ちに黙り込んで仕舞ひ、聲なき事
五分また十分……其所でヘンリー君考えたね『占めたぞ』斯んなに長く、リ、アン嬢
が返事してくれないに就ては、必度現在將來に亘つて沈思し熟考してゐるに相違ない、
さすればリ、アン嬢の眼中には當然僕が未來のハヅとして映じてゐた譯だから、今日
こそ必度色善い返事があるに相違ないなんてゾクゾクしながら、尙も頭を上げずにデ

ツとしていると忽ち天より嬌音一聲下つて、曰はく、

「あらまあチヨイとヘンリーさん、……一體アナタの頭の真中は何時から禿ゾ始めた
の、……妾最前から一生懸命研究してゐるんですけどどうしても分らないわ」

その四、淋しかつたてしようね、可愛相だから歸つて来て上げたわ

「あゝつまらない〜、妾どうして學者の妻なんぞになつたんだらう……全く荒涼
て臘を嚼む様な生活だわ」

大學教授ウキントン博士の令夫人は吐き出す様にかく獨語しながら、大きなあくび
を噛みしめた。

年が若くて、シヤレ好きで、そして虚榮の塊りて、御負けにシヤべる事は誰れにも
負けぬといふヤンキー氣質丸出しの我が令夫人には、質素で、無口で、撲訥で、そし
て研究室と讀書室に許り、入り浸つてゐる博士がつく〜厭になつては、常に不平と不
満に充ちた日を送つてゐた、さればとて貧乏な大學教授の収入では、此の不平を忘れ

不満を去るべく、蜀紅の錦を身に纏ひ、芝居夜會と飛び廻はる譯に行かぬと來ては、令夫人たる者煩悶し歎息せざらんと欲するも又得ざらんやである。

惡魔は此んな虚に乗じて常に其の手を伸ばす者だ。

食客の青年ハロルドが得たり畏して、盛んに誘惑したと來ては、令夫人の心緒亂れて糸の如しとあつた結果、遂に教授に叛いて二人て手に手を取つた儘、鳥が鳴くてふ東路にと御さらばを極め込んだ者だ。

若き誘惑者と、美しき叛ける女とは、かくして紐育の真中で夢の様に楽しく、密の様にスキートな生活を營んでゐたまでは天下太平であつたのだが、其の中所持の金員は贅澤三昧の内に使ひ果たして仕舞ふ、携えてゐた衣服髪飾りの類は片端からはがれて行く、やがて身には縋衣一枚を纏ふて、寒さに顫えた揚句ドツと枕も上らぬ大病に取りつかれた頃は、肝腎の男に逃げられたと來ては、令夫人たる者あゝ人生無情と歎ぜざらんと欲するも又た豈に得可けんやとある間に、どうやら病氣だけは全快した

につけても、思ひ出すのが大學教授の優しかつた事、

「黙つて書物許り讀んでゐた人だけど、其れでもあれ位情深くて妾を可愛いがつてくれた人は無かつたわ」

と思ひ出しては矢も楯も堪らず、

「歸りませしやう……是非共夫の許に歸つて行くわ」

と許りて、何所て何んなに工面した者か旅費だけを整えた後、歸つて來たのが博士の家!!

そつと裏口から這入り込んで、應接間まで行つて見ると、早や夕暮れといふに燈火さまつけず、博士は後向きて椅子にかけた儘、ヂツとしてるので令夫人はイキナリ抱きついて目隠しをした後、之れはと驚き呆るゝ博士にはたゞ一口も利かせずに曰は

「妾が居なくつて、さぞ淋しかつたてしやうね可愛相だから歸つて來て上げたわよ、

米國旅行案内
…感謝して頂戴な

一、在米日本人現狀一斑

▼米國に於ける邦人數

米國に在留する日本人の數字に就ては、其の正確を得る事が甚だ困難な譯だが、其の大略を知らんと欲すれば、大正七年度に、帝國外務省で調査發表した左の表に因るのが一番だ。

英領加奈太方面

- オフタリ方面 八十一名
- バンクーバー方面 三千二百七名
- 其他の附近 一萬五百三十六名
- ワシントン州方面 五千五百二十名
- シャトル方面

タコマ方面
其他の附近

一千百三十九名
一萬千二百五名

オレゴン州方面

ポートランド附近
其他附近

一千四百六十三名
六千〇六十名

加州方面

サンフランシスコ附近
羅 府 市
其他ノ附近
市俄古市附近
ニューヨーク市附近

五萬七百九十名
一萬六千七百四十名
一萬四千四百四十八名
二千百九十二名
三千〇三十三名

布哇群島方面

ホノル、市附近
オアフ島附近
布哇島附近
マライ島附近

一萬八千九百〇四名
三萬〇六百十五名
二萬八千九百五名
一萬八千七百四十二名

在米日本人現狀一般

▼同胞入國者と歸國者

日米兩國の間には、例の紳士的協約と稱する者があつて、日本からの移民を制限されてゐる譯であるが、然し此の條約は既に米國に住まえる同胞の妻女呼び寄せを制限しない而已ならず、又在米の戸主が、其扶養の責任と義務を有する者、例令ば老父母、さては兒童等の呼寄せも出来るし、扱ては加州に於ける夫婦達が生み出す大和民族の群れが非常の高率を以つて進んで行くといふ譯なので、在米同胞の数は決して減少を見ないのは事實だ、試みに米國移民總監カミネテ氏が發表した統計に依つて見るのに、過去九年間の統計は日本人の米國入國者が、五萬七千九十一人なるに對し、出國者、五萬二千七百五十一名で入國者の數は出國者の數より、四千四百四十人だけ多い勘定になつてゐる、然し帝國外務省で發表した所によれば却つて之と反對で、同じ過去九年間に日本人の歸國者が米國入國者よりも三千六百九十人多い事になつてゐる。

六、千係の深い日本と米國

▼日米の歴史的關係

日本から米國にやつて来た人々は役人、政治家、外交家、實業家、扱ては學者の區別なく、皆な悉く「ペルリ以來……」を繰り返す、そして大に亞米利加の御機嫌を伺ふといつた「だ、著者が滯米十年の間にも、大分此の「ペルリ以來」を聞かされた者で、瓜生男爵、澁澤實業團長、山脇大博、長官、添田壽一博士、近くは後藤男爵、石井大使に至るまで、「ペルリ以來日本と米國には親睦一致協力すべき因縁を有する所以」を高調された者だ。

然りペルリ以來、日本が露國と干戈を交ゆる頃までにかけては、實際米國は非常に好感を以つて日本を見、日本人と接してゐたのだが、日露戦争以來、今日に至るまでには、諸君周知の如き波瀾曲折か兩者の間に横はるに至つてゐるので、然らば何故な

んな工合になつたかに就て其の原因を考究して見ると、

(一)日本が日露戦役後に一躍して世界の一等國に列し、國運浸々乎として進歩するか爲め、悍格の情が生じて來たので、即ち子供の時代には善い子／＼と頭を撫でて、可愛いかつてゐたが、一人前に生長して、對等の權利を主張する様になると、燒けて堪らず、癢に降つてならぬ爲めだ、

(二)人種的偏見に基因するので、元來米國人は白色人種ほど、優良人種はないと信じ切つてゐるのに、彼等が輕蔑する黄色の民中に、偉大なる者か出て來たので、切りに偏見を生じて來たのだ、

(一)米國は比立資を占領した後、彼等の所謂東洋モンロー主義、實は強國主義、帝國主義を据り廻はしつゝある、然り米國は比立資を土臺として、政治、外交、教育、商業、軍事と、一切の上に東洋に於て活動しつゝあるのは、掩ふ可からざる事實だ、然らば即ち自然の勢として、東洋の最大強國たる日本と衝突せざるを得ないので

此の爲めには、ウキルソンの國際連盟も、世界のデモクラシイも、一顧だに値されてゐない譯なんだ、此の爲めに最つとも必要なのは、支那をそのかして日本と仲違ひをせしむる事なので、之れある哉、米國議會に於ける山東省問題云々となり、支那の門戶解放となり、米支連合實業經營となるといふ次第、もし現今米國で盛んに唱えられてゐる正義と、人道と、然して世界永遠の平和の爲めに、日本は支那より、全然手を引く可しだの、日本は直ちに山東省を支那に還附せよ、なんといふ叫び聲か、彼等の衷心より出づる、博愛、平和の聲だなど思たら大間違ひだ、

(二)米國に基督教的的精神が没却しつゝある事も、日米間に溝か生じた原因だ、現代の米國はどんなに考えても、基督教國だと許るされないの、清教徒の氣分なんぞは、篤つくの昔しに無くなつて仕舞ひ、今では只だワイルドで、亂暴で、現世的で、そして金さえ儲ければ人の一人か二人倒しても平氣だなんて事になつてゐるので、現に基督教徒だと計りそり返つてゐるソリツクの群れが、眞先きに排日を叫ぶ様になつてゐるん

だから大變だ、

然れば日米國が今に於て、其の種人的偏見と、平和を装ひモンローの皮を冠れる侵略主義を、改むるに非ずんば、日米は、何時まで葛藤を生じて居る事だらふ、然し著者の見を以てすれば、米國と日本と戦争するなんといふ事はまづ無からふと思はれるので日本と米國とは、例令喧嘩に近いまでの口論をやつても、結局は仲直りし、手を取り合つて、貿易の交通、支那の補導と經濟的利權の擴張、思想の交換等に勉めて行く様になる者だと信じてゐるし、又た當然かなければならぬ筈なんだ、もし其れ朝鮮の先生達が、米國議會に獨立運動の請願をすれば、議員共は眞面目腐つた顔をして之を議題に上せ、日本かたつた今青島を支那に還附しないとて、眞赤になつて怒り出し日本の血で購つた代價か、幾許に値するかさへ尠とも考えないなどは、何ふ考えて見ても本氣の沙汰とは思はれない譯で、何處までも野郎自大の米國氣質を丸る出しにしくる處、癪に障るのを通り越して、寧ろ滑稽な感じに打されざるを得ないのだ、

何れにしても米國が、墨西哥に侵略の手を伸ばすのは、モンロー主義で、日本が支那と、協幼を結ぶのは不都合千萬な軍國主義とは、餘り虫が善い話したと、申さざるを得ないではない乎。

▲日米貿易の概況

日米間の貿易事業が桑港を中心として盛んに行はれてる事は今更言を待たない譯であるが扱てどんな物品か取り換はされるかと云ふに大略左の如し

日本より米國に向けて
牛絲。絹物。陶器。茶。帽子原料。麥稈眞田。樟腦。玩具。ブラシ。化學製品。藥品。絲屑。植木類。百合根
米國より日本に向けて

鐵材其他鐵器。棉花。鐵釘。軌道。石油。革皮。紙類。自働車
更らに其の外詳細を知らんと欲せば左の表を見よ此れは、米國商務省で發表した百

米國旅行案内
萬弗以上の輸出入品だ。

種類	輸入 (日本ヨリ)		輸出 (米國ヨリ)	
	金	高(弗)	金	高(弗)
綿織物	一、一四一、六九〇		八六三、二〇三	
美術裝飾品	二、二一一、〇七二		二、五〇四、九三三	
帽子及同原料	四、〇八〇、八六二		七、五二五、二七四	
同日本經由外品	六八、九八一		一、九三三、一〇〇	
敷物類	一、六九〇、六七〇		一、四一五、八〇〇	
タンケステン鐵	一、一五七、三二九		一、九三三、一〇〇	
ソーヤビーズ	八、二五五、〇〇一		一、四一五、八〇〇	
同日本領支那	二、三、一〇四、四八四		一、三三三、二二九	
生糸	一、五二、一三九、四〇一		一、三三三、二二九	
絹織物	九、五六〇、九九二		一、三三三、二二九	
絹織物	一、〇〇一、二〇八		一、三三三、二二九	
衣服	九、五〇一、二八三		一、三三三、二二九	
茶			一、三三三、二二九	
染料及同原料			八六三、二〇三	
綿織物			二、五〇四、九三三	
金屬製機械			七、五二五、二七四	
織物			一、九三三、一〇〇	
ワイヤネット			一、四一五、八〇〇	
鐵製パイプ及附屬			一、九三三、一〇〇	
鋼製同上			一、四一五、八〇〇	
鐵及鋼鐵板及薄板			一、九三三、一〇〇	
建築用鐵及鐵釘			一、四一五、八〇〇	
針			一、三三三、二二九	
コンデンスマル			一、三三三、二二九	
燈火			一、三三三、二二九	
滑車			一、三三三、二二九	
紙			一、三三三、二二九	
煙草			一、三三三、二二九	
木草類			一、三三三、二二九	
油			一、三三三、二二九	

扱て、戦争が止んで未だ間かないので獨逸からは勿論英國佛國伊太利等からの輸入

が未だく恢復されて居らぬ譯だから、目今米國市場に來たる物品の大部分は日本品だと言ひ得る。

然し最近日本貿易者諸君の注意を拂はなければならぬ事は、米國市場に於ける支那人の活動だ。此に就て著書は深い説明を加ふ事を避けるが、何れにしても日本の當事者は此の現象を見逃してはならぬと思ふ。

一、米國に出發するまで

▲旅行免狀下附の手續

米國に渡航せんと欲する人に、一番大切な事は、海外渡航免狀で、もし之れがなければ、足一度國外に踏み出す事が出来ない而已ならず、又た足一歩だに米國に踏み込む事が出来ない譯なんだ、さて此の旅行免狀たるや、米國に漫遊せんと欲する知名の紳士淑女、商工業を視察せんとする實業家、海外研學を命ぜられたる留學生の確實なる證

米國出發するまで

明書（在米國日本領事館より下附せられたる）を有する呼寄せの寫眞結婚妻女及び子女、さては再渡航者等に向つては、左程困難でなく、直ちに下附されるが其他の人々は、所轄官廳で嚴重に取調べ、仲々免狀を下附してくれない。から此點は豫め心得て置かねばならぬ。

今參考の爲め、日本政府の發布にかゝる外國旅券規則を示す事とした。旅行者は之丈は是非共熟讀して置いてもらいたい。

▼外國旅券規則

第一條 外國へ旅行する者に下付する旅券は外務大臣之を發行し外國に於ては公使及び領事をして之を發行せしむ

第二條 旅券の下附を請ふものは書面に左の事項を記載し戸籍謄本若しくは其氏名本籍地及び身分を證明すべき文書を添附し内國に於ては本籍地若しくは所在地の地方上級行政廳外國に於ては公使館若しくは領事館に出願すべし但し外國に於ては公使若しくは領事の認定に依り戸籍謄本又は其他文書の添付を省略せしむることを得

- 一 氏名（片假名を以て傍訓を附すべし）
- 二 本籍地（本籍地と所在地と異なる時は併記すべし）

三 身分（戸主家族の別）家族なるときは戸主の氏名及び戸主との続柄を記載すべし

四 族稱

五 年齢

六 職業

七 旅行地名

八 旅行の目的

長崎縣下對馬國に本籍地若しくは所在地を有する者に限り對馬島廳に出願することを得

臺灣に於ける旅券の下附は臺灣總督の定むる所に依る

第三條 官命に依り旅行する者は内國に於ては其所管官廳を經由して外務省に外國に於ては公使館若しくは領事館に旅券の下附を出願することを得但し前條第一號第七號及第八號の事項を開申すべし家族若しくは従者を同行するときは同行者に係る前條第一號乃至第五號の事項を併せ開申すべし

官命に依り外國に在る者其所在地に家族若しくは従者を呼寄せんとするときは旅券下附の出願に關して前項の規定を準用することを得

第四條 戸主と同行する家族、夫と同行する妻又は父若しくは母と同行する子にして旅券の下付を請ふときは其氏名身分及び年齢を戸主、夫又は父母の旅券に併記することを得但し夫と同行する妻を除くの外十二歳未満の者たる場合に限る

第五條 移民保護法の規定に依り移民取扱人に依る移民又は保證人を要する人民にして第二條の出願を爲すときは移民取扱人又は保證人の連署を要す

米國に出發するまで

第六條 本令第二條に依り内國に於て旅券の下附を出願する者は領收するとき一枚に付手数料として收入印紙五十錢を旅券領收書に貼用すべし外國に於て公使の徵收する旅券下附手数料は領事の徵收する旅券下附手数料に依る

第七條 旅券を領收したるときは直に其券面に署名すべし旅券面に査證あることを必要とする國に旅行する者は其の定むる所に依る

第八條 左の各號の一に該當する者は旅券の下附を受くることを得ず但し第二號に該當する者は清國若しくは韓國に旅行せんとする場合を除くの外此の限にあらず

一 警戒命令中の者

二 清國若しくは韓國在留禁止命令中の者

第九條 旅行者歸國若しくは歸着したるとき又は本令第二條に依り旅券の下附を出願したるときは其の領收の日に於て旅券の下附を受せざるべきは旅券を返納すべし

第十條 商業漁業其の他職業の爲數次往復する者は歸國若しくは歸着毎に其の旅券を返納することを要せず但し旅券領收の日より三年を過ぎて歸國若しくは歸着したるときは之を返納すべし

第十一條 旅行十年に及び歸國せざるものは旅券を領收したるときより十年以内に公使若しくは領事の査證を受くべし其の後十年に及ぶ毎に亦同じ

第十二條 旅券を領收したる者第八條各號の一に該當するに至りたるるとき又は第二條第一項第一號乃至第三號第七號及第八號の事項に變更を生じたるるときは直に旅券を返納すべし

第十三條 旅券を紛失したるときは直に届出づべし之を發見したるとき亦同じ

第十四條 本令の規定に依て旅券の返納又は其の紛失若しくは發見の届出を受くべき官廳は内國に於ては地方上級行政廳及對馬島廳外國に於ては公使館及領事館とす

第十五條 第二條第一項各號の事項を詐稱し若しくは第八條各號の一に該當する者其事實を申告せず其他詐欺の行爲を以て旅券の下附を受けたる者は其の旅券を取上げ二十五圓以下の罰金又は二十五日以下の重禁錮に處す之を幫助したる者亦同じ

第十六條 他人の氏名を記載したる旅券を使用し又は之を使用せしめたる者は其の旅券を取上げ二十五圓以下の罰金又は二十五日以下の重禁錮に處す

本令に依り返納すべき旅券を返納せずして使用したるもの亦同じ

第十七條 本令は明治三十三年七月一日より施行す

明治十一年外務省布達第一號海外旅券規則及明治三十年外務省令第六號は之を廢止す

▲外國旅券下附取扱心得

通般外務省總務長官より地方官に向ひ外國旅券下附心得として左の意味の通牒を發せられたり

外國旅券の下附は旅券規則の定むる所に從ひて公平一律に取扱ふべきは勿論なりと雖ども旅行者の位置職業及旅券行者の目的又は其の赴くべき國柄に依て取扱上寬嚴の差等あるを免れず從來右等の取扱方に關しては當省大臣より屢々訓令せられたりと雖ども多くは時の必要に應じ發せられたるため全體に涉り或は其の趣意

米國に出發するまで

八三

の貫徹せざる嫌なき能はず依て茲に其取扱方の概要を叙し執務者の参考に供す

一、旅券は本と渡航許可の證にあらすして専ら旅行者の便利のために下附するものなれば遊歴、修學又は商業の目的を以て海外へ旅行するものにして其地位業體又は生活の模様を照し相當と認めたるものに對しては旅券規則の條項に違反せざる限り他に何等の手續を要することなく可成速に之を下附すべし

一、若し右旅行者華族なるときは宮内大臣の發したる外國旅券認可證寫を以て旅券規則第二條第一項の戶籍簿本に換へしめ又外國に支店支社若しは出張所を有する會社員又は使用員にして出發を要する事情あるものは事後其の會社の代表者より戶籍簿本を提出せしむることとし旅券を下附するも差支なし(明治三十三年八月二十七日付内訓第一項及び第二項に参照)

前項により取計ひ難きものは左の區別に従つて之を取扱ふべし

(甲) 移民保護法に依り移民として旅行するもの

右は移民保護法に依り既に渡航許可を受けたるものは旅券規則の要件を具備する上は他に何等の手續を要せず直に旅券を下附すべし

(乙) 旅行者にして商業遊歴又は修學等の爲めと稱するも其地位業務又は生活の模様を照し相當と認め難きもの右等の者北米合衆國並に其の他の諸領地英領加奈太、同濠洲及び右等附近の國々へ旅行せんとする場合には嚴密に之を調査したる上旅券を下附すべし其内若し移民保護法の移民に該當すと認めらるゝものあらば總て同法に準備せしむべし此等諸國旅行者取締方に就ては當省大臣より時々訓令あるにつき之を参照すべし

一、清韓兩國及び露領西北利亞地方へ旅行せんとするものは前項(乙)の部類に屬するものと雖も當省大臣より特に訓令なき限りは總て其の取扱手續を具備したる上は他に何等の手續を要することなく迅速に旅券を下附すべし(明治三十三年三月二日付、同年四月付及同年十一月十七日付内訓参照)

すべし(明治三十三年三月二日付、同年四月付及同年十一月十七日付内訓参照)
右等の國々は本邦と密接し商業漁業其の他の關係極めて交錯し居れば渡航者の爲めに務めて便利を計るを要す其數次往復するものには旅券規則第十條の便法に據らしむることに注意すべし

以上の如き譯だが、近頃東京府では、旅券下附手續を頗る簡便にする様になり、單に戶籍の謄本に、旅行券下附願を添へて、府廳に差し出せば、善い事になつて、更に之に保證書を添えて出す場合があるが、日本政府の方針は、保證人よりも寧ろ本人の人物、財産に、重きを置いてる次第だから、渡航せんとする人は、注意せらるべしだ左に便宜の爲め書式を示す事とする。

海外旅券下附願

(美濃紙を用ゆ)

- 一、氏名 (片假名を傍訓すべし)
- 一、生年月日
- 一、本籍地
- 一、所在地 (現住所を記すべし)
- 一、身分 (長男、次男、或は戸主等の如し)
- 一、族籍 (士族、平民)

米國に出發するまで

passport right
right
right
right

W. Hughes

米國旅行案内

一、職業 (醫師、辯護士、學生等の如し)

一、年 齡 (何年何ヶ月)

一、旅行地名 (北米合衆國と認む可し)

一、旅行の目的 (視察の爲め、留學の爲め、夫に呼び寄せられし等の如し)

右に依り外國旅券御下附相成度別紙月籍簿本添附此段奉願候也

年 月 日

右 何

某 (印)

地方廳官宛

(村長、區長の奥印を取る餘白を存せよ)

保 證 書

本籍地 何縣 何族 何職

寄留地 何區 何々方

何 某

年 月 日 生

右之者今般何々の爲め本年何月より向何々年の見込を以て何處に渡航仕度候に就ては往復又は滞在費用の備付

辨致可くは勿論に候へ共萬一にも疾病其他不時の災害等に罹り本人支辨相成候候とも保證人に於て費用一切引

受け聊かも不都合無之候可致候依て保證人連署此段申上候也

年 月 日

右 何

某 印

▲米國移民制限法要領

一、入國税は二弗とす

一、入國を許るされざる者、瘋癲、白癩、癩病患者、公共の扶助を受くる恐れある者、乞食、傳染病者、重罪、又は其他の罪に處せられたる者、多妻者、無政府主義者、職業婦又は之を勸誘し企圖する者、他人の扶助を仰いで渡米せんとする者等

一、契約労働者は入國を拒絶す

契約労働者は適用すべき本法の規定は、俳優、技術者、講師、唱歌業者、各宗派の教師、大學専門學校教授學術を要する者と公認せらる職業に關する者及嚴正に従者又は僱婢として使用せらるる者を除斥せず

一、教育試験に落第したる者(視察、觀光客は之を除く)

一、賣淫の目的を以て、婦女を合衆國に輸入し、又は輸入を企てたる者は重罪とし、一年以上五年以下の禁錮及び金五千弗以下の罰金に處せらる

一、移民人名表に記載すべき事項

氏名、年齢、男女の區別、既婚若くは未婚、職業、讀方又は書方を解するや否や、國籍、人種、最後の居所、合衆國は上陸すべき海陸、上陸港以外に行先ある者は其行先地、其行先地迄の通し切符の有無、船賃は自辨したるか、又は他人會社、協會、市又は政府より支拂ひたるか、所持金五十弗を有するや、若し五十弗以下なるときは現額幾何、親戚若くは朋友の許に到らんとするや、若し然りとせば其朋友若くは親戚

米國に出發するまで

住 所

保證人 何 某 印

の氏名及住所、曾て合衆國に渡米せしことありや、若し然りとせば其の時日及場所、曾て監獄若くは貧民救濟所又は慈善院に入り、若くは瘋癲病者の治療の爲めに設けたる病院等に入院せしことありや、多妻者なるや否、無政府論者なりや否、合衆國に於て勞働に従事する爲め明示又は默示に係る申出、依頼、約束又は協約に依りて渡米せしや否、精神及身體上の健康如何、不具廢疾者なりや否、若し然るときは其原因及期間如何

▲健康診断と健康の維持

腕一本で北米大陸に飛び出し、見事成功して、六顆の金印に鞭ちつゝ、故國に錦を飾らふとして五千海里の沈濤を蹴破すべく決心した人は勿論の事、視察、漫遊、さては留學の爲め渡米せんと欲する人にも必要なのは「健康の維持」といふ事なので、實際海外で病魔に襲はれた位、悲惨で憐れな者はないのは、著者自ら経験した事であるから、渡米者は其の前に健康に注意し、金鐵の如き軀幹を抱きながら、趣かねばならぬ、殊にトラホームに患つてゐる患者、及び其兆候ある者、梅毒の如き花柳病に罹れる者、呼吸病患者、例令へば肺病の如きを患える者、十二指蟲患者、等は絶対に米國に上陸させない而已ならず、日本を出帆せんとする時の身體検査にも決して合格しない

譯だから、此等の病氣に罹つてゐる人々は、全治するまでは、米國に行き得ない者だといふ事を忘れてはならない。

▲旅行用携帶品と其準備

愈々米國出發となつて、更らに必要な物は、其の携帶品だが、之れは成るべく、簡略を旨とすべく、輕装に限ると言ひたい、元來衣服や身の廻りの裝飾品、例令ばシヤツ、ズボン、カラー、靴足袋、ネキタイ、ハンカチーフ等の如き者は米國が本元で、何を求めても安くて買えるし、其上品物は優良と來てゐるんだから、はるく日本から携えて行くよりも、彼の地で求めるが好いとは言ふもの、船中や他の場合日本で求めて行く可き物品も、又た甚だ必要なのは言を待たぬ、さて衣服はと申せば、背廣服二着位に、タキシード一着、フロックコート一着、燕尾服一着は、是非必要で、此の外に寢衣二三着、外套一着、ホワイトシャツ五六着、ネキタイ十本、靴下一ダースは、是非必要だ。然し此等は紳士諸君を標準として述べた者で學生諸氏

や、婦人達の準備は、又た自ら之と異なる者があるのは勿論だ、次に渡米者の行李だが、先づ大トランク一個には、米國上陸後然かも紐育あたりに着いてからでなければ用のない様な品物を詰め込み、之れは桑港かシャルルの税關から、すぐ東部に送つて貰ふ事として、其の外には皮製のスーツケース二個と一個の手提皮靴があれば、まづ／＼充分だと、言つて好かろう。其の次には帽子だが、之れは其の時期に應じて、各一個を携えて行く可きだが、然し船中で冠る鳥打と、フロックコートを着た場合か燕尾服をつけた場合に冠るべき帽子とだけは、携帶して行つた方が便利だ、毛布類は一二等客には全然必要がないが、三等で米國に越く人は必ず携帶しなければ、船では之れを借えてゐないのだ、其の外に渡來旅客の必ず持つて行かなければならぬ物を示せば、大略左の如し。

一、書籍類 米國旅行案内は必ず携えて船の中で詳細に讀破して置く可き事勿論で、之れは著者の自畫自讃でなくして、實際米國を旅行せんと欲する人の爲めに、缺く可

らざる必要品だ、其の他には四五冊の肩の凝らぬ書物でも携へて行けば好い譯で、實際船の中でムツかしい書物なんぞ讀める者でないのは、著者自ら實驗した處だ。

一、萬年筆二本、之れは旅行者には必ず必要で、又た尤つとも便利な者である事を忘れてはならない。

一、安全剃刀、髭剃用のブラシ、石鹼及び皮製剃刀磨き、船の中でも米國旅行中も常に白人等と相語り相食する譯だが、彼等はあご髭なんぞムシヤクシヤと生やしてゐるのを嫌ふ事甚だしいから、髭は必ず毎朝剃る習慣をつけるが好い。

一、寶丹、仁丹、胃散、風邪藥、消化藥、便通劑等は之を携えた方が好いが、もし船中で工合が悪るかつたり病氣に罹つたりしたら、早速船醫に頼んで診察投薬を乞ふべしだ。

一、揚枝、齒磨、石鹼、櫛、刷毛、香水、鏡、剪刀、ナイフの類。
一、各種の縫針、大小ボタン數個、縫紉等其他。

米國に出發するまで

▲三大汽船會社の北米航路

現在北米航路に従事してゐる日本の汽船會社を擧ぐれば、第一に東洋汽船會社で、之れは桑港を中心として、布哇、香港、長崎、神戸、横濱の間を航海する天洋、春洋、コレヤ、サイベリヤ、の如き一萬噸以上の巨船と、ベルシヤ、日本丸型の大船とを浮べて盛んに船客の便を計つてゐるのに加えて、安洋、紀洋丸型の如き、南米航路船をも桑港、羅府に寄港せしめてゐるので、桑港に趣かんとする人は、是非此のラインを選ばねばならぬ譯だ、第二は日本郵船會社の北米航路船で、之れは沙港を中心とし、同じく堂々たる巨船を浮べて、大に船客を歓迎してゐるし、第三は大阪商船會社の經營船で、是れ又たタコマを中心として、常に北米の天地と日本との間を往復してゐる次第だから、旅客諸君は其の時機と、便宜に應じて、何れの航路を取らるゝとも勝手だし、又た何れの會社も船長始め高等船員より、ボーイ達に至るまで、親切丁寧に客を迎えて、心から待遇してくれ、接待してくれてゐるのは事實なんだ、殊に三等船客の待

遇法に就ては、三會社共に大競争で改善を加えつゝあるもので、現今では理想的とまで行かなくも稍々完全に近い者になつてゐるし、其の上寫眞結婚で渡米する婦人達の爲めには、相當の人格と品性を備へたる婦人監督と稱する女の人が乗り込んでゐて、日常の船中生活の世話をしたり、風儀の紊亂を防いだり、扱ては西洋式の禮儀作法を教えたり、米國に着いた後移民官との問答法を傳授したりしてくるから至極都合が好い。此の三大會社所屬汽船の外、更にチャイナメールと稱する白人と支那人と連合して出來た汽船會社の汽船が、桑港と日本支那との間を航海してゐるが、之れには餘り便乗する日本人が無い様だ。

横濱、神戸、長崎等で、前記所屬の汽船に乗り、米國に向はんと欲する人は、前以て宿屋の番頭か、或は適當の者に依頼して、切符を購入して置く可きで、然もなければ期日に及んで切符が買へないで、困却する人が大分多いのだ、更らに桑港、沙港、タコマ港より歸朝せんとする人も同様で、一、二等乗船者は歸朝前少くとも二週間前

から、申し込んで置かなければ、船室が取れず仕方なく、一と船も二た船も延ばさなければならぬ様な場合が生ずる事屢々だから注意せねばならぬ。

一、航海中の注意一般

▼出帆前乗組の注意

渡米者は、出帆前日或は前々日宿屋の番頭に案内されて、手荷物携帯の上、消毒所にと趣き、此處で醫師から目の検査や十二指腸蟲の検査を受けねばならぬ譯で、無病患災でやつと合格した人は、荷物だけ宿屋の番頭に任せて歸ると、消毒済との、捺印を押して待ち歸つてくれる。さて愈々汽船會社で、切符も買つてから、愈出帆の當日となれば、朝七時迄に再び消毒所にと趣いて、十人位一組となつて御湯に還入り、衣服を消毒して貰つた後、仕度萬端整つた處で、水上警察署にと出かけて行くと共に其處で警官から旅券に書いてある年齢職業、渡米の目的、合衆國の上陸港、行く先併びに

滞在地等に就て、根堀り葉堀り聞かれたら、委細畏つたと計りで一々言上に及ぶのだが、此の時間違つた事でも言はう者なら、警官殿の目玉が凄く光つた揚句、船に乗る事罷りならぬなんぞと来るから、注意せねばならぬ、之れかすんで、愈々船にと乗り込むと、今度は船客一同を甲板上に整列させて、米國領事館在勤船醫の健康診断と来た後健康證が渡されるといふ次第、ヤレ／＼善かつた助かつた、之れで漸く米國に行かれるとなつて大きな息をついてると、凡そ四五丁も進航した處で又た停船とある、スワ何事か起つたかと驚いてると、又たしても、三等船客は甲板に整列せよと来る。之れぞ密航者はなきかと探るべく水上警察からやつて来た先生達なんだ。さて之れが一時間計りして歸つて行つて處で、愈々汽笛一聲、最後の名残を横濱に残して、渺茫たる海洋にと浮び出る譯なんだ。

▼船中に於ける心得

さては船中では、何處までも、日本帝國紳士淑女としての體面を維持せざる可らぬ

るは勿論で、船客の一言一行が悉く日本人としての言語舉動として、乗り合ひの白人達の目に寫る譯だから注意せねばならぬ。殊に食堂に出る時には、必ず髭を剃り、髪を分け、衣服を改めて趣かねばならぬし、食事の際には後に出る『西洋式食事法と其心得』に記してある如き作法を守らねばならぬ、さて乗客は航海の最初二三日か四五日は大抵船酔ひを覺えて頭痛がし、食事が些も進まない場合が多いか、其時には強めて食堂に出るの要はないので、ボーイに頼んで自分の部屋に、食事例令は粥、鶏卵等を取寄せる事が出来るのだ、船中では運動不足か、寝冷えの爲めに胃病や風邪にかへり易いから注意すべきで、もし少し工合が悪いなと思つたら、すぐ船醫に頼んで診察を受けるが好い。

何れの船でも、先づ第一に刺を通じて船長や、事務長、一等運轉士、機關長、船醫等と、知己となつて置く事が便宜で、海のローマンスを聞いたたり、航海の智識をつけたりするのに都合が好い、船客の待遇は主として事務長が之を擔任し、食事の時食卓の主人公は船長、事務長、機關長などが勤める事となつてる。

さて船が愈進んで乗客等も大抵船に慣れて、甲板上で嬉戲し得る様になり、やがて布哇にも着し様とする頃、船客の無聯を慰むる爲め、船客や船員達の、發起で大角力だの、演藝會だの催されて乗客一同は何れも其の面白さと、無邪氣さに、腹の皮をよる位大喜びをするのが例だ、更らに船が航程を終えて、後一日でシヤトルカ桑港に上陸し様とする時には、食堂の給仕長や、受持給仕や、部屋附給仕等に祝儀を贈るのが、習慣だし、親しい船客を語つて、船長一等運轉士、機關長、事務長を招待した後葡萄酒の杯を擧げるのも普通とされてる。

一、布哇島に到着

▼首府ホノルル見物記

横濱出帆の日から、指折り數えて丁度十日目、船は布哇群島の中オアフ島の南端に
布哇島に到着

← 5.31. Shin

位する全島の首府ホノル、にと入港する。さてホノル、は、天然の良港で、海は深くして如何なる大船巨船でも必ず棧橋に横着になるといふ譯だが、かくして市街見物にと上陸すれば、誠に天下の樂園とでも申さうか、市内各住宅の庭園には例の熱帯植物コ、ナツツ樹や、フワン樹が生ひ茂つて、緑翠滴る如き中を、青草生え出でたるなど得も言はれず、中にも布哇名物バンシヤナ、ジョージチ、といふ眞紅の色を青色に染め出した樹の如きに至つては、美觀の極と申さざるを得ない。

かくて、歩を舊布哇政廳の跡、今の州立公園にと移しつゝ、緑蔭風涼しきほとりのフリイ椅子に腰を下ろせば、紅白紫青と様々に點々したる、花卉滿庭に咲き溢れ、香氣復郁として鼻を打つ計りなる處を、白衣輕裝のヤンキーガール共が、悠々として相群れつゝ、徜徉するを見れば、實際何だか日本では無論なし、さて亞米利加でもなくして傳え聞いた南洋あたりの蓬萊島にでも、遊んでる様な氣がするだらう。

ホノル、に上陸して見逃す可らざる物は、ダイヤモンドヘッドの砲臺附近の雄大に

して絶佳の風景と、其の附近にある水族館だが、其處には世界で最も珍奇な、不思議な恰好をした、水族を養つてを以つて有名だ。

元來布哇島は、米國の領地であり、米國の支配下に屬して居るのは、著者が茲に改めて御披露申す迄もない事だが、現今ホノル、市の如きには、米國人よりも日本人の方が比較的數多く住つてるのも又た大事實で、もしホノル、市の日本人街に足を入れた諸君は、其の區域の廣大にして、然かもあらゆる種類の商家軒を併べてる間を、東髮に結つた大和撫子の美人達が、單衣物に丸帯しめて、徘徊するのを見受けるに相違あるまい、誠や日本人街こそは、ホノル、の名物であると共に、日本のキモノを着たムスメも又た大名物で、金持の白人家庭では、ムスメの女中を置いてるのを以つて一種の誇りとし、盛んに日本ガールを雇ひ入れるとの事だ、更らに布哇名物の一つとも言ふべきは藝妓の群れで、此れは日本の藝者と聊かも變らず、夫々の券番に屬してゐて、料理屋に出張し、三味線を弾いたり、サノサを歌つたり、時々御浚い會をやつた

りして譚わげなんで、觀くわんじ來きたればホノル、市しは、日本にほんやら、米國べいこくやら、サツパリ分わからな
い位くらゐのもだ。

此こんな譯わけで、先まづザツと市内しなの觀光くわんくわうをすませたり、藝者げいしやや日本娘にほんむすめを見物けんぶつしたりし
た後のち、望月もちづきといふ至極見晴しごくみはらしが好よくて、然しかも日本流にほんりゆうに出來できてる料理屋らうりやにでも這入はい
り込み、新あたらしい魚うなの味あじに舌鼓したづみを打うつた上うへ、舟ふねに歸かへつて來くると、やがて又またた此處こゝを出し
帆はんして、今度こんどこそは愈々目指いよくめざす北米大陸ほくべいたいりくにと向むかつて行いくといふ譯わけだが、最後さいごに今一つ
ホノル、名物めいぶつとして書かき加くはえて置おきたいのは、例れいのカナカ土人どじんの群むれで彼等かからは全然智ぜんぜんち
惠ゑを缺かいてると言いつた方が適當てきとうらしく、現在げんざい自分の所有地しいうちを米國べいこくに取とられておりなが
ら其そんな事ことは馬耳東風ばにとうふうだと計はかり、火ひに焼やけた身體からだを海中かいちゆうに浮うかべては、船客せんかくの人達ひとたちが投な
げてやる、五仙十仙ごせんじゅうせんの金かねを争あつて奪うばひ合あひながら、其その他たは平然へいぜんとして何なにか知しら語かた
合あつてはすまして御座ござるといふ次第しだいだ。

一、あ、金門灣見ゆ

見みえた!!! 陸りくが見みえた!!!

誰たれやらがかく叫さけぶと其その聲こゑは忽たちまちにして限くなく傳つたへられたと覺おぼしく、船客せんかくのすべて
は言いひ合あはせたかの様やうに上甲板じやうかんばんにと集あつつて來くる。

船員達せんゐんたちは、相あひも變かはらず一生懸命しやうけんめい己おのが持場もちばで働はたらいてゐる、船ふねは依然いぜん 六海里ろくかいりの速力そくりやく
で進すすんで行ゆく。

加州沿岸かしうえんぎわんの邪魔物じやまものとして、屢々しばしば老練らうれんの船長せんちやうや敏腕びんわんの運轉手うんてんしゆを困こまらすといふ名物めいぶつの霧きり
さえ今日けふは全まったく晴はれ渡わたつて風かぜも静しづかに波なみも穏おだやかな事こととて便乘びんじやうの紳士淑女しんししゆくの群むれ達は
嬉き々として談笑たんせうしつゝ、何いれも視線しせんは遙はるか彼方かなたに飛とんでゐる。

「見みえた!!!……金門灣頭きんもんわんがうが見みえた」

一人ひとりが頓狂とんきやうにかく叫さけぶと、一同どうは今更いまさらの如ごとく眼めを光ひからせて前方ぜんぱうを眺ながめるといつた譯わけ

あゝ十幾晝夜太平洋上の怒濤激浪に揺られ揺られて水や空、空や水なる間に無聊と寂漠とを歎じてゐた船客一同に、たとへば黛かともがふ大陸の一部が薄つすりとも見え始めた時の心持はそも如何ばかりであらふぞ。

『あゝ北米よ、汝こそは我が五尺の軀體を永久に托すべきの地ぞ、願くば我が渾身に溢るゝ或者に、幸を興えて我をして縦横に活動奮闘せしめよ』と祈る若き人もあらう。

さては六顆の金印に鞭ち、天晴れ大成功者として故山に歸へり、父母故舊と心行く計り團欒した後愛妻を伴ふて再たゝび歸米の途に就きつゝ、遙かに金門灣を望んで更らに骨鳴り、肉躍るを覺ゆる人もあらう。

乗船者中大多數を占むる、寫眞結婚妻女諸君は、言ひ合はせたかの様に、懷ろに忍ばせた未だ逢はぬ背の君の寫眞を片手に堅く握り占めながら、伸び上りくつゝ、之より以後苦樂を共にし、一生を托すべき良人住むて彼の地にと眼を注いで、無限の

感慨にふけるといふ次第、

今しも悠然として一等室から出て來た實業家某氏は、折しも上甲板に立つてゐた二等連轉手某君の肩を叩いて

『ヤー愈々桑港が見えますね……御蔭で愉快な航海を續けて來たし、さて此れからは思ふ様米國の實業状態が視察される譯さね』

と仲々如才がない人もあらう。

かくしてゐる間に、船はいよゝ金門灣内にと入つて來た、あゝ、唯か言ふ大陸の風景は殺風景にして無趣味なりと。

見渡せば天然の灣口を形作る巖石の重疊崎嶇たる處既に妙なるに、灣内を迂曲して帆檣林立巨船横はる間を巧みに縫ひ且つ行きつゝ、眼を注いで見給へ。

白鷗飛び舞ふ間より浮び出でたる、エンゼル、ゴートの二島はさながらの油畫を眺めたらん様で、遙か四回限りなき大岳城を築きたらん如き桑港の町に聳ゆる壯大なる建

建築物は、折柄輝々として照り亘る太陽の反射を受けて、得も言へる壯麗を感ぜしむるであらう。

もしそれ、灣内波静かなるほとりを、王府、アラメダ、麥嶺、さてはリツチモンド通ひのボートが彼方此方と行き交ふ様を眺め渡す時、得も言えぬ外國氣分にあたされつ俄かに氣も心も大きくならざるを得ない譯。

『外國に来て善かつた!!!』

と此時位つくつく嬉れしく感んずる事はない

一、上陸前の注意

桑港上陸の際、移民局官吏の調べがあるが、此れは普通の觀光客旅客留學生其他一等船客等には其れ程嚴重でもなければ、八ヶ間敷もない譯だから、其れは後に寫眞結婚渡航者の項で委しく述べる事として、此處では税關だけの事を記す事とする。

Home sick

先づ船が愈々桑港に着いて之れから上陸といふ事になれば、其の前に、手荷物の種類内容及價格等につきて記した申告書を税關に呈出せねはならぬのだが、此の手續方は船内で豫め事務長から説明してくれる事になつてから夫れに従へば好い、尙ほ左の諸品は自個の必要品として税關では無料になつてゐる。

衣服類、櫛、刷化等の如き化粧道具、ピン、指輪等の如き者、寫眞、樂器、船内用毛布、靴、鞆等、其の他の者で或は商用に供する如き品物は、税關吏の評價せる價格の關稅を納入した上、之れを受取る譯だが、もし其の評價せる價格に不平のある場合には再検査を求むる事が出来る、其の他の注意事項を記せば左の如し。

一、米國經由歐洲に赴かんとする旅客は、荷物をポンド方法によりて桑港の税關吏に手續を爲さしめ、封印を乞ひ直ちに紐育に送るを便利とする。

一、太平洋中にて捕獲したるラッコの皮にて製したる衣服は、合衆國法により、輸入を禁止せられつゝあるを以つて、該品所持の人は充分の證明 即ち太平洋上にて捕

獲したる者に非ざる確證なければ、携帶上陸不可能なれば注意すべしだ。

一、物品の價格は、乗客の申告あるに拘はらず、税關吏詳細に目を通じたる後之を

評價する者なるを以つて、申告の際價格を偽る如き事は絶対に爲さざるを可とする。

尚ほ東洋汽船會社には、乗客の手荷物は、衣服其他旅行に必要なる用具に限り、船

客一名に對し左記の制限で無賃運送してゐる。

一等 三百五十英斤 (四十二貫)

二等 百七十五英斤 (二十一貫)

三等 五十英斤 (十八貫)

一、寫眞結婚渡米婦人へ

▼船中の心得

夫の君の寫眞一つを唯一の希望とも力とも頼んで、健氣にも又た雄々しくも四千哩

の波濤を蹴破つた上、大和撫子の淋しくも又た優さしき花をフル亞米利加に咲かせ様として渡米なさる婦人達の志や大に嘉すべしで、著者は出来る丈け澤山の花嫁達が渡米されるのを望んで止まぬ次第だが、扱て此等の婦人達に希望したいのは足一とたび日本の地を離れて米國航路船の中にと乗り込んだ以上、身は既に米國の人となつた事を思ふて、何處までも米國式であり且つ米國に同化すべきを勉めて欲しむといふ事だ、更らに委しく説明すれば、米國と日本とは全然風俗も習慣も違ふ譯だから、日本では何んでもない様な事が米人の眼から見れば非常に不快な事である場合が多い。日本では禮儀作法だと心得てる事が米國人に言はすると却つて禮儀を無視するに當る場合があるから、注意せねばならぬのだ、例は裸足の儘で草履を引つかけたり扱ては日本衣の上に細紐一つで甲板に出て寝ころんだりなんぞしてゐるのを米國人の船客なんぞが見れば、直ちに排日の材料にして仕舞ふといつた様な譯だから、斷じて此んなだらしない姿をせず、何處までも身姿をくづさず、且つ道徳を堅固に守り、意志を強

くして天晴れ日本婦人の面目を保つて居らねばならぬ。目今は大抵船の中に監督の婦人が乗り込んでおるから、此の婦人を母とも師とも頼んで萬事の指圖を仰げば間違はあるまいと思はれる。

▼天使島送り

愈々船が桑港に着いたので、やれ嬉れしや待ちに待つた其の日は愈々到着して、懐しくも又た逢ひたかりし夫の君の出迎えを受け、目出度く上陸して其の夜から樂しき睦言が繰り返されるんだと思つたら、夫れこそ大きな當て外れで、情を知らぬ鬼の様な移民官吏といふ先生がやつて来て、一應の訊問もするかせない間にボートに乗せて名丈けは馬鹿に優さしる天使島にと運んで行くといふ譯だ。

此處は桑港の灣内にある一小島で、四邊は皆な海に圍れてゐて島ならでは何處にも行けず、罪なくして配所の月を眺めてる二三日の間には懐卿の情も浮んで来よふ、無限の感慨やさては夫戀しさの情に堪えかねて潜々と流るゝ涙も止めあえないだら

う。たゞせめてもの慰は毎日ボートに乗つては戀しくも懐しき夫の君が見舞に来てくれるのと、日本婦人の通譯がゐて親切に世話してくれる事だ。

▼移民官の訊問

二日か三日か立つて順番が廻つて来て、愈々移民官から上陸の訊問を受けるといふ運びになる、さて裁判官宜しく嚴然と構えた移民官が憐れな優しい婦人達を前に立たせて根掘り葉掘り戸籍謄本が何ふの寫真携帶は間違ないかの、夫の年はいくつで御前は當年何歳かだのと聞き、且つ訊問するんだか、恁んな時一寸狼狽して反對に返事をしたり、扱てはマゴ／＼して返事に困つたりなんぞしたら最後、上陸拒絶だの送還命令だのと恐ろしむ目に逢はぬとも限らぬから、此處ではウンと落ち附き拂つて移民官なんぞ眼中に置かず、明瞭に簡短にそして要領を得た應答をせねばならぬ。

▼夫の出迎えと上陸

案じるより生むが易く、移民官の訊問も無事に濟せ、十二指腸蟲もなければトラホ

ルームにも罹つてゐないといふ處で、愈々上陸許可といふ命令を受け、出迎えてくれた夫と愛を込めた握手を取り交はしながらポートに飛び乗つて、初めて桑港に上陸する事が出来るといふ譯である。

知らず其の夜の新夫婦が夢は何處に通ふらん。

一、上陸してから

▼ホテル内に於ける心得

検閲もすんだ、税関の手續もすんだ。扱て愈々之れから上陸だと計り胸を躍らせつ、埠止場に出ると、市内の各ホテルからは夫々迎えの者が出てるといつた譯、其處で早速宿泊處を定めて自動車に乗り込んだとして、其の後の心得を大略記るせば、白人ホテルに宿り込む場合は先づ何處までも紳士の體面を保ちつゝ、事務所にある番頭に逢つて、ルーム代其他を定めて後ボーイに案内させ其の室に這入り服装を改めて出て來

てからもし用事があれば番頭に命令すれば好い譯だ。扱てホテル内に於ける注意としては決して婦人専用口より出入しない事、應接間や食堂で大聲を出したり又は不體裁な事をしない事、エレベーターで昇降する際、婦人があらば必ず脱帽する事等で奉口人其の他の心附は左の通りにしてやれば間違ひはない。

ボーイ一回毎に十仙。室案内者には二十五仙位、ポーター又は荷物運搬人には荷物一個に對し二十五仙位、メイドに一日二十五仙、食堂の給仕人には一回二十五仙位、まづざつと斯んな者だが、此處で日本人旅客諸君に注意して置きたいのは、決して無暗に派手な金使ひをするなど謂の事だ、先づ常識に訴えて其の程度で吝嗇でも派手でもない程度、換言すれば紳士淑女の體面を維持する態度でやつて行かるべきであらう。

▲桑港の二大ホテル

扱て桑港に於ける第一流のホテルは、先づフエヤモント、セント、フランシス、バレ

上陸してから

スの三である。序でだから茲に注意して置くが日本から渡來した人達が好くホテルに宿つた際、夜電氣がついてるのにルームのシエドー（窓かけ）を下ろさずに居る事があるか、之れは全然米國式でないのに加えて外側からルームの中が見えすくので、時にはとんだ處なんぞ見られる場合があるから、呉々も注意して夜になつたら必ずシエドーを下ろした後、電氣をつける様にせねばならぬ。更らに桑港から東部や歐洲に赴く人は、第一流のホテル内にはサウサーバシフキツク其他鐵道會社の汽符賣捌所があるから、宿泊するとすぐ切符を求めて置かるべきで、もし之を買ひ後れると二三日も豫定の出發日を延ばさなければならぬ破目に陥る場合があるから、くれぐれも注意して置く。バレス、セントフランシスの兩ホテルは、大に同胞紳士淑女諸君を歓迎優待してゐる。詳しい事は別項廣告欄にあるから注意を乞ふて置く。尙ほバレスホテルには日本人接待係として林信氏、セントフランシスには同じく立川文夫氏がゐて、一切の用務を親切丁寧に果たしてゐるから旅客諸氏には便宜此上なしだ。

Jam uncle
box

▲貨幣の交換に就て

米國では日本の金が、其儘通用しないのは勿論で、是非共米國の貨幣を使用せねばならぬ譯だが、扱てもし日本の金員を持參して來た人の爲めに、其の交換法を示せばまづ旅館に止宿するや否や、番頭を呼び自動車を雇はしめて、正金銀行か、住友銀行かの桑港支店に駆けつけた上、米國の貨幣に交換して貰ふのは最便利とされてる。扱て其の相場は、金融爲替市場の變化によつて多少の相違があるから、明確に記す事は困難だが、大抵日本金百圓が米國の四十九圓位になると思つて置けば間違はあるまい。更らに米國全土を汽車汽船の便を借りて、旅行する人の心得て置く可き最便宜の方法は、桑港に上陸すると直ぐに指定された銀行（例令は國立第一銀行或はラエルフワコ銀行）に趣いて、全國通用貨幣代用切符を買つて置く事で、之れは全國何處に行つても貨幣の代用として用ひる事が出来る譯だが、此の際自分の名前をサインしなければ、役に立たないんだから、恰も銀行のチエツキブックを持つて旅行するの

上陸してから

と同様の便利なのに加えて、聊かも盗難の恐れがない次第であるから、旅行者は必ず之を携帯する必要がある。

尙ほ米國の各銀行に於ける貨幣交換の手数料は、多く無料とされてゐる。更らに諸君周知の如く、日本でも米國貨幣の交換をしてゐるから、横濱神戸さては長崎等で、米國の金に代えて置けば尙ほ便利な譯だし、更らに米國航路の船では米國の貨幣を使用し居る事も記憶せねばならぬ。

因に一言し度きは旅行者は決して自分で多額の金員を携帯してはならぬ事で日本から米國に來た人が澤山の金を持つてゐた爲めに、拘られたとか盗難に逢つたとかとは好く聞く話だから注意すべき事だ。夫等の危険を防ぐ爲めに銀行といふ者があつて便利安全に何處までも爲替を組んでくれているんだから、實際今頃ポケットの中に現金を入れて歩く必要は全くない。

一、心得置くべき禮式と食事法

▼西洋式の諸禮式

夫れ日本には日本の禮式があり、西洋には西洋の作法がある、足既に西洋に入れる以上、何處までも其地の風俗習慣に従て、禮儀作法に化せんと勉む可きは理の當然と申すべく、今ま歐米旅行者諸君の爲めに西洋諸禮式の一般を述べんとするも又た敢て徒爾に非ざる可きを信じて疑はぬ、以下順を追ふて此れを記るして見やう。

▼衣服と服装 要は氣障に流れず、粗卑に渡らず、歐米人の所謂ニート或はノーブルの體裁を保つべきで、男子は香水類を用ゐざるを好しとする。ズボンのボタンを忘るゝ事は非常な不作法で恥辱だから、必ず心得て置かねばならぬ。

▼紹介された時 紹介された時は、された人に對して握手を交換すべきであるが、婦人と握手する時には、必ず手袋を脱がなければならぬ、且つ婦人には向ふから求められ

るに非ずんば此方から握手を求むるのは失禮だとされてゐる。更らに訪問客に對しては自分より席を離れてゐて客に席を進むる前に握手するのが禮である。更らに初對面者と握手する時は一回軽く握手する事になつてゐる。

▼脱帽と會話と 大凡そ婦人の居る處では男子は大抵脱帽せねばならぬ事になつてゐるが殊に學校、博物館、圖書館、ホテル、教會、病院、劇場等では第一に脱帽すべきを通例とする、芝居小屋では婦人と雖も脱帽せねばならぬ事になつてゐるが、其他の場合、女は大抵ハットを冠つてゐる事が多い。さてエレベーター内では商店、商業區域内の外もし婦人と乗り合はせた場合には必ず脱帽して敬意を表さねばならぬ。會話に至つては之れほど人間の品性に關係する者はないから注意に注意すべきは勿論、だからと言つて堅苦しくなつて、聊かもユーモアの無いのは日本流でいかぬ。要するに快活に且流暢にそして高尚な言語で、自個の思ふ所を表明すると共に、人の言にも耳を傾むく可きで、對手に不愉快な感と與ふる如き言語は一切慎まねばならぬ。婦人と談話を

する時には脱帽禁煙し、上衣のボタンをはめ、もし婦人と二人のみの時は決してドアを閉ぢぬ事になつてゐる。

▼訪問の場合 先づ向ふの都合を伺つた後、又は訪問を受ける日を尋ねて後行くべきで玄関でベルを鳴らし主人の在宅せるや否やを確かしてから中に這入り、名刺を取次ぎの者に渡し、外套ハット等を脱し、静かにパーラに這入つて行く可きだ、用談で訪問した人は用をすましたらすぐ退出すべきは勿論、食事などに招待された人は後に記す飲食法を參考とすべきである。

▼劇場に於ける作法 切符を買ふ場合には靜かに列に従つて進み順番の來るを待つて買はねばならぬので、入場の際は帽子を脱し、案内者に従つて靜かに定められた場所に着席せねばならぬ、開演中は何處までも靜肅の態度を持ち大聲で話を交換する如きは絶対に謹まねばならぬ。

▲西洋式食事法

▼食堂に入る迄 食事前に服装を整え、頭髮は櫛り手足一切を清潔にした後、用便を済ませて置きベルが鳴つたら食堂に入り給仕長の案内に従て、左側から静かに着席すべきで、婦人同伴の場合には殊に動作を謹み先づ婦人を着席せしめたる後着席すべきである。さて餘り食卓に遠り又た近より過ぎ扱ては肘をつき或は反り返る如きは避くべきで、又食堂中の婦人を見詰める如きも作法に叶はずとしてある。食事中座を立つ如きは不作法とされてあるのだが、もし電話なんぞがかゝつて來て、是非立たねばならぬ場合には其の旨を斷つて出づ可きである。

▲食事する場合 食事の際は、ナイフ及びフォークを持つてやるのだが、二つ共に用ゆる時はナイフは右、フォークは左に持ちフォークだけの時は右手で之れを使用する、匙はすべて、スープ、アイスクリーム、珈琲の如き水分を含む者は之を用ゐる事になつてゐる。恣んな譯だから若し是等の者を使はずして指でつかんで直接に食べる如きは恥

辱の極だ、さて食事中一品づ、食し終つたら、ナイフフォークを丁寧皿の上に置く可きで、パンは先づ手で裂いて、小切れにし、バターを附けて食べる可きだ。肉類は食する毎に小切にし、フォークに挟んで口に入れる。スープを吸ふ場合日本流に大きな音を立てざる様に注意せねばならぬ。其他珈琲椀中に匙を残し置く如き、或は器物をヒツクリ返す如き不作法を成さぬ様注意して置く、さて時々ナブキンで口を拭ふべきだがこれではたゞ指先で口邊を拭ふに過ぎない事を心得て、置かねばならぬ。食事の後出るフキンガーポールでは一寸指先を洗つてナブキンで拭く事となつてゐる、以上は食事作法の大略であるが、先づ是れ丈けの事を心得て置けば、白人と一堂に會して食事しながら、體面を損する如き事はないと言つて差支あるまい。

*Table to ensure an
improvement
us*

一、桑港總論

▼住み心地の善い桑港

今から二十年前から地震前後までにかけては、桑港でも例の排日といふ忌はしい奴が流行して道を通る同胞を「シャツブ」なんぞと罵つたり、扱は小石なんぞ投げ附けた者だそうだ。然しそれは昔の事、今では在留同胞の風采と舉動が全く一新され所謂米化され盡したのに加えて白人達の方でも頗る日本人といふ者の缺點や長所を解して来たので、道路を通行してると同胞に悪罵を浴せかけるなんぞ言ふ事は断じてなくなり、電車に乗るにも往來を歩くにも大手を振つて横行闊歩してるといふ次第だ。抑も桑港の天地たるや前に波靜かなる金門灣を控え後に廣漠たる原野を有する風光明媚の處たるに加えて寒からず暑からず四時同じ衣服で押し通せるのみならず、働かさへすれば給金は幾許でも取れる。一寸外に出れば芝居、活動寫眞等の娯樂場は至る

處に散在してゐる。扱ては日曜の散策に適する金門公園もあれば、クリフハ、スもあり更らに十一仙を投じて灣を越ゆれば、王府麥嶺附近の山紫水明な邊りにも遊べると來ては、全く以つて天與の樂天地、古昔モーセに依つて率ゐられたイスラエル民族が四十年荒野を訪ねた後、漸や、森し出したといふ乳と蜜の流るゝ加南の地も恐らく之には及ぶまいと思はれる

▼桑港の市街大觀と建築

千九百〇六年の大震災!! 大火事!!

夫れは實に慘憺たる者であつたには相違ないが、人間萬事塞翁が馬とやらで世の中の事は何が幸ひになるやら分らぬもので、桑港の如きは此の震災があつた計りに全然面目を一新したと言つて善からう。

何にしる建築物はあらゆる新式を用ゐた上に、堅牢と壯麗とを旨として造つたんだから、此の點では世界各國を経廻つて來た旅行客も流石に一驚を喫するとの事だ。も

しそれ市街繁華の中心點たるコーケートあたりから、カネー、グランドサンサム街邊りにかけての建築物を一眼せんか、高層樓閣巍然として天を摩せんとするの概あるは勿論、其輪煥の壯麗無比なる、規模の絶大なる、然して建築と建築の間秩序の整然たる恁んな市街はまづ、世界の何處にもないと言つて好からうと思はれる。桑港に足を入れた旅客諸君は決して此の建築物の種々相を見落されまい様に御注意して置く。更らに此等の間に設けられた油を布きたる如き大道を通る電車や、自働車の雑踏や、サイドラオークを活歩する男女の群れの熱踏に至つては言ふだけが野暮で、其賑な事は想像の外である。

▼各國人種を集めた桑港

一口に白人と言つて仕舞えば其迄だが、さて解剖して見れば種々様々で白人の間にもピユリタンの末を誇る純米國人あり、紳士の看板を鼻にブラ下げる英國人あり、獨逸人あり、伊太利人あり、アイリシユあり、扱てはロスキーにハンガリアンといふ雜

人種の集合では是等が悉く桑港の町に入り亂れてるのに加えて、盛んに日本人の悪口を言つて廻はる支那人先生もあれば、ヒンヅー（印度人）にヒリツピンに朝人あり。而して例のアメリカン印度人に黒んぼ先生ありと言つた譯で、何んの事はない桑港で世界人種の展覽會を開いてゐる様なもの、扱是等殆んど全世界の人類が集つてゐるにも不拘、別に大した喧嘩もせず至極天下は泰平に治つて己が好きな仕事をしつゝ治つて行くのが、萬物の靈長たる人間とやらの有難味であると共に、何處までも殖民地氣質を發揮して行く桑港人の面白い處であらうと思はれる。

一、桑港の歴史

『プリスコ』と言へば太平洋沿岸第一の都會として、全米有数の貿易要塞港として、さては世界でも有名な歡樂郷として、誰れ一人知らぬ者なきほど有名であるのは勿論、晝夜を分たぬ大繁盛を極めてるのだが、之が今から百五十年前には砂漠と灌木と

に掩はれた柳揚蘆荻の砂濱であつたと言ふたら、信用しない人が多からう。然し之れは真正銘偽りのない事實なんだ。

顧みれば、未だ米國の國民が見る影もない憐れな生活をしてゐた時代、當時世界の覇者として隆々の權威を恣にしてゐたスペイン國の國王チャールス三世が、痛切に國民の海外發展の必要を感じた結果、米國が墨西哥に特別の使節を置いて屬領の發展に之れ勉めた當時、米國に於ける領地に特別の保護を致さんとして臣僚に全力を盡さしめた其の頃、墨國に於ける西班牙皇帝の代表者ガルブエツが皇帝の此の命を奉じ、皇帝のポートルアをして加州の視察を行はしめたと言ふ

茲に於てか、ポートルアは二十五人の壯丁を引卒して加州遠征を敢行したと言ふ譯だ元來此の行の目的は前に述べた屬領保護の外に、チャールス三世の大嫌ひなジェスウキフト派の僧侶達が米國內に於ける自分の領地に住居して、盛んに傳道布教するを聞いて大に癢に障りポートルアをして之を撲滅せしむるにあつたのだが、一行がサンブ

ラスといふ處から、ロレットと呼ぶほとりまでやつて來た頃、本國から急使が到着して、坊主をいちめる事を止めて、領土の探險と新港灣發見とに全力を傾注せよとの命令が來たので、俄かに目的を變更し山又た山、丘又丘を經廻りつゝ、只管新港灣發見に従事しては 前に前にと進んで行つたのであつた。

時維れ一千八百六十九年十一月の月上旬、技師オレガは只だ一人一行を離れて尙ほも疲れた足を運ばせて居ると、遙か前方に當つて一つの灣口を見出したので、扱てはと計り駆け附けると、實にも天然の良港眼前に展開して來たので、思はず「あゝ海門よ汝を我れ發見せり」と快哉を絶叫したのであつた。

あゝ之れぞ後の金門灣となつて、遂に此處に世界の大都會が建設されたのであつた。

一、桑港市街繁盛記

▼マーケット街のそとろ歩る記

世界で第五番目とは落ちぬと威張つて居る大都會、東京銀座の真中から飛び出して来たんだなんぞと、口では大きな事を言ひながらも、扱て桑港の下町を歩るいて見ると、流石に金の有り餘る米國の大都市だけあつて、素的なものだと感歎の目を見張らざるを得ないだらう。

まづマーケット街をミッション街の附近から、フェリーの近くまで膝栗毛に鞭つとする。

兩側に雲を貫かんか計り、巍然として聳えた建築物が並んでるのは、桑港總論で述べて置いたが、夫にしても各商店のショーウキンドの立派に見事に美術的に飾られてる事よ。そして凡そ人間として生きて行き、食つて行き、着て行くべき一切の品々の

取り揃へられてる事よ。

流行の魁を誇り顔なる衣類もある。時計屋の店頭には一個幾千弗にも價すべき指輪貴金屬が惜氣もなく飾られてある。さては帽子屋に靴屋と………書くだけが野暮の限りである。

往交ふ人々には美人あり、紳士あり、老若取り交せて肩摩轂撃の有様、まごくしてゐると忽ち突き倒されて仕舞ひそう。多くは早足にサツ／＼と計りに往き去り來かかつて、ボンヤリ口を開けて衝立つてる様な者は一人もない。

若しそれ中央の車道に至つては電車と自動車が出の如く押しかけ通り過ぎる中を巡巡さんが角々に立つてゐて、巧みに秩序を保たしめていと言つた次第。

かくして繁盛と雑踏との限りを盡して町を、悠然と構え込みながら、時々ショーウキンドラを眺めながら、所謂商況視察でも好からうし、或は買物の物色も悪くはあるまい、白人だつて大分盛装を凝らした婦人達が、各店頭を一々覗き込んで行つて

る者もある位だ。そして疲れが出たら一寸息休めといふ格で、其處らの活動寫眞場や、ヴォータビルに這入り込むのも一興だ。

たゞし慣れない間にマーケット街で、買物を仕様とするには東京の三越式所謂デパートメントストアと言ふのに這入り込めば、頭のテツペンから足の先きに至るまで一切何でも備えてある。

同胞街に近いフキルモアの邊り、マーケット街に亞いで仲々の繁華を極めてるのは同胞街の中心地に近いフキルモア街で、流石にマーケットには及ばないけれど相當の店舗が併立してゐて、買物其他一切の用務を辨するに聊かも不自由しない。いや寧ろ或る者の如きはマーケット邊りで買ふよりも安いとの事だ。此處にも活動寫眞もあれば、寄席もあつて、娯樂には聊かの不自由もない。さればにや日曜の午後邊りは同胞の夫妻たちが手を組み合つてヅル／＼と歩るいてるのを好く見受けるといふ譯だ。

一、桑港總事館管轄区域内邦人々口

一九一七年六月調

	男	女	男兒	女兒	合計
ソノマ郡	二八八	一六六	一〇六	六九	六四八
パレオ郡	四一	一八	一〇	八	七七
メリスビル	六一五	一二二	八五	一〇五	九二七
アイルトン	七八九	一〇四	七四	六二	一一二九
ユタ州	一、七三〇	一四八	七三	四四	一、九九五
チーコ	三四〇	六二	三五	一二七	四七四
サンタクルーズ	二六	一七	一九	二一	八三
ボカビル	五四六	一三六	六二	六六	八一〇
ブラサ郡	三六九	一八六	一一一	一八	八五七
カーソン郡	一八一	六九	二八	四〇	三一八
カーナツグロップ	五五〇	一四二	六〇	五四	八〇六
キングス郡	四五八	一三五	一〇二	六〇	七五五
ワツソソビル	四〇三	二七九	二六八	二三八	一、一八八
スタクトン	二、五六二	四五〇	二五六	二六六	三、五三四
桑港市街繁盛記					一二九

米國旅行案内

ローダイ、アキャンボ	四六〇	九八	九六	九五	七五一
アラメダ市	二九八	二二一	一四九	一四三	八一
サンマテチ郡	二七五	八八	三八	三二	四三三
フロリーリ	四二五	三一六	三三八	二三三	一、三一
桑港市	四、〇八一	一、一〇六	六〇五	五九六	六、三八八
ウキア
ナツバ	四三	九	三	五	六〇
ルミ	一一〇	七七	(二四四)	五	三三一
コーランド	一、六一〇	一五九	六七	五〇	一、八八六
サンノセ	一、〇五八	六六九	五二九	五七六	二、八三三
キバタ州	四三四	四一	一四	一六	五〇五
コントラコスター郡	六三八	七〇	四〇	三〇	七七八
モントレー	一五九	六九	五三	四四	三二四
スーソン	一五七	四九	二三	二〇	二四九
サソベニト	四〇一	一八二	一〇二	一一四	七九九
インターモンテン	一、一二五	一六二	九一	五九	一、四三三
アラメダ郡	五五六	二二一	(二四六)	五九	一、〇二三
フレズノ	一、九四一	八四八	六三三	五二二	三、九四一

一三〇

オー克蘭ド市	九四三	四五一	二八六	二八二	一、九六一
パークレー市	七四四	二八五	一六二	一二六	一、三一七
パロアルト	五三一	一〇四	四四	四〇	七一九
サクラメント	二、五九七	一、〇三五	四三八	三六一	四、四三〇
ツラレ郡	六四六	一四九	五五	六〇	九一〇
サリナス	六六三	二〇五	一八四	一四七	一、一九九
合計					五、四〇三

一、桑港の公共機関

▼桑港總領事館

我が大日本帝國總領事館は下町のビジネス街に近きサンサム(San Sam)街の二百二十一番に設けられ階上高く國旗の竿を押し上げてある。現今の總領事は太田爲吉氏で、赴任以來好く在留同胞と一致し提携して、仕事をされるので大分評判が好い。其の外に領事官補、副領事書記生といふ連中がゐて、帝國政府を代表して外交、通商、貿易

の事業と司ごり、或は調査研究し、扱ては在留同胞の生命財産の保護と言つた様な事をやつて居られる。何んでも太田總領事が先の刺刀總領事今の外務次官植原正直氏に代はり赴任した當時、『官民一致』といふのを口にしたとて、切りに憤慨し、第一官だの、民だのと區別するの氣に食はぬ。なんぞと書いた新聞紙もあつた様だが、其處が夫れ見様によつては太田さんの平民的な處だとも言へるではないか。何れにしても總領事館と名は頗るいかめしいが、日本の御役所式に七六ヶ敷しい事はなく、何れも平民的な碎けた人達計りだから、日本から來た人は遠慮なくドシ〜と尋ねて行つて色々な事を聞いて差支ない。流石は職業柄澤山の研究材料や色々な資料が具えられてるのは事實だ。

▼在米日本人會

日本人の間には在米第一の成功者として、白人間にはミリオネアのジョジシマとして其名を知らない者はない牛島謹爾氏を會長とし桑港市は勿論、西、北、中部加州の

有力家を參事員としたる在米日本人會といふのが市内ブッシュ街に設けられてある。之れは各市にある日本人會と連絡し、之れを統轄して行くと共に在留同胞の進歩發展向上に關する一切の仕事をしてゐる處で、やれ排日運動だの、緩和策だの、それ
在留同胞の米化運動だの、扱ては總領事館の依頼を受けて種々事業の調査など仲々色々な事をやつてゐる。目今は例の小澤春雄歸化權事件で小澤氏を援助しながら仕事を
してゐる。何れにしても在留同胞の間には怱ふした統一機關の必要があるのは勿論で
事務員は書記長が一人に書記が二三人その中には白人の書記も交つてゐる。

▼桑港日本人會

といふのは、在桑港の同胞達の世話をする處とも言ふべきで、大凡そ在留同胞の事とし申せば、徴兵猶豫、身元證明、迎妻證明、呼寄せ證明、さては官署の取り次ぎは勿論の事、時には夫婦喧嘩の仲際まで遣らされるとは頗る振つてゐる。在米日本人會と聯絡してゐるのは固よりで、此處は理事制度の上に更らに會長及び副會長があつて

諸般の事務を統轄してゐる譯だが、現總領事太田氏が赴任以來是非共桑港日本人會を模範的の者にしたと言ふので、在留有力者と提携した上鋭意此の團體の改善に努力した結果、大に面目を一新したとの事だ。現會長は東洋汽船會社の桑港支店長土井氏が之に當つて居られる。

▼桑港商業會議所

桑港市を中心とし扱ては地方や或は米國と交渉を有する故國の事業家實業家等の錚々たる連中が一團となつて設けてゐる團體で、銀行家、貿易業者、物産會社輸出入業、汽船會社等の如き人が其中心だ。事務所はブッシュ街四一四にある書記長外一二名の書記を使つて大に仕事をしてゐる、若し貿易、商業其他に關して調査の場合があつた時には依頼すれば親切丁寧にやつてくれる次第で、故國にある人は勿論渡米した實業家諸氏の爲めには極めて都合の好い團體だ。

▼加州中央農會

在加州農業家の中央機關として此の團體が設けられ、總領事館や在米日本人會の助力援助を得、在留農業家と呼應して或は農事の改良に、或は耕作物の販賣に、扱ては土地租借の周旋にとあらゆる方面に活動して居る。事務所は五一〇バッテリー街で、専務理事は熱心篤實を以つて稱せらるゝ千葉豊治氏だ。

一、大學めぐり

▼キヤルホルニヤ大學

キヤルフォニア、ユニバシティーと言へば、世界でも有名な大學である事は諸君が既に承知して居られる筈だ。近頃では日本の大學から留學して來て、此處の研究室でコツ／＼やつて居る人も大分ある様に見受ける。桑港から見物に行くにはまづフェリーに行つて灣を渡る。ボートに身を投じた上王府に着いたらエスビーの鐵道で汽車か電車を取ると、すぐ大學の傍まで連れて行つてくれるから安心である。

校内頗る廣濶で芝生と芝生との間に四季折り々の百花亂れ咲く中に、理科法科工
科文科なんぞと三十三の建築物が巍然として建つてゐるんだから素的なものだ。

校内設備の完全せる事、圖書館に世界の珍書古冊を集めてゐる事、扱ては研究室に新
式の器械があり、且つ設備の整つてゐる事は言はずもがな。教授諸先生も仲々有名な人
達揃つてゐるので、學生諸氏は眞面目熱心に勉強してゐる。日本人學生は常に數十名
此處に在學してゐる。

▼スタンフォード大學

之れは例のミリオネヤとして鐵道鑛山成金として有名な故リーランドスタンフホド
氏が建てた私立の大學だが、彼れが費用に構はずドシ／＼と設備を整えたのと、平和
博士として世界に有名な人格の高いジョルダン博士が總長として銳意經營改善の任に
當つたのとで、進歩の様は著るしく、今では米國でも五本の指に折られるといふ迄に
至つてゐる譯で、或點では加州大學のそれに優るとさへ言はれてゐる。同校桑港第三街

の停車場から汽車に乗つてバラアルトといふ處で降り（一時間計りで行けるので桑港
から往復二弗位だ）ればすぐである。此處からは米國でも有名な人々を出してゐるの
と、校庭の廣い事、建築の優れてゐる事等は決して加州大學に劣らない、日本人の學生
諸君も常に在學してゐる。一度桑港に遊んだ同胞諸君は是非一覽まべきであらう。更
らに大學校庭内には日本人田川氏の經營せるレストランもあるから、一寸立寄つて
御腹を充たすのにも不自由は感じない。

一、桑港の新聞紙

桑港市に於て尤も勢力あり、且つ信用と權威を持つてゐるのは、何んと言つてもクロ
ニクル新聞で、社長は有名なデ、ヤング氏配下には學識筆力共に一世の師表たるに足
るべき多くの記者を有して盛んに活動してゐる。そして論説や記事も比較的穩健で公平
であると共に、日本人問題なぞに對する時でも、餘り感情に走らず、比較的冷靜であ

り、親日的の傾向も時々見受けるのは事實だ、殊に些細な事の様だけでも我々日本人に好感を與へるのは近頃決してジャツプといふ字を使はずして必ずジャパニースと
 してゐる事だ。之に反して例のハースト先生を社長に頂き、折さへあれば日本人排斥の
 記事を掲げて、無智の徒を使喚してゐるのがエキザミナー紙で、日本人の事とさへ言へ
 ば善事を悪報し、事實を針小棒大に書き立てゝるのは困つた者で、中には是等の記事
 を全然信用して、日本と其の國民とを誤解するの徒があるのだから仕末に負へない次
 第である。

桑港には此の二新聞紙の外にブルヂンと呼ぶ夕刊があつて仲々賣れ行きが好いか、
 此の新聞紙は常にエキザミナーの反對側に立つてゐて、盛んにハーストの横暴を攻撃す
 ると共に、時には日本の立場なんぞも辯解してくれる事がある。

是等英文紙の外に邦人經營の者に日米、新世界の二紙あり、編輯、體裁、内容共に
 東京あたりの一流新聞と比較して劣らない者を出してゐる。

兎に角新聞紙は社會の木鐸であり、又社會狀態の反影を見るには、最も必要なも
 のではあるが、其系統を知らねで讀んでは、誤らるゝ事尠くないから、渡米者は各
 紙の色別又は是非心得置くべきである。

一、基督教會と佛教會

桑港には肉の満足を與ふべき種々の設備が整へられてると共に、其の修養に資すべ
 き場所も甚だ尠くない。先づ青年男女達の間にはワイ、エム、シー、エーとワイダブ
 ルユー、シー、エーとが設けられてゐるといふ譯で、男子青年會はサター街で、加州の近
 くに宏壯な會館を有してゐて多の青年達を指導し、中には寄宿舎もあり、屋上運動
 場もあり、扱てはピアノも据え附けてあるし、玉突臺に碁盤まで備へてゐるのに加へ
 て、圖書や新聞や雑誌の縦覧も許してゐるので、毎日此處に出入する青年の數甚だ多い
 が、之は桑港白人基督敎青年會のプランチとなつてゐる。女子青年會の方でも之と殆

んど同様な仕事をしてゐる而已ならず、妙齡の婦人達を監督して或は通學せしめ、或は修養せしめてゐる。更に基督教會は美以、合同、リフホームド、聖公會、扱は天主教などとの會堂が、各々日本人の牧師が居て傳道に布教に盡力してゐられるし、本願寺派に屬する桑港佛教會といふのもあつて、誨教師がゐて日曜の説教會もやる、葬式や結婚式をもやるといふ譯で、聊かも日本と變りがないから、故國から渡來せられた信仰家諸君は、各々其の屬する教會か御寺に參詣が出来て、其の修養をも充分成し得る事が出来る。

一、桑港の名所舊跡

桑港市は歴史が新しいだけに舊跡といふのは餘りないが、名所は仲々澤山ある。其中是非見て置くべき者だけを左に紹介しやう。

▼フェリービルデンク

桑港市街の入口であり、又出口でもあるのが此のフェリービルデンク、桑港から東部各地や櫻府、スタクトンさては布市地方、近ではオー克蘭ド、パークレー、アラメダ、リツチモント、ミルバレー等に出て行く人も、又は是等の地方から桑港に這入り込む人々も、皆一度は此の關門を通らなければいけないといふんたから其の繁盛の凄い事は想像が出来たらう。扱て此の建物たるや真中に素的な高塔が衝立つてゐて、此處には四方から見える大時計で正確なタイムを報じ、兩翼は廣く長く左右に擴つてゐる、エスビー鐵道とユービー鐵道との出入口になつてるといふ譯だから、切符賣捌所も、荷物取扱所も皆な此の中に設けられてゐるんだ。扱て二階には税關の出張所と農産礦産物の展覽會場などがあつて、何人にも自由に縦覽せしめてゐる。

▼プレシデオ兵營と「ゴートアイランド」

金門灣頭を扼する要害の地、後ろに丘陵を負ひ、千五百莫加に餘る大區域を開いて此處に有名なプレシデオ兵營が嚴として存してゐる。恐らく此處こそは加州の咽喉を

扼する第一關門なので、米國政府軍事當局者の重要視する事一と通りではない。さればにや營内巖角屹立し森林樹立するほとりに大小無數の砲門具えられて、いざと言へば火蓋を切つて放かん勢ひ仲々に凄じく、軍隊にも騎兵あり要塞野戰砲兵あり歩兵工兵ありと言つた譯。然して構内風光絶佳のほとり森林の間に兵士の營舎も將校の邸宅も一切設けられてゐる。更に海兵團の所在地たるゴートアイランドはフェリービルディングに面じて桑港と、王府の間に在る一小島で多くの海兵達が此處に駐屯してゐるのを大抵少將級の司令官がゐる統轄してゐるのだが此處は併し見物が容易でないとの事だ。

▼米國造幣局

北米合衆國でも第三番目とは落ちないと言はれる素的な建物で、ミツシヨンと第五街との間に屹然と聳え立つてゐる。何しろ一ヶ月に百萬オンス以上の金貨を鑄造してゐるといふんだから我々貧乏人は聞かしてさへ何んだか恐ろしくなる様な話だ。此處では新しい貨幣を鑄造する計りでなく毎日ノノ内外から集つてくる舊るいゝ貨幣を

盛んに鑄つぶしてゐるんだとの事だ。之れは誰れにも參觀させてゐるから是非一度は行つて見る必要がある。

▼公設圖書館

四五年前新しく建てられた公設圖書館が市役所の前にある。常に公開して誰れでも自由に讀書を許してゐる。設備も完全してゐるし、古書新書殆んどすべてが整つてゐるので、讀書の研究には常に此處に出入してゐる。日本から來た人達で何か研究の材料が欲しい人があつたら早速出かけて行くべしだ。

▼桑港市役所

驚く勿れ、百萬弗を投じた桑港市民が威張り且つ誇りとするシチーホールは全く落成し盡して、其の輪換の美内部の整頓共に完全し盡した。

然して其の前方には廣々とした庭園まで設けられ、噴水逆り、小池に金魚の群れ踊り、周圍には四季折り々の草花が咲き亂れてゐる。現今の市長さんは例の有名な

ルフ氏で日本の名士達がやつて来ると市役所に案内して歓迎會を開らいてゐる。

▼ユニオン鐵工所

故國からやつて來られた其の道の専門家達が何を措いても先づ第一に驅け附けて視察を遂げるのが、即ち此の鐵工場だ、之は桑港のポートルロといふ區域の中に一大城廓を成してゐる建物で、總計廿二英加といふ廣さの間に鍛冶場あり、大工場あり、器械場あり、さてはドックに造船所ありと言つた譯で、戦時中に於ける活動の如きは迎ても形容の出來ない位目覺しい者であつた。千八百四十九年の創立で、米國でも有數な大鐵工場で戦時中更に大擴張を斷行したとの事だ、此處では我が日本の千歲艦を造つたので日本人の間に知られてゐる。何れにしても専門家以外の人でも一度は見置くべき處であらう。

▼古い教會堂

桑港の天地が未だく漸く開拓され様としてゐた時代即ち千七百七十六年、天主教

派の教父ジュンペロシーラによつて建てられたといふ古い由緒のある有名な教會で坊さんの許可さへ得れば内部まですつかり見せてくれる。閑雅にして幽邃なるほとり、靜かに會堂内に瞑想して往時を追懐すると桑港の歴史が一幅の畫圖として我等の前に展開されるのを覺えるだらう。

一、桑港名物金門公園

誰れが何と言つても桑港名物の第一に擧ぐ可きは金門公園(ゴールデンゲートパーク)であらう。然ればにや、桑港人は外來の人々を案内せんとするに當つて劈頭一番に自働車を園内に走らすは勿論、口を開けば必ず桑港に金門公園あるを誇ると言つた譯誠や世界に名高き名パークだけに園内廣濶、東西二哩、延長南北三哩、其の面積實に一千十三英加に亘る間に、四季の百花亂れ咲く植物園あり、廣茫眼を奪ふ芝生あり。白砂青松あり、湖水あり、瀧あり、さてはガム樹立ち並び林もあれば棕栢生ふるほと

りもあつて、深山幽谷を忍ばしむる處には、折々囀る鶉の聲も聞え青草生ふる縁園には山羊の鳴き聲も洩れ來る。若し夫れ園内最も人眼に付き易きあたりに獨逸の詩宗ゲータとシーラの像を飾れるは不思議の皮肉を覺えざるを得ない。今園内の縦覽物を紹介すれば左の如し。

▼博物館

之れは一千八百九十三年、桑港でミドウキンター博覽會を開いた記念として設けられた者で、米國でも五指の中に數へられる有名な博物館だ。參觀は無料で毎日午前九時から五時まで之を許してゐるが中に這入ると流石に珍らしい者や歴史的由緒のある者が多く目に附く。繪畫にはジレット氏作の『シエファアドエンドフロン』だの、ラフェツ作の『タウソククライエンドヒスファアミリー』だの、扱はキャバナラミス筆になつた者だのが并べられ、専門家ならぬ素人の目にも成程と其の雄渾奔放な筆致に感歎せしめ、更らに彫刻部や其他にも素的なものが多い。陶器部では日本の七寶焼花瓶の大き

なのが異彩を放つてゐるし、タベストホールには英國古武士の着た甲冑もあれば、日本古代、支那古代等の武器も澤山併べてゐる。

▼公園の日本茶園

金門公園内の中央に純粹の日本風庭園があつて、毎日澤山の白人紳士淑女の群れが此處に這入り込んで茶の煎たのに舌鼓を打ちながら、例のテキーケーキといふ日本煎餅を嚙つてゐるのを見受ける。之れは萩原といふ日本人の單獨で經營してゐるの園内に築山あり泉水あり、山に雀戯れ、水に鯉魚遊んで幽邃閑雅の趣き仲々に盡きざる者がある。是も前に述べたミドウインター博覽會の時の記念だといふ。

▼公園音楽堂

桑港から百哩計り行つたサリナス市附近で幾千英加に亘たる砂糖大根を耕作し、傍ら砂糖の製造に従事してゐる百萬長者スプレツナル氏が寄附して建築した音楽堂は、博物館から餘り遠く距つてゐない處に建てられてゐる。一寸見るとたゞ石造りのグリーンキ

劇場に似た様なものが衝突つてゐる様にしか見えないが、之に五十萬弗といふ大金がかけられてゐるといふんだから驚かざるを得ない。然して其の前には約一萬のチエアーが并べられてゐる。毎年夏期に入ると日曜日毎に此處でオーケストラが奏せられて、男女の群れが靜肅に耳を傾けてゐる。

一、桑港附近の觀光

桑港の見物も略ぼすんだ。東部に行くにも、扱ては日本に歸るにも、まだ二三日の猶豫があるといふ人々や、扱ては寫眞結婚で渡米して夫の君に桑港見物をさせて貰つた妻君諸君は、序でに桑港の附近にある名所舊跡を探らるゝ様御勧め申して置くのである。

▼ビードモント公園

此處に行くにはまづオー克蘭ドに渡つてブロードウェイ街で電軍を下りた上更ら

にビードモント行きと記された電車に乗れば、丁度公園の入口まで連れて行つてくれる、園内は山の美と水の紫とを兼ねた上に幽邃あり、閑佳あり、扱ては展望開けて盡きざるほとりありと言つた譯で、天然の妙と人工の美とを巧みに配合したる處、然して常に四季の百花爛熳として咲き亂るゝ處、逆ても口にも筆にも盡くせぬ趣がある。もしそれ園内の處々に屹立したる巖石の妙、怪洞の不思議の如きは只だ諸君が親しく遊んで之を實驗されるに非ずんば、著者の筆好く形容し盡す處に非ずだ。尙ほ此處に來た人は序でにメンロースまで行つて、有名な駝鳥園を視るのも好からう。

▼マウントタマルバイ

マウントタマルバイと申せば其の名を知つてゐる人が多い筈だ。桑港に來た名士旅客が必ず一度は此の山に上るといふので有名だ。先づフェリーからボートに乗つてソースリートといふ處で上陸し、更らに電氣カーに乗り換えてミルバレーまで行き、之から楕圓形に螺旋狀を畫きながら、山の頂きまで上り詰め様といふ寸法だ。さて上り

且つ進むに従つて奇觀壯觀は諸君の前に思ふ様展開されて行くのであるが、もし夫れ以上に立つて遠く桑港王府麥嶺の市街を雲烟模糊の間に望みつゝ、更らに廣茫無限行くに盡きざる加州の原野を一方に眺め、一方に白雪を頂くシユラネバタの連山を望まなか、思はず手を打つて壯快を呼び、グレートと叫ばざるを得ないであろう。實にやマウントタマルバイは加州人が誇るべき名所の一たるを失はない。

▼アイドラパーク及びエリオツト湖

前者は王府と麥嶺の間後者は王府のすぐ近くにある。何れも人工的の公園であるが前者は種々の遊戯場や海水浴場が設けられてゐて半日のタイムを費やすに適し、後者は湖水にボートを浮べながら、四方の絶佳な風景に見とれるに相應はしい。王府や麥嶺に遊ぶ人は序でに此の兩公園を尋ねて浩然の氣を養ふのも好からう。

一、桑港の日本人街

桑港の同胞街は之を分けて三つの區域とする事が出来る。第一が上町日本人街で、第二が下町の夫れ、然して第三がサウスパークの同胞街だ。

▼上町日本人街

今から十年前頃まではゲリー街を中心としてゐたのだが、今ではポスト街のカーブからフキルモア街までを中心としてゲリー、サター、ブツシユ、バイン街に及び、扱はラグナ、ブキヤナン、ウエプスター街とを挟んで縦横に發展し展開してゐる。日本から米國に向ふ人は、桑港でも外國だから、右も左も白人計りで一寸一つ買物するにも困るだらうと思ふつてくるのだが、さて上陸して此處日本人町にと来て見ると、意外も意外!!!丸るで再び横濱あたりに歸つて来た様な感じがするほど迄、萬事が日本式に出来てゐるんだから、先づ聊かも不自由はないといふ事が出来る、まづ床屋もある、酒屋もある、日本料理屋もあれば、雜貨店もある、書店もあれば日本人教會もある。さては病院も、醫院も、通辯さんも、藥屋も、皆な悉く軒を併べてゐる上に、

往さ來るさの人々は、悉く之れ黄色倭軀の同胞男女の群れなんだから、此處を歩るいてゐる間は少しも外國にゐる様な氣がしないと云ふのも尤もな話した、と申してもし婦人の方なんぞが、日本着の儘で町なんぞ歩るいたら最後先づ所謂アメリカンナイズした同胞の笑を買ふは勿論、折柄通りかゝつた白人共が彼れは狂人ではあるまいかと目を見張るといふ譯で、町の氣分は日本人でも外側だけは何處までも此處北米合衆國の第一關門桑港たるの價値を失はないといふ次第、換言すれば米國氣分と日本氣分と米國の習慣と日本の習慣とが適當に按配されて一種變つた或る者を形作つてゐるが桑港上町の日本人街と言ふ事が出来るだらう。從來在留日本人の間にも色々八ヶ問敷く議論が闘はされ、米化運動の必要上是非撤回する必要ありと呼ばれてる日本字看板は相も變らず此處では大なる異彩を放つて甚しいのは長さ四五尺もあらうと思はれる白板に、金文字いかましい何々館、何々處、何々社なんぞと誌るされた奴が入口を掩つてゐるといふ次第だ、夫れは扱置き足一とたひ桑港の上町日本人街に入れば、買物其

他一切に聊かも困らない事だけは正真正正銘で偽りが無い事だけ申し上げて置く。

▼下町日本人街

其の第二は下町日本人街と稱するので、之は有名な支那人街と連続しデユポント街を中心としてグラント街、スタクトン街に及んでゐる。上町日本人街ほどに人口が密集してゐる譯ではないが、夫れでも相應の人々が居住してゐる、多くは美術店の經營者扱は旅館等で其他湯屋もあれば、理髮所もあり、書籍店もある。レストランの經營者もあり、料理屋もある、顧客としては同胞は勿論、白人も支那人もあるといふ譯で、各店舗仲々の繁盛を極めてゐる。更らに下町の名物ともいふべき同胞娯家も二三軒集を作つてゐる。

此處からは領事館や銀行或は在米日本人會等が近き上桑港第一流とも言ふべき同胞經營の小川、帝國兩ホテルも近くにゐるので、渡來された紳士淑女にして此處に宿泊する人も仲々多く、従つて日本人町も賑つて行く譯である。

其の第三はサウスパーク附近を中心とした日本人街で、此處は第三街の停車場が近いので、遠近から出て来る同胞達にも便利だし、扱は日本波止場に近いといふ譯で此等の人々を當て込んだ旅館が大分あつて再渡航者か寫眞結婚で上陸した妻女の人々は暫く此處に宿泊さる。

かく在留同胞は各々三個所を根據として發展してゐる譯だが、其の外靴屋だとか、スーツクリニングだとか、洗濯屋だとか言ふのは、白人住居區域内に散在して相當に繁盛してゐる。

▼旅館、書籍店、洋服一其他

桑港に上陸して先づ第一に尻を落ち附けなければならぬのは旅館である事は勿論だが、扱て日本人經營の者では先づ下町實業區域に近いほとりに小川、帝國の兩ホテルがあるが其設備結構共に殆んど完備し、白人第一流のホテルと比較しても夫程見劣りしないのは事實だ。然れば故國より渡米する紳士淑女諸君にして、此處に投宿する人

が甚だ多い。其他上町方面には名古屋屋ホテル、ミカドホテル等があり、サウスパークの方面には、永本防長熊本屋等があつて夫々同胞旅客諸君の便宜を計つゐる。更に書籍店に至つては上町に小野五車堂、青木大成堂、下町に日の本商店の三つがあるが、何れも揃つて内外の書籍を山と積んでゐて、始めて渡米した人々は内地にも之れほど完全した書店はないと驚く位だ。之れは反面に於ては在米同胞が如何に智識欲を有してゐるかを證明する者とも言へやう。

洋服店にはヒノエ組といふのがある。幾十年來營業して日白人間に多くの顧客を有しており、仲々評判が好い、殊に寫眞結婚で渡米した妻女達の爲めには廉價で流行の婦人服を提供するとの事だ。

誰しも米國に来て第一に困るのは、一寸した事故が起つたり、さては官憲の手續をせねばならぬ場合が生じた時なんだが、恁んな時には別次の廣告にある鈴木代理事務所にたのめば親切丁寧に凡てを解決してくれる。

保險加入者の爲めには米國最大の稱ある紐育生命保險會社特別代理人谷常男氏が便宜を計つて居る。

既に前項に於て述べた如く桑港には日本人經營の各商店は勿論、醫師も居れば、通辯も居るしといふ譯。凡そありとあらゆる事共を營業してゐるから、新渡米の諸君が聊かも不自由を感じないのは事實だ。

▼日本人料理屋

四千哩の波濤を越えた外國で粹な音締の春雨や秋の夜が聞かれると言ひ、さては閑靜なルーム裡に低唱淺酌といふ乙な處を發揮が出来ると申せば、知らぬ人は嘘と思ふかも知れぬが、實際なんだから仕方がない。

所謂料理屋といふのが上町に三軒、下町に一軒あつて、何れも數名の嬋妍たる佳人即ち酌婦と稱するのを抱え込み、風流を解する客を迎へては、時に或は浮いたくくのサンザめきをやらかし、時に或はシンミリとした情緒を發揮してゐる。

酌婦といふのは多く人の妻君で日本以來腕を磨いたと言ふ凄いのもあれば、亞米利加に來て比較的給金が高く、臨時の収入即ちポチなる者も這入り、且つは流行の装ひをこらされるといふので、遂い／＼此群れに這入つたのもあるし、扱ては止むに止まれの境遇上から身を落した者もある譯だが、感心な事には身を持する事だけは仲々に固たいとやらで日本の不見轉なんぞとは大分類を異にしてゐるそうだ。だから日本から來た紳士諸君なんぞが料理屋に上つて不見轉藝者を對手にした積りて黄金で言ふ事を聞かせる様なことしたら最後飛だ赤恥を搔いて引き下る事もあると言へば夫までだが其處は夫れ毎夜／＼男を對手に飲む、歌ふ、踊る、といふ客商賣だけに長い間にはつい義理も出て來れば、惚れた男の一人や二人は出來様といふもの、偶彼等の間に色々のもの事や夫婦別れ話なんぞが持ち上るのも無理はあるまい。

いや筆が横に反れたがさて桑港にある此の數軒の料理屋は仲々繁盛を極めてゐて、毎夜／＼歌舞管絃の音の洩れ聞えない事はない程だ。料理も東京あたりのそれと比較

して、決して劣らないとは故國から來た人々の萬更でもない賞め言葉だ。そして女共も比較的堅くてゐて仲々面白い處を發揮する譯だから、時に或は此處に遊んで孟子の所謂浩然の氣を養ふのも面白からう。

▼同胞と關係深き娛樂

恁んな見出しを掲げて見たが、扱て特別に同胞に關係の深い娛樂といつては、まあ無いと申しても差支へがない位、やはりオフユーム座に行つて白人と一緒にグオーダビルを見るとかフキルモア邊の活動小屋を廻り歩くとか云ふ位の者だが、強めて求むれば時々日本から浪花節の大家連がやつて來て御馴染の義士傳か俠客傳で大向ふをウナラセルかと思へば、新渡米歌舞伎大一座なんていふのが廻はつて來て、相當腕を發揮すれば同胞の群れは押しかけて行つてヤンヤ〜と大拍手大喝采をするといふ有様、もし夫婦打連れて金門公園やスコヤークを徜徉して孟子の所謂浩然の氣を養ふのは白人だつて何時でもやつてる事で、特別に日本人と關係があると申されぬは

勿論だが、家庭的の集會なんぞは全然日本の習慣其の儘で、正月のカルタ會なんぞの盛んな事と來ては大した者だ。更らに碁の會もあれば將棋の腕くらべもある。扱ては尺八の演奏會、薩摩琵琶の替古、御琴の御浚え、清元の披露會なんぞが催されるに至つては米國に居る様な氣はしない。

之を娛樂の部に入れるのは甚だ失敬かもしれぬか、もし日本から名士諸君がやつて來られて大演說會でもあらう者なら夫れこそ大變で、我れも人もと押しかけて行き定刻前には最早満員といふ大盛況を呈する有様。

あゝ我等は遂に大和民族なり矣。

一、盛んな活動寫眞

いや最も形容も出来ない位の盛況を呈してゐるのが桑港に於ける各活動寫眞場の有様であるが、各劇場の持主は尙ほ此の上にも客を引かふとして人氣のある役者の寫し

た優秀な寫眞を集めたり。扱ては場内をコンフォテブルに仕様と勉めたりして大競争をやつてるといふ譯だ。

一と口に活動寫眞と言つてもピンから切りまで數多くあるので、其上等なものになると建築の立派な事、場内の整頓してゐる事、第一流の劇場よりも寧優つてると言つて好い位なものに加へて、常に米國第一流の俳優が最近に演じた劇をスクリンに上せて紳士淑女を呼んでる譯で、幕の合間には四五十人より成るコンサートをして天來の音楽を奏さしめて居る。故に入場料の如きも四五十仙位は取つてゐるのだが、夫れで客は後からく〜と押しかけて行くといふ仕末だ。此の所謂第一流に屬する活動劇場の名を擧ぐればコーケフトに於けるキヤルフホニヤ、ポートル、インペリアル、さてはチポリ、キヤシノ等では是等では米國第一流の俳優即ちダグラスフェヤーパークス、マリーピツクホード、チャレーチャツプリン、ウキアムハート、チャーレスレイ、メリー、ミンダ、リ、アンギツシユ、ウキアムフアーナム。フランシスフオード、アールウキリア

ムス、ドロシーダルトン、ヘンリーウオールソール、さてはセタ・バラ、マガレットクラーク、ウキリアム・ラツセル、フワツテアーパークルなんといふ連中が最近に寫した者だけスクリンに上せるのだ。日本人唯一の活動俳優早川雪洲も又た是等の人々と伍して優るとも劣らない位の人氣が白人中にあるので、大凡そ全米國の人々で早川の名を知らない者はないといふ位有名になつてゐる。何んでも先生の目附きか素的にチャーミングなんだそう。白人の別嬪さん達がワイ〜大騒ぎをしてゐる。

さて是等第一流の小屋に亞いで拾五仙位の入場料で一寸した寫眞を見せるのもあれば、たつた五仙で相應に面白い寫眞を見せる小屋もある。

上町日本人街に近きフキルモア街には至る處に此の第二、第三流の小屋が設けられてゐて、盛んに客を呼んでゐるで夜なぞは同胞の群れが、或は夫婦さては朋友と三々伍々出入してゐるのを善く見受ける。其の内ニユーフキルモア座といふのは一寸ハイトンな處で寫眞も仲々新らしいのを見せてゐる。

一、桑港の暗黒界

▼巴里を凌ぐ夜の都

文明の利器は應用せられ、途行く人の綺羅びやかなる洗練された様を見ては、文明の有難さが思はるゝが、それは實は表面丈の事で、一步退いて其裏面に入ると、其腐敗墮落の驚くべきものあるは、何れの文明國でも免がれざる處であるが、就中黄金萬能の米國に於ては、其傾向の一層甚だしいものがある。

中でも桑港は、嘗て市政當局が其政策上積極的に自由政策を取つた關係があるの

で、其暗黒面の發展は一層甚だしきものがある。労働者の親分と稱せられ、在職中大分大つ腹な處を見せて、或る方面からはヤンキと騒がれた前桑港市長マカシーといふ男が、嘗つて放言して「桑港は全世界に於ける尤つともフリーの市にせねばならぬ。第二の巴里、いや、巴里よりも今一層暗黒の世

界、夜の都として自由自在に振舞はねば金儲けなんぞ出來つこはななんだ」と叫んだ事がある。誠や今から十年前までの桑港は、全世界中に於けるデムタウンとして其名を轟かせてゐた者で、賭博收賄は公然として行はれる、其の數實に十萬と稱せられた魔性の女共は、桑港の往來を我者顔に横行濶歩して、天下の遊野郎共を手玉に取つてゐたし、道路の角に設けられた酒屋は連日夜晝なく開放して放吟高談の聲四方を壓するといふ有様。もしそれ、其の名も高きバーバリーコーストの如きに、足を運ばんか、宏壯目を驚かす計りのビヤホールが建てられて、足一とたび其處に踏み込んだが最後、男といふ男が悉く誘惑され盡して、前後不覺となつて仕舞ひ、一杯一弗のビヤに財布の底をハタカされる位は朝食前、揚句の果てはノックアウトメーチンと呼ぶ魔薬をかきされ、生體不覺となつた處で、時計に指輪、さてはオーバコートまではぎ取られて、路傍に捨てられて仕舞ふといふ譯、やつと目がさめてあたりをキョロ／＼と見廻す頃には夜明け鴉が阿呆／＼と鳴いて通つてると來ては、全く以つて

堪つた者でなく、更らにグラント街とカネー街の間にある幾百軒の醜屈には、白粉の化者かとおもはれる海山千年の狐狸共が、巢を作つて往うさ來るさの張三李四共を鼠鳴きして呼び入れてるといふ仕末。もしそれ一寸とした珈琲店や支那料理屋に這入り込んでも、芝居や活動の中にも此等の妖怪共が必ずや一人か、二人は交つてゐるにいたつたは、誠巴里に優る暗黒世界。一體全體此の揚句はどうなつて行く事共であらうぞと、心ある人々をして憂慮せしめてゐた事だが、米國が正義の軍を起して獨逸に宣戦した頃から、俄かに所謂道徳家宗教家諸君が騒ぎ出し、斷んじて桑港市をクリンアツプせざる可らずなんぞと絶叫し始めたので、流石に警察や、市の當局でも、捨て、は置けず、それ淫賣狩り、それ飲酒家取締り、さては賭博者征伐と俄かに大騒ぎをした結果、今では大分リフワインされたとは、さて表向きで石川や濱の眞砂は盡きるとも、世に淫賣や賭博者の盡きた事としては無之譯で、其處はそれ蓋もあり、味もあり、底もあるのか世の中と申す者、需要があれば供給がある結果、仲々所謂夜の世界は賑

かな事である。

▼桑港の窟探險

桑港の暗黒界!! いや其處に巢を作る魔性共の正體は一體何んなものであらう。僕は之を説明する爲め、茲に僕がシャトル北米時事桑港主任として活動してゐた當時、自ら探險し得た事實談を紹介する事としよう。

それは忘れもせぬ千九百十五年四月八日の事であつた、豫ねて頼んで置いたグラント街の桂庵から『君が望んでゐた様な働口が見附かつた』と知らせて來る……『一體何處等近邊だい?』つて聞くと、グラント街の四百〇〇番でキヤルフォニヤ街の近くだといふ。

『善し來た』と計りで早速出かけて行く途中、つくづく思へらく待て暫し……俺の様な目玉の光る男が、づか〜と這入り込んで行つて『仕事欲しい』なんぞとどなりつけたら、商賣宿の女將先生氣味悪るがつて使つてくれないのは明らかだ……此奴は

一番工夫し直して、比立賓ボーイか支那人の積りで、談判開始を仕ると極め様……。

なんぞと考えながら、膝栗毛に鞭つてる間に、はや到着とござる。

トン／＼と梯子段を上つて行くと、すぐ衝き當りの部屋から五十格好の背の高い人の善さそうな婆さんが出て来て『何か用かい?』と聞くので、

『アナタの家でボーイが入るんですか』
わざとブローケン英語を使つて尋ねる。婆さん、すぐ相好をくすしてニコ／＼しながら、

『あ／＼入用な處じやない、實はボーイが無くて困つてるんだよ御前さんが働たらいてくれるんだつたら、至極好都合だね……して御前は日本人かい?』

『ノー／＼私し日本人じやない比立賓人です……日本人は元來大嫌ひだ』

『それや結構だ、實は此所に通つてくる客は大抵日本人計りだから日本語の分らないボーイを雇いたいと思つてゐたんだよ』

此んな會話を取り交はした後、到頭比立賓人に成り済まして、明日から毎日十時間宛働たらく事、日給は二弗と極めて仕舞つた。

痛快だな……蓋し痛快だな、愈々明日から此所に陣取りの……通つて来る張三李四共を覗き見た結果、すべてを新聞で素つば抜いてやらうといふ譯なんだ。日本人の助兵衛共がどんな顔して、毛唐の女に鼻毛を讀まれるかは素的な觀物でがなあらうて……。

四月九日昨夜通つて來た鼻の下長左衛門共が入れ代はり立ち代はり下等な欲望を充たしては大枚の黄金をしぼり取られたのは、奴等の御勝手としても、扱て部屋の中の亂雜と來ては御話しにならぬ位、此方の隅に鼻紙が巻煙草の吹がらと一緒に捨てられるかと思へば、彼處には汚れた手拭が四五枚もドグロを捲いてるといふ譯、其れをスツカリ奇麗に掃除するのが我輩の役目とある。觀じ來れば物好きとは言い條、情なくて涙さえ溢れぬといふ仕末、苟も天下の新聞記者、社會の木鐸先生たるの價値を落

「事抑も幾許ぞ……此のさまを日本に待つて可愛い奴なんぞにでも見せ様ものなら思はず悔やしめと泣き出すだらうてな事なんぞ考えながら鼻を摘んでは、片方の手で汚れたタオルを引つ掴んで扉の外にホリ出してると、

「ハロー、ハーネー今日はスミス婆さんが頭痛がするつて休んでるから、妾がメーキベッドのヘルプをして上げるわ」と大きな聲でドナル様に、かく言ひながら這入つて来たのは丸顔短軀の一寸した美人だ。

「イヨ一有難う。山の鳶鳥と申したい譯だね、美人と二人で床の掃除なんぞは洒落れ過ぎてるよ」

「オヤ……御前さん仲々乙な口を利くはね、ちよいと話せるわよ、そして御前さん一體何處人なの」

「ヒリツピンで生れて米國で育つたハイカラつ子だよ」

「うそを御つき。ヒリツピンには御前さんの様な目玉の光つた色の白い男はないわ

ジャブだらう、白状お爲よ……」

「日本人だつたらどう仕様つてんだい？」

「どうもしないさ、只だ可愛いがつて上げるわ……實はかく申す妾も日本人様の御蔭で金儲けをしてる女の一人なんだよ」

「そう碎けて出れば此方だつて白状するさ、實は毛頭偽りのない真正の日本人なんだよ……だが少し譯があるからスミス婆さんには内密にして置いて御くれね」

てな譯で、御茶を濁して置いて、扱て心の中で頗る驚いたね、流石は吳客越人を送り迎えの客商賣に従事しては、手練のありつたけを盡してる女だけに、我輩を一目見ただけで日本人様なりと観破した眼力は豪らい者だ、素的な者だ、堂々たる者だなんぞと飛んだ處で妙な事に馬鹿に感心してると、

「何をそんなに考へ込んでるんだよ……疲れたんだつたら休まして上げるわ」

美人先生は斯く言ひながら自分でも、ベッドの上に仰向けに寝ころだ上ポケットか

ら、巻煙草を出して吹かし始めたものだ。

「處でね、姉さんの名前わ一體何んと呼ぶの？」

「藝名スザンナと申しますよだ……本名は仔細があつて明かせないがね」

「何時から此んな商賣を始めたんだい？」

「數えて見れば今から丁度十と一年三日前さ」

「面白いかい？」

「つまらないわよ……嫌やだわよ」

「御父さんも御母さんも達者なの？」

「音信不通で御存じなしと來た者さ、最うとうに亡くなつてるかも知れないわ」

「姉さんは何處で生れたんだい？」

「ボン／＼ながら、之れでも紐育の眞中で生聲を上げた本物のビュリタンだよ」

「ビュリタンは善かつたね、そして本年取つて幾歳なんだ」

「オヤオヤ御前さん頗る委しく戸籍調べを始めたんだね……一體何んでそんな事を聞たがるんだい？妾に結婚でも申し込んで櫻咲く日本に新婚旅行と洒落りたいなんて寸法かい。ナラ何時でもプロポースに應じて上げるわよ」

仕舞つた……成程之れは餘りくど過ぎた。此處では、折角の計畫が水泡に歸する譯だとあつて、それから先きは甘い工合にスザンナ嬢クンをごまかした上、二人で合計十三の部屋を掃除し終つたのが午後の四時半。

四月十一日。一昨日以來スツカリスザンナと仲好しになつて、隙さへあれば奴さんのルームに行つては、色々な事を聞いてやつた。女將のスミス婆さんは墨國人の血を受けた女で、此んな商賣屋の主人には珍らしい程御人好しだといふ事、此處には女共が五人居て、何れも日、白、黒人の區別なく客を取つてるが、たゞ其内エパンスといふ女と、スザンナだけは、日本人を専門にして決して外の客には出ないといふ事、さては御馴染の日本紳士諸君の名前を片つ端しから上げて行つてAさんは領事館の役

人で、Kさんは會社の重役で、Sさんは商店の支配人で、Tさんはホテルの主人だなど、僕を新聞記者とは御存知なしの打明け話し……思へば罪な話しである。

だが此奴等は大抵我輩の仕事が終へて宿に歸つた後、即ち午後の五時頃から夜半の二時頃までの間に通つて來るので、助兵衛顔を隙見してやる機會が仲々ないのは癪でもあれば、残念な話しだ……。

四月十二日。十一時半頃ホールに衝つ立つて新聞を讀んでると、三番の部屋からエバンスが出て來て『御早よう……チャーレー』と聲をかける。面倒臭いから返事をしないで居ると忽ち驅けて來て、嫌やと言ふ程我輩の耳を引つ張る。

『失敬だな君はさ……僕は君の情夫じゃないよ』

『御前さんこそ失敬じゃないか、人が挨拶して上げるのに何故黙つてるのさ……然かも妾はアメリカンレディーだよ』

『やあ之れは恐れ入つたね……成程米國の令嬢か……ジャグドモーニングだ……フ

ン』

『オヤ但し附きの御早うと御負けにフン附きかい、そんな御早うなら要らないよ』

『要らなきや何時でも返して御呉れ……』

『ホ……全く御前さんはヘラす口だよ、流石のスザンナ嬢も叶はないわ』

と言ひも終らぬ間に、又たしても我輩の耳をウンと引つ張つて逃げ出して行つた畜生、實に失敬な奴だ。

四月十三日。やつて來た……やつて來た。

午後三時半、我輩がバーラーで一と休みな仕つてると、トン／＼梯子段を上りつゝ、意氣昂然やつて來たのが、〇〇用達會社のマネージャーで相當に人に知られてるTOKUNとある……。すぐスザンナの部屋に行つて扉をノックしてる内に中から聲がかゝると、コン／＼とルーム内に消えて仕舞つた。

好敵ムんなれ!! 此奴一番どうかして、ルームに這入り込み、奴さんのヤニ下り面を

眺めてやり、鼻の下の長さ加減を見てやらねばならぬと思案してると、此は又た渡りに舟!! ヒョッコリとスザンナが出て来て、

「チャレー濟まないけど、ビヤを二本計り持つて来て御くれ」
と言ひながら、ニコ／＼してる。

「いよう御楽み様……彼奴が御前さんのスキートハートかい」

「人……誰れがあんなデレ助なんぞに……妾の可愛い日本の情人は外にあるんだよ」と行つて仕舞つた後で、かく申す我輩がビヤ瓶とコップを御盆の上に載せながら、恐る／＼ルームにと持ち込むと、〇〇クン一二度の面識だけに我輩を忘れて仕舞つてるので真逆新聞記者が女郎屋のボーイをしてるとも思はなかつたらしく、一寸我輩を尻眼にかけただけで、頻りにスザンナの機嫌を取り始める。

「スザンナ……ビヤを抜きませうか？」

言葉さへ早めてかく尋ねると、

「ブリース、チャレー……そして此の紳士に差し上げておくれ」

とある。畏つたと計りで、早速栓をぬいてコップに注いだ上、

「何卒召し上れ……」

わざとブロークン英語を使つて勸めると、〇〇クン傲然として之を受取りながら、一と息に飲み干したかと思ふと、いきなりスザンを抱き寄せて、フザけ始める……畜生真裸にされるとは知らないで、好い氣になつていやがると、可哀相でもあり、癪にも障つてるとスザンナが、

「御前さんチャレーにボチを御出しよ」

と言ひ出したと思ひ玉へT〇クン、ポケットから五十仙銀貨一枚をつかみ出して、我輩に投げ出してやるじやないか。茲處に於いてか、我輩は遂ひに肝臓玉を破裂させて仕舞つた。

「オイ／＼ふざけるない、一體君は我輩を誰れだと思つてるんだい。知らなきや言つ

Shim 6.2

て聞かせるが、實は新聞記者なんだよ。そして君等の様な助兵衛先生のダラシの無加減、國辱のさらし加減、さては眞裸にされ加減を、探つてやらうと思つて、わざと恁んな處にボーイに住み込んだだよ！君が〇〇會社のマネジャーと言ふ事迄で、ちやんと心得てるんだ。二三日たつたら新聞で素つ破ぬいてやるから其積りで今から覺悟して置き玉へ……五十仙銀貨は、謹んで御返上な仕りますよ』

いや〇〇クン驚くまい事か忽ち赤くなり、青くなつたりしてゐたが、やがて涙さへ浮べて、ブル／＼顫るへ出して仕舞つた。

此一編は著者が其當時北米時事紙上に掲げて熱狂的歡迎を受けたものである事を附記し置く。

▼レストランとカフェー

流石は、世界でも流行の魁を競ふといふ桑港たげに、飲食店や、カフェーなんぞにも、大した者が多くあるのは事實で、其の中の一二の如きは、巴里や、紐育の眞中に

出しても、立派に第一流と威張つて通せるのもあるといふ。何がさて、千人位の御客様は何時でも平氣で御迎へ申すと言ふんだから、内地などで想像する事は出来まい。

さて此處等に這入り込んだ以上は、何處までも米國の流義に叶ふ禮式作法を取つて、卓に就いた上、極つた給仕には相當の心遣ひもしてやり、且つは作法に叶つた食事法を成すべきは勿論で、殊に婦人携帶の場合には、エスコートルームに這入り込むのを忘れてはならぬといふ譯だが、中には頗る自由を極めた所もあつて一寸向ふ側のテーブルに腰かけてる別嬪さんと、合圖の一つで意氣投合なんて事もあれば、ダンシングガールを奥まつた一室に呼び込みの早速妙な談判の開始さへやらうといふ者、然し、此れには餘程慣れがした上、時と場所と向ふの女の風采や、態度を見てかゝらぬとひどい赤恥を搔く位は愚な事、米國のレディーを馬鹿にしたと計りで、巡查さん呼びだすなんといふ頗る危険な事が起らぬとも限らぬ次第だから、御用心が肝要である。日本から來た紳士諸君が、旅の恥は何とやら、一寸一夜をてな寸法で樂しみたいな

んどいふ考えを起したら、其の道の通人で慣れて慣れ切つた上、女の見分けから、萬一の場合に御巡りさんの禦し方まで、萬事を心得た案内人を頼んで、之れに一切を任せさへすれば安全だが、其れでなくてカフェーなんぞに這入り込んだら、例令美人連が、どれほど妙な眼附きをして一切知らぬ顔して楽しく食事を済して歸るべきで、もしヒヨツと妙な助兵衛心なんぞ起したら、前申したひどい目に逢ふ譯だから、斷んじて手出しなんぞしてはなりませんぞ、と返すくも注意して置く。

話しが横道に反れたが、さて此等のカフェーに這入り込んで、卓に就けば、すぐ給仕人がやつて来るから、先づメニューを見て相當のオーダーをした上、いける口なら先づ好い酒でも取り寄せてチビリくとやりながら、奏せらるゝコンサートや、獨唱や、さては窺窺たる佳人連の踊りでも見て、食事をすまし、靜かに歸つて来るので、ウエターには心附けの五十仙もやれば、親切に取扱つてくれ、歸りがけには外套もきせてくれるし、又たいらつしやいの、二三度は言つてくれ様といふ譯だ。

若し夫れ、今申した如くカフェーの或る一部に這入つて大好きなチンカクテルかなんぞに陶然としながら、二階から給仕人に紙に書いた物と興えて好きな美人を呼び込ましめた上、一と口二た口交はず間に凡ての交渉が成り立つて自働車を呼び寄せの、遠出まで試み様とするには却々の藝當を演せねばならぬので、此れ計りは其の道の立人を東道の主人に頼むより外には方法はないのだ。

▼カフェーの女

(その一)

かう申せば米國のカフェーは、堂々たる立派な社交機關の様にも見えるか、裏面といふものは何處も同じで、就中カフェー女と來ては、日本以上に淫靡を極めたものである。今一例として著者の一友人が遭遇した事件を紹介する。假に一友人を俊一と名けて置く。俊一はフト目が覺めた。頭が岑々として痛む、咽喉が焼ける様にかわく、『苦るしい……』